

四 元禄九年一月、十二月

〔表紙〕

元禄九年

万覚帳

子正月朔日、同十二月晦日迄 土屋次

〔郎左衛門〕

元禄九 丙子年

正月朔日

同 二日

同 三日

一 轟木村五兵衛娘、同村三郎右衛門妻ニ而有之候
処、去六月ニ離別仕同極月ニ子を産候ニ付而、
其子三郎右衛門方打付母行方知不申候ニ付、右
之子を五兵衛方・三郎右衛門方ニも置不申双方
論、置方無之由ニ而、庄屋助右衛門断ニ参候

同 四日

一 轟木村三郎右衛門・庄屋長百姓呼寄、右之詮儀
仕候へハ三郎右衛門申上候ハ、去六月ニ少々い
さかい仕候へハ右□女親五兵衛方へ引取申ニ付、
作毛修理時と申其上懐胎も仕候女之事ニ候へハ、

三郎右衛門方へ参候様ニと助右衛門母を以申越
候へ共、五兵衛方、越不申候ニ付、只今子を産
仕候とて私構不申候と申ニ付、左様と申ながら
渴命ニ及申との事ニ候へハ、村中として嘸候而
何とて少々合力を仕候様ニと三郎右衛門ニ申付
返し候

一 矢地村靈順呼寄、先月廿九日ニ先妻さくといさ
かい仕さくを打擲仕候由断申候得共、大年之夜
之事ニ候故先村として介抱いたし置候様ニと申
付候故、あるき太兵衛方ニ指置候由、気分能成
候迄者飯米あてかい養申様ニと申付候へハ靈順
申候ハ、尤何様ニも養可申候、只今ハ私も得心
仕候間跡之通夫婦壺所ニ罷有申度と願申候

同 五日

一 舟寄へ年頭御礼ニ参、坂井郡・大野郡与頭不残
於御陣屋ニ御雑煮御吸物ニ而為御名代と八九郎
様面々御盃被下候、御役人様へ御礼相済舟寄ニ
泊り候

同 六日

一 八九郎様金津大宮彦右衛門様へ為年始と御越ニ

〔大宮茂富・福井藩金津奉行〕

付「」今日御礼申上候、長田源左衛門・大牧村「」様御とかめ被成候儀、八九郎様「」二付御免可被成由被仰候二、付源左衛門・「」我々も金津泊り罷有候

正月七日

一長田源左衛門ハ金津へ参候へ共、三太夫石田参候由ニ而不参候ニ付、源左衛門斗同道ニ而三田村六右衛門殿へ罷出御礼申上、其上三太夫宿ニ不罷有候由御断申上罷歸り候

一矢地村作^(又)ニ靈順と跡之通そい申様ニと異見申候得共聞入不申候ニ付、あるき太兵衛氣分之事相尋候へハ能候由申ニ付、太兵衛方ニ而養申間敷候、其上何事を異見申候而も聞訳不申候間、さく宿仕者ニ様子可申渡候間村中相尋候様ニと申付候口書取申候

同八日

同九日

一矢地村靈順願狀指上申候留書有

一轟木村五兵衛出入村噯ニ而相済不申候由申ニ付、然ハ書付を以可申上候、取次可申上由申渡し候

一御役人様在々御用ニ御出候而御泊り被成候ハ、上下式人壺夜御泊りニ錢百貳拾四文之内ニ而御ふち米壺升、御定之木錢御上ハ貳拾七文下ハ拾三文、味噌代錢を直段次第引取相残分ハ酢・醬油・菜・大根・牛蒡・肴代ニ仕、年内之指上候証文書直し指上候様ニと被仰付候

覚

一米四升代錢百貳拾六文、但四斗六升表、錢貳拾壹文積り

一木錢百六拾文、但御上ハ壺人ニ貳拾七文、下ハ壺人ニ拾三文

一味噌五合代錢貳拾八文

一酢・醬油・菜・大根・牛蒡・肴代錢百八拾文

ノ四百九拾六文^(又)

右ハ拙者と下亥御年貢御取立ニ御出被成、亥十二月十三日之晩ハ同十七日之朝迄四宿り御逗留被遊候ニ付、御賄之義諸色御買立被成候ニ付右之代錢慥請取相済申候、少ニ而も御馳走ケ間敷事不仕候ニ付右之為入用と与下村々へ少も割懸ケ申間敷候、無益之人馬御遣不被成勿論音信音物少も指上不申、不依何費ニ罷成候事一切無御座候、且又御上下共ニ於村方ニ御無作法之義毛

頭無御座候、為後日証文指上申処仍如件

元禄八年亥十二月十七日

前谷村与頭
二郎

左衛門 印

高嶋藤四郎様

一米

一木錢

一味噌

一万代錢

ノ 四百九拾六文

右ハ亥十二月廿一日之



の同廿五日之朝迄、右

文言同断自分印判指上候

公事日御定

朔日・四日・七日・十一日・十四日・十七日・

廿一日・廿四日・廿七日、右之通御定之由被

仰付候

正月十日

一轟木村三郎右衛門・五兵衛出入之事、三郎右衛

門の銀七匁□し半表相渡し、先当分五兵衛方

二而産子養申様ニと村中相談ニ而噺申候、村ニ

而承引不仕御断申上候共御聞上無之様ニと為断

助右衛門・長右衛門・伝兵衛参候、則五兵衛参

何角と申候得共村の断之通申聞候、夫とても出
入ニ可仕との事ニ候ハ、訴状を以可申上候、早々
舟寄へ可申上候、次ニ右の段々偽り無之との
誓紙を五兵衛書候ハ、其子三郎右衛門養可申と
三郎右衛門申ニ付、訴状を以出入仕候か又ハ誓
紙書候か、右両用五兵衛望之通ニいたし候様ニ
と申聞候へ共、両用共ニ罷成申間敷候と申五兵
衛申候ニ付、右之子ころし不申候様ニと堅申付
候

御用木

御用木ニハ如此
二ツ打申候

運上米ニハ如此
壹ツ打申候

三州鷲塚湊

大岡屋 治左衛

江戸本石町四丁目

岡村屋 忠五

江戸本石町壹丁目

大文字屋新右衛

門

右ハ飛驒国の出候御用木并運上木ニ印候木印鑑

ニ候間、入用有之角木・丸木ニ不限材木買求候

節致吟味、右之木印有之木不可調、若穩便之沙

汰ニ而調之候由重而令露顕、当人者不及申ニ庄

屋長百姓曲事ニ可被仰付候条、兼而小百姓ニも

委細為申聞不念有間敷候、此廻状村下二庄屋印
判いたし順々ニ早々相廻シ、留之村ハ最寄之組
頭方迄可相返候、以上

子正月五日

木内

八九郎 印

坂井郡

村々 印

右之趣各与下村々心付無懈怠可被申付候、此書
付何茂判形致重而可被相返候、以上

後山村

茂 右

衛門 印

前谷村

二郎

左衛門 印

舟寄村

善 右

衛門 印

正月十一日ニ舟寄村善右衛門方へ遣し申候
各組下村々之内山手銀・川役等之小物成銀、米
作村ハ請取上納いたし候歟、或ハ他村へ相納候
か或ハ請山・請川年貢ニ而も取やり有之分ハ委
細村切ニ書付、尤同御代官所ニ而も御料・私領
ニ不限取やり有之村ハ其趣書付可申候、急用ニ
候間無油断相認来ル十七日迄之内指出シ可申候

一犬・牛・馬毛付書付帳面出し可申候、田畑永引

反歩委細書付、尤右砂入当荒之場所も段歩書付
帳面出し可申候、此分来ル二月十日以前迄ニ指
出し可被申候

右書面之通難心得義有之候ハ、平庄屋ニ而も埒
明候もの可被指越候、其節委細申含可遣候、以
上

正月九日

木内八九

郎 印

後山村

茂 右

衛門殿 印

前谷村

二郎 左

衛門殿 印

舟寄村

善 右

衛門殿 印

尚々此書付致判形留村ハ重而可相返候、右之御
廻状正月十一日舟寄村善右衛門方へ遣し申候
一矢地村靈順妻、我等矢地村を払候由御断申上候
へハ、十七日迄我等方ニ指置候様ニと舟寄ニ而
数右衛門様被仰付候由申来候ニ付矢地村を払不
申、当七日ニ矢地村へ参靈順も跡之通添申度と
願候間、中直り申様と色々異見申候得共承引不

仕候ニ付而、只今迄罷有候宿可有候間相尋候様
ニとあるき太兵衛ニ申付候、則段々之様子其座
助右衛門罷有承候ニ付、助右衛門ニ口書為仕数
右衛門様へ指上候

正月十一日

一権右衛門後山を直ニ舟寄へ年頭之御礼ニ参候ニ
付、靈順召連参候而、靈順願状・矢地村助右衛
門口書共数右衛門様へ指上候へハ、十七日ニ右
之者共召連参候様ニと被仰越候

一昨日之御配符之趣今日村々へ配符ニ而申ふれ候

一東長田源左衛門・大牧三太夫義ニ付諸事御免被
成候、為御礼明十二日ニ金津へ与頭中不殘罷出
候様ニと八九郎様御意之由、舟寄善右衛門を廻
状参候

同十二日

一金津へ参与頭中同道ニ而彦右衛門様罷出候へ共、
(大官茂富・福井藩金津奉行)

御気分悪敷由ニ而御逢不被成候

一數右衛門様を矢地村庄屋長百姓・靈順召連舟寄
へ早々参候様ニと御配符、下関を金津へ持参仕
候ニ付金津を罷歸り候

一矢地村へ参庄屋長百姓ニ逢候而、靈順と妻出入
御聞可被成由ニ而明日舟寄へ参候間何れも可被
参候、就夫何様ニ可被仰付も難斗候哉、村中も
如何様共相談被致候様ニと申候へハ、村中寄合
相談いたし明日様子可申との事ニ候

一靈順ニも右之段申聞候へハ、とかく御公儀様へ
御苦勞奉懸も迷惑ニ候間、何様ニも村中へ誤り
証文相渡し可申候間、何とそ下ニ而相濟候様ニ
と村中へ断申候

同十三日

一靈順夫婦・矢地村庄屋長百姓めしつれ舟寄へ参
候へハ、右之出入嘸可申庄屋長百姓申上候而嘸
ニ懸り罷有候

正月十四日

一靈順出入嘸ニ而相濟候ニ付、御公儀様へも段々
嘸之趣証文御取被成候ニ付我等方へも証文取申
し、并靈順夫婦を村中へも証文取申し候而出入
相濟、夜ニ入舟寄を罷歸り候

同十五日

一 十楽村五十郎并うはと申女房参候而、右女之
 い久三郎と申者心入悪敷者ニ而、村立寄不申候
 間村追放仕度由断申二付、一門村中共左様之存
 知ニ候ハ、願状指上可申候、取次可申由申付候

同十六日

一 小物成他村を取遣り相改村之判形取申候、并馬
 改帳之義も村々へ申渡候

一 布目村へ参候処十楽村五十郎・彦四郎道ニ而相
 候得ハ、久三郎義村払申二付而ハ、去年七右衛
 門方へ盗ニ入申候贓物之内不足いたし候間、家
 を為売候而も贓物不残取候て払申度と彦四郎・
 七右衛門断申二付、此方を払申ニ而も無之候へ
 ハ、村ニ而せんきいたし申様ニと申付候

同十七日

一 最前御廻状ニ而被仰触候御用木之御廻状ニ、菅
 野久左衛門印判之押様悪敷候二付、舟寄へ被召
 寄候而手錠被仰付候由ニ候

一 小物成取遣り之帳舟寄へ指上候へ共断書無之ニ
 付御返し被成候

覚

一 不限乞食・非人、惣而行衛不知者堂宮ニ一刻
 も不可指置早々所之者有合払可申候、其節我
 か儘成義申候ハ、村中立合住所之村聞届、其
 村へ送届庄屋長百姓ニ可相渡候、若出所不知
 者ニ候ハ、とらへ置陣屋注進可有候、随其品
 ニ口留御支配方へ相断可関所越候

一 村々ニ而辻番所拵置昼夜番人附置、不審成者有
 之候ハ、鳴を立村中立合とらへ候而其者住所
 聞届、是又出所之庄屋長百姓相渡シ可申候、若
 番人令由断不審成者見遁候歟、鳴をも不立其通
 致置候ハ、当勤之者急度可申付候、番人鳴立
 候節村中之内ニ而若不出合者於有之者早々可申
 来候、其者急度可申付候、右之者出所難知候ハ
 、是又とらへ置注進可有候

附、村々火之用心堅可申付候

一 村はつれ等ニ而人声不審ニ相聞候ハ、近所之村
 人家別ニ出合、追はきにて有之候ハ、搦捕陣や
 迄可申来候、村近所ニおゐてなり立候をも其通
 りニ致置、其所之者不出合虚事有之候ハ、近
 所之庄屋長百姓詮儀之上可為越度

一 兼而申渡候通博奕之儀可為禁制、若一錢之儀ニ
 而もかけの諸勝負致候者隠置候ハ、当人ハ不及

申庄屋長百姓急度曲事可申付候、且又酒宴・遊興・惣而百姓不似合遊芸堅停止可申付候

附、農具支度之儀由断無之様百姓へ可心を付申候

右廻状之趣令違背者有之候を隱置後日相聞候ハ、庄屋長百姓可為越度候、此廻状写置小百姓・水吞迄読為聞可申候、尤致判形早々相廻し留村と与頭方へ可相返候、廻状村次致遅滞候村有之候ハ、追而僉義之上可申候、以上

子正月九日

木内

八九郎 印

右之御廻状村々へ直ニ被遣村々庄屋判形仕送り候

舟寄村へ捨候人形并衣類覚

一男子年八九歳斗捨子ニ相尋候得者十歳之由申候得共、見分ハ八九歳ニ相見へ候

一顔ほそ長クはなひらけ

一髪ハはさミたる跡ニ見へ候

一もめんあさき白つき(浅黄)古布子壱ツ

一もめんつきく古ひとへもの壱ツ

一もめんつきく古あわせ壱ツ

一帯もめんきれく古つき

右之通当月十四日ニ舟寄村捨子まよひ来候、御

代官所村之内ニ而捨候者在之候ハ、早々舟寄村

へ罷越捨子うけ取可申候、若其通ニいたし置捨

主脇と露頭候ハ、僉儀之上急度曲事ニ可被仰

下候条不念有間敷候、先達而申触候通村々ニ而

番小屋拵置、昼夜番人付置不審成者相改、火事

用心之儀ハ不及申捨子在之候ハ、連参候者と

らへ出所相尋在所迄送届、先村々庄屋長百姓急

度相渡証文取可申候、若つれ候人も無之候ハ、

捨子様子相尋、是又出生之村へ召連庄屋長百姓

相渡証文取之可申候、右捨子出生不知儀候ハ、

其内不飢様ニ養置出所聞出次第相返し可申候、

若飢末之儀在之飢死候由令露頭者庄屋長百姓可

為曲事候、此廻状村下印判いたし留村と組頭へ

可相返候、以上

正月十六日

木内

八九郎 印

右之御廻状村々へ直ニ被遣候付庄屋共印仕候

一十楽村久三郎村追放可仕と申二付、七右衛門去

年被盜候賊物返し不足之事断申二付、右之久三

郎を五十郎与と七右衛門ニ相渡し申二付而、迷

惑之由三国迄申来り候二付、村中立合吟味仕可

返贓物ニ候ハ、返し可申処ニ、昨日申渡候村中
せんきも久三郎、七右衛門ニ相渡申事不可致候
間、せんきの内伯母^(マコ)うはニ預ケ置せんき仕候様
ニとはいふをそへ七右衛門を返シ申候

正月十八日

一 菅野村久左衛門舟寄手錠被仰付候由申来候付、
舟寄善右衛門殿へ御詫言被致被下候様ニと書状
遣し候

同十九日

一 三国逗留いたし候

同廿日

一 三国を罷り帰り候へハ舟寄善右衛門書状菅野を
持参仕候ニ道ニ而相候而、直ニ菅野久左衛門方
右之段々ニ而手錠被仰付、久左衛門を村中預り
申由証文為致舟寄へ指上申候

同廿一日

一 右指上候小物成取渡し之帳ニ断書仕舟寄へ指上
申候

一 久左衛門預り証文、久左衛門与惣百姓斗之証文
ニ而指上候様ニと被仰越候ニ付、書かへ菅野村
ニ而判形仕、明日舟寄へ持参仕候様ニと申遣候

同廿二日

一 菅野村久左衛門手錠之御詫言ニ舟寄へ参、則菅
野村庄屋長百姓も参候得共御免不被成候、久左
衛門与惣百姓預り証文指上申候、預り証文之留
有

一 昨日指上候小物成銀取遣り之帳断聞へ不申候由
ニ而、御返し被成候ニ付村々へはいふ遣し候

一 中川・田中・北野・谷畠普請願帳数右衛門様へ
指上申候、笹岡村之帳ハ去年指上申候、其外普
請願申村々ハ重而願帳指上候様ニと被仰付候

一 去夏山田安兵衛様村々御廻り之節、掘かへ之江
願申村有之由江戸を被仰越候間、相尋候而願上
ケ申村有之候ハ、書上ケ候様ニと八九郎様被仰
付候、然共拙者与下ニ左様之願申上候村無御座
候と申上候、舟寄を罷帰り候

一 去秋与兵衛様^(六倉・舟寄代官)へ指上候越前国中之絵図書かへ少
分書指上候様ニと被仰付、本絵図御渡し被成候
ニ付請取候

同廿三日

覚

一去亥夏山田安兵衛様丸岡御用ニ而当国へ御出被遊候時分、坂井郡之内村方へ江筋掘替願出候由各与下村々庄屋長百姓相尋、有無之断来廿五日迄之内ニ可申越候

一去亥御年貢取立之義、半金納金高何程之内相納候訳一組切別紙致目錄分当り共ニ書付、面々判形ニ而来廿九日迄之内可被指越候、右ハ從江戸御尋ニ付御屋敷へ指越候間其心得ニ而遣可被申候

一当春御廻米積候船自累年早ク三国湊へ参着可申候間、其心得ニ而年内蔵納米員数、支配方へ証文出候通不着無之様ニ可被致候、来ル二月至早々支配方可被相廻候間油断致間敷候

右廻状名所致印判順々相廻、留り村へ可相返候、以上

子

正月廿二日

木内

八九郎 印

坂井郡与頭六人

右ハ早々後山へ直ニ遣し候

一小物成銀他村へ取遣り之義委敷相改、帳面書直シ判形取申候

一十楽村久三郎逐電仕候由庄屋五十郎・七右衛門断ニ申ニ付、其段断書指上候様ニと申付候

一右江筋掘かへ山田安兵衛様へ願申上候村御尋之事、北村・中川・田中・笹岡・菅野・山室・宮谷・青野木・西方寺・十楽・清王・高つか村・谷畠へハ庄屋中へ直ニ相尋候へ共、右村々ハ江筋ほりかへの事願不申上候、其外村々へハはいふニ而申遣し候

正月廿四日

一谷畠村茂兵衛庄屋上ケ申度願ニ付、同村平左衛門二段々申渡し候

同廿五日

一菅野村久左衛門御託言、庄屋長百姓召連舟寄へ参候へ共御免不被成罷歸り候、就夫久左衛門度々

庄屋仕候儀書付指上候様ニと被仰付候ニ付、十右衛門ニ様子相尋候而覚書我等判形ニ而指上申候趣ハ、久左衛門庄屋拾八九年以前へ仕候処、七年以前午ノ年与頭と少々出入仕、其外五ヶ村

与頭を放六ヶ村と申与頭ニ付不申候、五年以前
申ノ年先年福居御領之節菅野村追放被仰付候茂
左衛門と申者立返り金津弥介と出入候、御取次
久左衛門仕候ニ付庄屋被召上候而半右衛門与ニ
而罷有候処、去々年戌年半右衛門と算用相ニ少々
申分仕、去夏中ハ高百八石之庄屋仕候と申上候
一去亥夏山田安兵衛様へ江筋掘かへ之義願申村、
拙者と下ニ無御座候と申証文我等判ニ而指上申
候

一去亥御年貢年内上納金、惣組寄壺下り壺紙物ニ
而指上候様ニと被仰付候

一小物成銀取遣り帳次第悪敷由ニ而又御返し被成
候

一中川・田中・菅野伏樋之願状数右衛門様へ指上
申候

一十楽村久三郎義村逐電之由申上候へハ、諸事委
細吟味仕書付指上候様ニと被仰付候

同廿六日

一十楽村庄屋共参候ニ付右久三郎段々吟味いたし
書付証文共相究、五十郎・彦四郎ニ為持藤四郎
様へ指上申候、埒明罷歸り申候、書付共留書有

一小物成取遣り之判形并年内上納金御手形、廿七
日八日ニ庄屋持参候様ニと申遣候

同廿七日

一村々庄屋中被参候分ハ諸事申渡し候

一西方寺村太兵衛庄屋代り申度由、代り庄屋十右
衛門相立候由願状指上候

一菅野村久左衛門御詔言ニ菅野村庄屋中召連候而
權右衛門舟寄へ参候、逗留いたし候

正月廿八日

一下関村百姓之内四人四・五日之内ニ江戸へ参候、
御用候ハ、可被仰付由ニ候

一昨日ハ今日迄村々ハ年内上納金之御手形相改判
形取申候

一鉄炮高札之板式拾壺枚、諸勧進高札板式拾壺枚、
出村吉左衛門方ニ詔置申ニ付、谷畠村人足ニ取
ニ参候様ニと申遣候、代銀拾匁谷畠村武兵衛ニ
相渡し申候

一馬場村田地請作人無之候由断、庄屋方ハ申付而
村中之者他領他村之田地請作不仕居村之田地を
請田可仕候、居村田地下シ田無之候ハ、何分も

他村之田地を請作仕候様ニと申付候

一舟寄の権右衛門罷歸り、久左衛門不調法申上候
ニ付手錠御免不被成、久左衛門存知の口書為致
指上候様ニと被仰越候ニ付、菅野村へ参久左衛
門ニ様子相尋候へハ、何様ニも被仰付候義相背
申間、敷候間御詫言仕くれ候様ニと我等方へ願
状出し申ニ付、久左衛門与之者之願状も取申候、
手前ニ有

同廿九日

一久左衛門御詫言之願状我等方迄出し候ニ付、内
談ニ数右衛門様迄遣し様子奉窺候
一小物成銀取渡し帳壱冊、但留帳有

覚

一金七百八拾六兩貳分

右者拙者と下村々亥御年貢之内半金納・夫米・
小物成・万浮役・江戸浅草御蔵前入用・御口銀
米、都合銀辻之内亥秋初納の同極月廿八日迄度々
上納金御手形之表を以相改、書付指上候処少も
相違無御座候、以上

元禄九年子正月廿九日

前谷村与頭

次郎

左衛門 印

御陣屋

右之通壱紙物ニ而指上候

一久左衛門願状壱通、与之百姓願状壱通、小物成
取渡帳壱冊、年内取立金書付壱通、菅野村人足
ニ為持数右衛門様迄指上申候、右御請取被成候
由御報被遣候

一鉄炮高札板廿壱枚、諸勸進札廿壱枚、出村吉左
衛門の加戸村与左衛門ニ言伝遣し候

一右札板之代銀拾匁請取候由吉左衛門手形谷畠村
の遣し申候

正月晦日

一小物成取渡之帳他村の山手銀相立申者之判を持
指上候様ニと、数右衛門様の後山茂右衛門殿被
仰越候、則村々へ申触候

二月朔日

一右之判形取申候

同二日

一菅野村久左衛門御詫言舟寄へ参候得共相済不申
罷歸り候

一西方寺村太兵衛庄屋替り願状指上候へハ、跡庄
や十右衛門ニ証文可被仰由之仰候ニ付、明三日
ニ舟寄へ参候様ニとはいふ遣し候

一 数右衛門様村々ふしん所御見分ニ下兵庫へ今日
御出之由、明日谷畠村へ御こし可被成候間其心
得候様ニと谷畠へ申遣し候
一 小物成他村へ取渡候帳指上申候

同三日

一 数右衛門様下兵庫へ御出被成、谷畠・菅野・矢
地・北野・笹岡御普請所御見分被成候而前谷村
ニ御泊り被成候

一 菅野久左衛門義段々数右衛門様へ申上候

松丸太・真竹入札覚

一 松丸太長三間、末口三寸、壺本ニ付代銀
一同式間半、末口式寸五分、壺本ニ付代銀
一同式間、末口式寸、壺本ニ付代銀
一同壺間半、末口壺寸五分、壺本ニ付代銀
一同壺間、末口壺寸、壺本ニ付代銀
一 真竹長式間を三間迄、但三寸廻り、百本ニ付
一小から竹百本ニ付代銀

右松丸太・真竹為致入札来ル五日迄之内可被指

越候、当年御普請所ニ遣候竹木ニ候間其心得ニ
而村々へ入札取揃早々可被指越候、若村方ニ而
入札致候者無之候ハ、ふしん有之村ニ而買調
候積り書付早々可被指越候、急用ニ候間無遅候
様ニ可被致候、以上

二月三日

木内

八九郎 印

与頭中

右之通早々申触候

同四日

一 数右衛門様舟寄へ直ニ御帰り被遊候

一 馬場村下シ田余り申由庄右衛門断被申ニ付、村
之内ニ而他村之請作不仕作り候様ニはいふ遣候

一同村之内高六石五斗二郎兵衛・高拾石源右衛門・
高拾石理兵衛・高式拾石弥右衛門後家・高不持
伊兵衛・三五郎・長三郎渴命ニ及申由ニ候

一 竹木入札仕者無之由村々はいふニ書添判形いた
し返し申候

一村々之内ニ而渴命ニ及申百姓候ハ、内々ニ而
吟味いたし申上候様ニ布目彦兵衛殿ニ御内意被
仰聞候

同五日

一 右竹木入札之義与下ニ望申者無之と、書状ニ而
数右衛門様へ右之御廻状共ニ馬場村人足ニ為持
指上候

一 御内意之事吟味可為仕明後七日ニ庄屋中被参候
様ニとはいふ遣し候

一 右御内意之事相談可為仕武右衛門殿・源左衛門
殿明六日ニ金津迄被出候様ニと、彦兵衛・茂右
衛門・我等三人之手かミ村次ニ而遣し申候

一 明六日ニ舟津へ参候様ニと数右衛門様へ御報ニ
被仰越候

同六日

一 舟寄へ参候へハ八九郎様へ御尋被成候ハ、菅野
久左衛門諸事得心仕弥誤り候哉と被仰候ニ付、
成程誤り候間御免被為成被下候様ニと申上候へ
共、底意如何様之心底ニ候哉不奉存候と申上候
一 村々飢ニ及申百姓相改帳面指上候様ニと被仰付
候間罷歸り候

一 矢地村用水ふしん村としてかなりニ仕事成間敷
候ハ、早々御断可申上候、御見分之上ふしん可

被仰付由ニ候故其段矢地村へ申渡し候

二月七日

一 村々庄屋中参候ニ付飢百姓帳面書様、飢米之段々
申渡し候

一 菅野村庄屋長百姓、久左衛門召連明日舟寄へ参
候様ニと申付候

同八日

一 菅野村庄屋長百姓、久左衛門召連舟寄へ参御役
人様方へ被召出候処、久左衛門何角と申上候ニ
付、当十四日ニ召連罷出候様ニと被仰付罷歸り
候

一 村々餓人之帳并願状指添候而十二日ニ持参仕候
様ニと被仰付候、則御はいふ被遣候

同九日

一 村々庄屋長百姓右願状ニ判形取申候

覚

一 御代官所村々百姓ハ不及申与頭たりといふと
も、御用無之節手代共方へ馴々敷出入通路仕
間敷候、若此旨相背者有之候ハ、急度曲事ニ

可申付候条、村々庄屋百姓方へ委細可申聞候、
此書面相廻り次第名之下ニ銘々印判仕陣屋江
可指上者也

子

正月廿三日

(六倉・舟寄代官)
六

与兵衛 印

坂井郡

与頭共

右之御廻状布目を参候ニ付即時ニ後山へ遣し
候

二月十日

一 夫食願帳ニ高持ハ高付、水吞ハ吞と書付、四才
を拾才子共男子・女子之訳書付候様ニと数右衛
門様御申被成候由後山を申来候

同十一日

一 右之帳大方今日揃申候、并夫食願状ニ昨・今両
日之内ニ判形取申候

同十二日

一 御用ニ付舟寄何れも与頭中被召寄候而被仰付候
義共

一年内方々を与下へ借金御裏判与頭共添判之分
可書上事

一 御廻米之割并例年之半分被仰付候故ハ残半分
代金可取立事

一 御廻米壺表ハ有来斗升四斗ト壺升五合可入事

一 当年廻船三月十日時分三国へ着岸可仕候間、

其前ニ御廻米津出し済可申事

一 宗門御改老枚目錄重而案文御出し可有由

一 京勝仙院山伏ニ木札出候事

一 亥年御ふしん被仰付被下候村々、奉行罷出被

申候日数可書上事

一 高何拾石

たれ

印

銀何百何拾何匁 半金納小物成・御

口米代

内

何拾何匁 年内上納

但金高を五分内其断可書事

右ハ村々百姓別帳面之案文

一 村々飢百姓改帳并村之願状惣人数之寄、自分判

形ニ而三通指上申候

一 村々馬改帳指上申候

一中川村田地当荒引証文指上申候

同十三日

一金老分舟寄善右衛門へ渡し申候、但年内盛銀不足之内、但丸岡へ炭かい二遣し候由善右衛門被申二付、なへ屋加左衛門所二而相渡し申候

一二郎丸村三右衛門・長助牢舎御わひ申上御免二候

一菅野久左衛門義与頭中を以御わひ申上、段々証文被仰付御免被成候而今日罷帰り候

同十四日

一村々庄屋中呼寄御廻米員数其外段々申渡し候、并二年内御取立帳之次第申付候

一舟寄御役人様方へ村々百姓馴々敷出入通路仕候義御法度之御廻状ニ判取申候

一菅野村惣百姓証文舟寄へ被遣候、案文之通二而証文取申候

一菅野村久左衛門与之百姓十右衛門、甚左衛門庄屋組二付申証文取申候

覚

一樋伏替

御奉行九日二日菅野村二被成御座候

菅野村

一川除人足百貳拾壹人
御奉行九日五口中川二被成御座候

中川村

一川除人足九拾四人
御奉行九日六日田中村二

田中村

一川除人足五拾壹人
御奉行九日五日北野村二

北野村

一川除人足百八拾人
御奉行九日六日笹岡村二

笹岡村

右者拙者と村々亥年御普請被仰付候二付、御役人様為御奉行と御逗留之日数右之通二御座候、以上

元禄九年子二月十四日

前谷村与頭

二郎

左衛門 印

御陣屋

右之通書付指上申候、留候

一御廻米御廻状村々庄屋判形取申候

一村々借金我等添判仕候分書付指上申候

二月十五日

一五通之書付青野木村之人足二為持舟寄へ指上候へハ、藤四郎様請取候由御返事被遣候

一数右衛門様へ矢地・御簾尾両村用水御普請所間数相改させ、右村庄屋長百姓・北野村庄屋共二遣し候様二と被仰越候二付、右三ヶ村之庄屋召連場所へ罷出相改絵図いたし書付、両村之庄屋長百姓明十六日二舟寄へ参候様二と申付候

一 川幅四間、川の東之堤根幅三間・長三間・高六尺、西之堤根幅三間・長五間・高六尺、川中根置^二五間・高式尺五寸と書付指上申候

同十六日

一 拾壹年寅年矢地村善兵衛持山九ヶ所代米式拾表
二 金津若藤屋弥次兵衛方かい取候而其山善兵衛
二 預ヶ置、右之山下シ米毎年本表六表宛善兵衛
方の相渡し可申定証文

一 六七年以前二右善兵衛持高之内式拾石、五年季
質物代金六両二右弥次兵衛方へ取置申候、其高
年二作徳米として四斗表五表宛毎年善兵衛方の
相済し可申由、定証文右式口ニ米拾壹表宛毎年
取可申処、戌之暮迄ニ米拾三表半残り申候、去
亥暮立分拾壹表相済不申候と弥次兵衛物語ニ候
一 舟寄善右衛門の昨日返状被遣候
一 谷畠村武兵衛庄屋代り申度由願状持参、就夫長
百姓・五人頭方へ配符遣し申候

同十七日

一 矢地村庄屋昨日舟寄へ参候由断ニ参候、次ニ金
津若藤屋弥次兵衛方の断之段々申渡し候

二月十八日

一 下関村与三兵衛去亥年上乘ニ参候処、日数多江
戸ニ罷有候ニ付賃金御増被下候様ニと願状指上
候ニ付手紙相添遣し候へハ、御手紙令披見候、
然ハ下関村上乘之者願書被指越、即陣屋へ委細
之訳申談候処ニ、尤之願ニ候間追而相談可被致
候趣ニ候

一 矢地・御簾尾両村用水堰普請之儀目論見江戸へ
申遣候間、両村之者共へ山石を掘起申様ニ、後
山茂右衛門方へも其段申候様ニと数右衛門様を
被仰越候ニ付、後山へも申遣矢地へも申遣し候

同十九日

一 布目へ参候、御廻米諸事之相談仕候

同廿日

一 三国へ参半左衛門方へかし金之詮儀仕候

同廿一日

一 半左衛門方を麦屋吉左衛門を以追而金子相済可
申由断ニ候

同廿二日

一 布目彦兵衛昨日舟寄へ参候而罷帰候、段々被仰渡之義ニ付武兵衛・喜左衛門・彦兵衛寄候而相談いたし候

同廿三日

同廿四日

一 舟寄善右衛門廿六日ニ江戸出立ニ候間、廿五日
二 舟寄へ参候様ニと善右衛門殿の手紙被遣候
一 布目を罷帰り候

同廿五日

一 舟寄へ何れも与頭中不残参候而御廻米之段々申上候
一 江戸納庄屋ニ宮谷村義太夫相究申候、壺人ハ兵庫与へ参筈ニ候

二月廿六日

一 今日村々庄屋呼寄候而御廻米之吟味仕、三月十日切ニ津出し仕候様ニ堅申付候
一 村々を直ニ誂申分ハ証文請取主を取可申由申付

候

同廿七日

一 三国平右衛門参候ニ付請取米之証文取申候

同廿八日

一 御廻米御吟味として三月朔日ニ数右衛門様御越可被成候間、村々庄屋共呼寄置候様ニと被仰越候ニ付申触候
一 矢地・御簾尾用水普請、最前を申付候通石を掘出し候様ニと申付候

同廿九日

三月朔日

一 御廻米為御吟味と数右衛門様御越被為成候而、村々庄屋長百姓被召寄証文被仰付候
一 下関村誂米証文取申候
一 矢地村小あるき日割之事、去年迄惣高五百八拾壺石五斗九升六合日数三十日を、三百九拾八石八斗五升六合七郎右衛門此日数廿日、百八拾式石七斗四升清兵衛此日数十日、子年を三百六拾石式斗九升四合善右衛門此日数拾八日六分、式

百貳拾壹石三斗貳合七郎右衛門此日数十一日四分、両与へ申付候

一村々庄屋長百姓と福居綿屋庄左衛門・三国町河内屋代出村甚左衛門と立合御廻米詔直段相定候ハ、御廻米壹表二本表之上ニ壹升七合宛船賃なし、現米ハ錢銀ニ而貳拾六匁五分、米入申時銀渡しハ貳拾七匁と何れも相對ニ而相究申由ニ候

三月二日

一御廻米壹石七斗貳升五合 北村

一欠米代七升七合 同村

一壹石八斗貳合 此表四表半貳合

一御廻米七斗四升四合 前谷村

一欠米代三升三合五勺 同村

一七斗七升七合五勺

一金七両壹分銀拾三匁三分七厘

同三日

一布目彦兵衛〆用事候間一両日中ニ罷出候様ニと

書状参候

同四日

一布目へ参候へハ、宮谷村義太夫納才料^(幸領)ニ遣候事遠慮可有之候由八九郎様御内意有之ニ付、宮谷村へはいふ遣し候

同五日

一右義太夫参候ニ付布目ニ而段々申聞候

一御米之義ニ付三国へ参候方ニせんき仕候

同六日

一三国ニ而松岡九郎右衛門ニ逢申候

同七日

同八日

一三国〆罷歸り申候

同九日

一舟寄へ亥御年貢年内上納金壹人改帳廿壹冊、他国へ持ニ参候者改帳、国絵図写貳枚持参仕指上申候

一餓死人之帳指上候へハ名々書付出し候様ニと被仰付候

一八九郎様被仰聞候ハ、御料之儀私料とくらへ候

へハ御免下り候処、在々困窮之義何共難心得候、
いか、可仕候哉と被仰候ニ付、御免定相済候ハ
、米ニ而納問屋へ入置、与頭立合売払申様ニ可
被仰付哉と申上候へハ、何様御相談可被遊由被
仰聞候

一 谷畠村庄屋代り之願狀指上候へハ、平兵衛早々
舟寄へ遣し候様ニと被仰付候ニ付はいふ遣し候
一 御役人様之内高嶋藤四郎様・小木仙右衛門様当
十二日〆三国へ御出可被成由、十四五日ニハ八
九郎様布目迄御出可被成由ニ候

同十日

一 下関村貞了持高三石三斗九升之内田壺反年貢米
四表、同村弥五右衛門ニ亥年下シ申候処、年貢
米相済不申候間せんき仕くれ候様ニと訴参候ニ
付、弥五右衛門ニ参候様ニはいふ遣し候、倅門
兵衛酉ノ年江戸へ参候

一 子春御廻米中札・上札俵印之覚
中札
越前国坂井郡何村^(舟寄代官)穴倉与兵衛御代官所

元禄八年亥御年貢米四斗入

亥十二月何日

米主たれ印
米見たれ印
米取たれ印
庄屋たれ印

右之通亥御年貢米庄屋・米見・拙者立合吟
味仕如此御座候

上札
亥御年貢米四斗入^(舟寄代官)穴倉与兵衛御代官所
何之誰印

越前国坂井郡宮谷村米主義兵衛
俵印 壺結緒二結緒之間ニ二ツ引
一 後山源兵衛・東長田喜右衛門江戸へ帰宅ニ候

同十一日

同十二日

一 中川村四郎左衛門下シ田之義ニ付田中村六兵衛
方へ断有之ニ付はいふ遣し申候
一 半紙六百六拾匁、但千枚、此代丁銀八匁貳分五
厘、百匁ニ付壺匁貳分五厘、出村吉左衛門へ請
取

同十三日

一 高拾石三斗余下関村貞了持高、貳石ハ弥五右衛
門方〆娘ニ付門兵衛妻ニ遣し候、ノ拾貳石三斗
余之内貳石七斗八升半介方へ質物ニ入置、貳石
門兵衛、貳石弟勘四郎、三石六斗貞了あせち分、
貳石ハ娘ニ付弥五右衛門方へ預ケ置申候而、門

兵衛ハ江戸へかせきニ参候、然ニ江戸へ度々ニ
金三両貳分遣し候而、半介方江預ケ置申候貳石
七斗八升之高、自分持高貳石之質物共ニ^マ四石
七斗八升余貞了相嘴候、弥五右衛門「娘・

孫共ニ貞了」「はこくミ候ハ、右付渡

し候貳石之高、四表之下シ米共ニ相渡し可申と
申ニ付、半介・貞了共ニ参候様ニと申遣し候

一田中村六兵衛申候ハ、中川村四郎左衛門田作り
申事成不申候ニ付、口入をいたし下シ付候由断
申候

一下関貞了女房参候ニ付、嫁・孫共ニはこくミ可
申義ニ候ハ、貳石之高・四表之請田年貢米共
ニ相渡し可申と弥五右衛門申候間、嫁・孫はこ
くミ可申候哉と相尋候へハ、右之高・下シ米共
ニ相渡候ハ、嫁・孫共ニはこくミ可申と申ニ付、
庄や長百生立合埒明候様ニと利兵衛方へはいふ
遣し候

一十楽村长五郎参候ニ付又右衛門と出入之畑之義
詮儀いたし候へハ、何とそ下ニ而相済シ申度と
申ニ付、取噺候而下ニ而相済候様ニと彦四郎・
五十郎方へはいふ遣し候、右出入之証文写取申
候

同十四日

一清王御寺へ参夫^ハ布目へ参候

三月十五日

一御廻米之義ニ付八九郎様布目迄御出被遊候而、
与頭中不残被召寄御廻米之段々被仰付、其上三
国へ立合ニ罷出候者、旅籠去年迄ハ壱日壱人丁
銀壱匁、同合力銀壱匁、御役人様御賄代壱日壱
匁貳分ニ候へ共、当年ハ米高直ニ付御役人様御
賄代壱匁五分、同与頭壱匁五分、立合之者共壱
匁貳分、合力銀壱匁三分と御定被成、与頭共壱
人宛五日代り三国ニ相詰候様ニと被仰付候ニ付
鬪取仕、三月十五日より^{（老）}番武兵衛・貳番二郎
左衛門・三番彦兵衛・四番源左衛門五番「
一相究申候而、布目^ハ三国へ御出候ニ付何れ
も罷出候

同十六日

一当年御廻米舟寄御支配惣高^ハ半分河内屋次郎右
衛門、半分ハ残六人之御蔵宿へ被仰付候由、何
も与頭共を以御蔵宿中へ被仰付候

同十七日

同十八日

一八九郎様御歸り被成候ニ付何も罷歸り候、今日
本堂村富札突申ニ付見物いたし罷歸り候

同三月十九日

一御廻米中札、上札早々三国へ持参申様ニと村々
へ重而申触候、并三匁銀舟寄へ指上候様ニと申
遣し候

一明廿日の廿五六日時分御廻米御用ニ三国へ相談
申由、数右衛門様へ御断ニ書状指遣し候、加賀
半紙八百枚代銀拾匁と申遣し候

同廿日

一十郷用水之義ニ付下番村大連方へ郷中寄合有之
由

同廿一日

一御廻米之儀与頭詰番ニ候故三国へ参候
一十郷去年相究候人足指引平均之儀、上番・中番・
下番三ヶ村申破り候ニ付兵庫武兵衛・拙者立合、

野中村五左衛門右三ヶ村之申候分被聞届二三日
之内返事被致候様ニと約束いたし候

一御米五拾貳表山室村分木屋平右衛門の入、河内
や

同廿二日

一御米拾三表堀江十楽村の河内屋へ納

一同貳拾壹表舟津分麦屋の同納

一同貳拾表ハたやの池上分同納

一同三拾表ハたやの笹岡分同納

一同拾四表ハたやの伊井分同納

一布目彦兵衛ニ三国御米宿之儀舟寄の被仰渡候ニ

付、御役人様方の御米宿中へ被仰渡候処、右被

仰付候通惣米高半分ハ河内屋、相残米ハ残六人

御請申候

同廿三日

一御三代官御役人御立合ニ而蔵見分被成候ニ付、
自分も同道ニ而罷出候

一米拾貳表麦屋入下関村分河内屋へ納

一米三拾九表沢屋入玄女村分同断

一米貳拾八表東太郎丸村の河内屋納

一 御米早々入候様二八九郎様を被仰付候由、兵庫
武兵衛の書状被指越候

同廿四日

一 御米五千百五拾八表四升八合欠代米共鯖江御分、
御藏宿境屋甚右衛門・光成茂兵衛・江波与三右
衛門

一 御米三千六百三拾六表式斗四升欠米代共石田御
分、塩屋一郎兵衛・名村安右衛門

一 御米四千式百六拾七表三斗一升式合欠米代共舟
寄御分、御藏宿河内屋二郎右衛門・池口上徳左
衛門

都合壹万三千六拾式表式斗

一 御米式拾壹表大味村の河内屋納

一 御米六拾表沢屋の河内屋へ入、村々付訳本帳ニ

有

一 御米百五拾四表河内屋へ入、内拾表赤尾村・三
拾表いへよし・拾表牛山・拾式表中村三郎左衛

門・拾表田中宇右衛門・拾表重義・式拾表蔵垣
内・拾七表布目・式拾表東長田・拾五表定旨、

河内屋納

一 御米六拾表河内屋へ入、内拾八表河間村・式拾

壹表下兵庫・七表横垣・八表西谷・六表中村三
郎左衛門、河内屋納

一 御米八拾表木屋平右衛門へ入、内六拾表宮谷村・
拾九表青野木村、河内屋納

三月廿五日

一 小木仙右衛門為御代りと奥津滝右衛門様舟寄の
御越被成候、三国へ

同廿六日

一 栗毛大しやく三才馬壹疋髪切、黒毛三才馬壹疋
髪切、馬主清王村権兵衛二ツ屋口通り手形出し
申候、三国ニ罷有候内三国ニ而手形出し申候
一 拙者为代りと布目彦兵衛殿三国へ被参候

同廿七日

一 三御代官衆御役人中同道梶浦浦開帳へ参詣いたし
候

同廿八日

一 与下村々御廻米請負人共吟味仕候而逗留いたし
候

同廿九日

一三国を今日罷歸り申候

四月朔日

一三国ニ罷有候内問申御用共ニ付村々へはいふ遣し申候

一御廻米御用ニ付三国ニ被成御座候御役人衆へ、
村々庄屋長百姓為御見廻罷出候事堅御法度之由、
三月廿五日ニ御廻状被遣候ニ付其段村々へ申触
候由

同二日

一東善寺村十右衛門・久兵衛、去年出入之畑高本
主三兵衛弟助十郎と申者、去年江戸を歸り作取
申由十右衛門断申ニ付、庄屋伝右衛門・助十郎・
久兵衛呼寄無年貢之田畑作り取申事ハ成間敷由
詮儀仕候へハ、十右衛門方へ畑相渡し可申由請
合申ニ付返し申候

一同村太郎右衛門、南金津太左衛門方へ請田年貢
不足□□貸置申候処、米も相済不申証文も仕か
へ不申由太左衛門を断申ニ付、吟味仕候へハ太

左衛門方へ参詫言候上埒明可申由罷歸り候

一笹岡村弥右衛門苗代へ跡々を伊兵衛田の水を引
通候処、伊兵衛田居屋敷ニ仕候ニ付水通シ申事
不罷成候ニ付、其隣清右衛門田の水を引申度候
へ共、跡々水通来り不申候間水通シ申間敷由清
右衛門申ニ付、苗代へ水かけ申事不罷成候由弥
右衛門断ニ付、笹岡村へ参伊兵衛居屋敷、清右
衛門、弥右衛門苗代(絵図)へ参伊兵衛居屋敷、清右
上非分之者ハ急度可被仰付申聞候へハ、庄屋長
百姓御見分之上ニ而伊兵衛屋敷は、五寸、清右
衛門田は、五寸双方之境ニ水通を立、弥右衛門
苗代水引申様ニ相定候

一矢地村善兵衛呼寄候而、金津若藤や出入之事度々
断ニ参候間何とぞ埒明申様ニと申付候

一下関村貞了下シ田之年貢米□□(俵)ハ弥五右衛門相
渡し候へ共、けわい田之式石之高相渡し不申由
貞了方を断申候

一与下村々之内飢人有之由数右衛門様へ申上候得
ハ、ひしと餓死可仕者相改出し申様ニと被仰越
候

四月三日

一与下村々飢人有之二付舟寄へ申上候得ハ、江戸
 の未御左右無候間先当分金五両御貸被成候間、
 ひしと渴命ニ及申者ニ少宛かし候て食をつなか
 せ可申候、其内江戸の御下知可有候、若江戸の
 御下知無之候ハ、重而御相談可被成候二而、則
 拙者一判ニ而預り手形指上候而金五両請取罷帰
 り候

預り申金子之事

合金五両也

右者拙者与下式拾壹ヶ村飢人扶持御願申上候処、
 江戸の御下知未相知不申候内只今必死相見得申
 候人数六百人余御座候ニ付而、委細吟味仕御断
 申上候へハ、為塩代と金五両御貸被成候、右飢
 人共ニ割賦相渡し当分渴命つなかせ有難奉存候、
 当秋中急度取立返済可仕候、拙者借り請候上ハ
 毛頭^(遅)滞仕間敷候間為後日仍如件

元禄九年子四月三日

前谷村与頭

次郎

左衛門 印

横田数右衛門殿

高嶋藤四郎殿

四月四日

一下関村吉兵衛、稻越村忠右衛門田四百五拾分、
 代米壹石貳斗三升、亥之壹作買候而同村孫兵衛
 二年貢米壹石六斗六升下シ為作候処、其下シ米
 相済不申右之田も渡し不申候ニ付、度々断之上
 一本田村山田孫兵衛殿へ両三度参御断申上候得
 共埒明不申候と断申ニ付、孫兵衛方へ書状遣し
 申候

○一筆致啓上候、其後ハ久々不得御意御物遠ニ罷
 過候、弥御無事御勤之由珍重ニ奉存候、左様ニ
 候へハ我等組下之内下関村吉兵衛と申者、貴様
 御支配下稻越村忠右衛門田作四百五拾歩、代米
 壹石貳斗三升ニ去亥之壹作買取候而、同村孫兵
 衛ニ下シ米壹石六斗六升ニ下シ置申候処、去秋
 右之田孫兵衛無相違かり取候而右之下シ米相済
 不申候ニ付、度々相断候へ共何「」申於于
 今下シ米相済不申由、年内の右之吉兵衛我等方
 へ訴申ニ付、貴様迄罷越段々申上候ハ、御了簡
 も可被成と申付候、処此中度々罷越候へ共不埒
 之由申来り候、御料・御私領□ヶ様之義方々ニ
 数多御座候処不埒ニ候へハ、公儀之御苦勞ニも
 およひ申義も如何ニ御座候間、様子御聞被遊埒
 明申様ニ被仰付可被下候、猶貴報ニ可承候

卯月四日

土屋次郎

左衛門 印

山田孫兵衛様

追而右下シ米少之事ニ御座候へ共外之例不罷成
様ニ被仰付可被下候、以上

右之通孫兵衛方へ申遣候へハ、孫兵衛宿ニ居不
申候間重而御返事可仕と被申越候

一 下関村貞了・弥五右衛門出入之事、四表之下シ
米壹表ハ免ニ引候て三表弥五右衛門方へ相済申
候、嫁・孫とも二貞了方ニ而はこくミ申候、け
わい田高式石弥五右衛門請分ニ仕作り申度と申
候得共貞了下シ申間敷と申ニ付、相渡し候て可
然と弥五右衛門申候へハ田畑共ニ相渡し可申と
申候、重而双方へ証文取可申と申付候

一 村々役人相改候而、下関村へ金貳分、轟木村金
壹分、谷畠村金壹分銀五匁、東善寺村金壹分、
新用村壹分、馬場村壹分かし候て罷歸り候

「^へ」^符 〆当春願出候ハ、御普請所早々仕立候
ハて不叶立候ハて不叶場所注進可有之と存候処
于今其沙汰無之候、右之通急々場所之分早々願
出可申候、吟味之上支配方被参奉行可被致候、
此廻状何れも名所ニ致印判留り之所へ可相返候、

尤書付之趣組下致吟味可申出候、以上

四月四日

木内

八九郎 印

与頭中

一金壹両御貸金ニ而錢買申候、七拾錢六拾三匁四
分、此錢四貫四百三拾八文、丁銀壹匁ニ付七拾
三文九分六厘余遣、馬場庄右衛門かい被申候

四月五日

一 御普請有之村々之内笹岡・谷畠村ハ下ニ而大方
ふしん仕、相済候ハ、重而御改請可申候、北野・
菅野・田中三ヶ村用水樋之願候へハ、叶候而木
や方へ相渡り候を相待罷有候、矢地・御簾尾用
水せき近所へ石取寄置申候、大方石取相済候ハ
、ふしん仕候節御断可申上候、中川・田中川除
ハ簾竹・蛇籠竹願上候へハ叶次第ニ普請可仕候、
右之竹木屋並之直段ニ而村へ被仰付被下候様ニ
と中川村へ願申ニ付、右之通書状を以数右衛門
様・藤四郎様へ中川村半兵衛遣し申候

一金壹分飢人扶持ニ中川村半兵衛ニ相渡し申候
一 丁銀五匁此錢三百七拾文、田中村六右衛門ニ相
渡し申候

一 田中村七右衛門兄市兵衛と世帯分ケ之義ニ付申
分有之由ニ而長百姓六右衛門召連参ニ付、様子
聞候而市兵衛参候様ニとはいふ遣し候へハ、又
六右衛門召連参候ニ付而段々聞候而、何とそ村
ニ而噤相濟候様ニと申付候

一 丁銀拾匁飢人扶持前谷村市兵衛ニ相渡し申候

一金壹分飢人扶持、矢地村内丁銀拾匁善右衛門与、

丁銀五匁七郎右衛門与

一 与頭中と兼而申合候御訴訟之義近日寄合相談可
仕候間、書付之下書をもいたし候様ニと彦兵衛
殿ハ村次ニ而被申越候

○ 先達而申触候御廻米津出シ遲滞候義不届之至

二 候、早々相納候様ニ与下村々へ急度可被申
付候、若難洪之村於有之ハ庄屋長百姓召連陣
屋迄可被参候、僉儀之上曲事ニ可申付候、以
上

四月五日

木内

八九郎 印

村々与頭中

右之御廻状後山ハ参候、則村々配符遣し候

一 丁銀五匁飢人扶持御貸銀北野村久左衛門ニ渡ス

四月六日

一 丁銀拾匁飢人ふち北村、金壹分笹岡宗左衛門、
同壹分菅野村、同壹分山室村、同壹分宮谷村、
同壹分高塚村

同 七日

一 壹本田村山田孫兵衛方ハ右之返状参候得共、稻
越村由兵衛何角不埒事申由下関吉兵衛断申ニ付、
重(再カ)而并返遣し申候

○ 乍御報致啓上候、先以下関村吉兵衛方より稻
越村由兵衛ニ貸方致候処、滞申様ニ被仰越候
へ共貸方ニ而ハ無御座候、右ニも申談候通壹
作買之田地下シ米滞申ニ付御断申上候、則吉
兵衛所持仕候証文遣し候間弥々入御披見可被
下候、先以稻越村由兵衛被召寄かたく被仰付
候由大慶ニ奉存候、然共由兵衛何角と申由ニ
候間、右之下シ米無相違相濟候様ニ被仰付可
被下候、奉願候、恐々謹言

卯月八日

土屋次郎

左衛門

山田孫兵衛様

右之并返明日持参候様ニと吉兵衛ニ相渡し候

一 高塚村市郎右衛門かり金取ニ参候ニ付、昨日山室・菅野之庄屋中ニ小判ニ而遣し候間菅野村へ参請取様ニと申候

同八日

一新家村理右衛門・四郎左衛門御貸金之礼ニ参候

一 壺本田村山田孫兵衛方を并返参ニ付所持仕候

一 当十二日を兵庫武兵衛三国へ相詰可被申处、御

普請所之儀ニ付ひま入有之候間、十二日を自分

ニ罷出候様ニと書状被指越候ニ付、十二日を自

分罷越可申と返事村次ニ遣し候

御廻米津出し過半不足有之候間銘々下村々

納手形被致吟味、不相納村々庄屋長百姓三国

河内屋次郎右衛門方迄可被指越候、詮義之上

急度可申付候、以上

四月八日

洪垂助

左衛門 印

奥津滝

右衛門 印

与頭中

右之御廻状後山善兵衛書状相認候而相届、善兵

衛方迄御返事申遣し候

同九日

一 □^(福居)わたや庄左衛門を手紙被指越候ハ、請負申

御廻米代銀之内七百四拾匁余笹岡村、五拾五匁

西方寺村、貳百五拾匁余十楽村、八拾匁余清王

□^(村)、拾匁余新用、百拾匁余東善寺、如此不足ニ

而村々不足銀書付はいふを遣し候、今日之内ニ

不足銀相済御米手形持参可申候、今日之内ニ不

足銀相済申事成不申候村ハ、庄や長百姓三国へ

遣し可申候間早々被参候様ニと申付候、則三国

庄左衛門方へも返状遣し候

一 滝右衛門様・助左衛門様を、庄左衛門請負分代

銀相済不申候ニ付御米入不申候間急度せんき可

仕候、滞候村ハ庄屋長百姓三国へ遣し候様ニと

御手紙被遣候ニ付御返状遣し候

同十日

一 柿原十楽村彦三郎、柴山壺ヶ所代米四斗六升ニ

去亥年船津村清右衛門ニ下シ申候处、右代米相

済不申候ニ付年内を断申候得共、何角と申相済

不申候由断申ニ付、布目彦兵衛方へ手紙相済彦

三郎遣し申候

一田中村市兵衛・七右衛門兄弟所帶沢之義出入
 二及申二付、村庄や長百姓・中川村正楽寺殿お
 出候而噺候様子ハ、作食米壹表、諸道具ハ親存
 生之時之証文之通、高ハ当年・来年兄弟出合ニ
 遣申筈、かり取申代銀者市兵衛取分、麦作之義
 ハ面々高之上主々取分、請作之麦ハ兄弟かりわ
 け申筈、其外小道具ハたかいニかり合遣申筈ニ
 相双方中直り仕候、証文ハ右之趣ニ而重而取可
 申と申渡し候

一谷畠村水かこいふしん大方相済候由断ニ武兵衛
 参候

一村々宗門御改之帳案文舟寄被遣候ニ付別紙書
 写置申候

○各与下村々宗門改之義、先年ハ壹人別ニ相改
 寺証文可取立義ニ候へ共、何も願ニ付当年之
 義ハ一村切ニ惣人数并与頭切惣寄人数を以証
 文取立候、案紙小木仙右衛門・高嶋藤四郎認
 被指越候間、何も合点不参義ハ右兩人迄可被
 相窺候、帳面之義者五月中旬迄之内ニ可被差
 出候、以上

四月八日

木内

八九郎印

中

坂井郡与頭

○各与下御廻米村々納兼申由三国ハ度々断有之
 候間、早々津出したし候様ニ可被申付候、
 船之儀も最早着岸可致候条其節手支無之様ニ
 可被致候、以上

四月九日

木内

八九郎印

中

坂井郡与頭

○申談御用之義有之候間来ル十二日ニ舟寄陣屋
 迄可被参候、為其如此候、以上

四月九日

木内

八九郎印

中

坂井郡与頭

右宗門御改帳之案紙・御廻状三通共ニ布目ハ参
 候

同十一日

一宗門御改帳之案紙并御廻状三通共ニ後山へ遣し

申候

同十二日

一舟寄へ与頭中不殘參候処、当春願上候飢人扶持御貸被成候処、可相渡御金無之候間未進金之内御取立候而御渡し可被遊候間、御金割村々可被仰付候間、此金子ハ村之内ともかふもいたし候者ニ立させ申様ニと被仰付候、就夫当分御陣屋ニ有合金子御貸渡し被成候ニ付、坂井郡・大野郡与頭中連判仮り預りニ而御金九兩請取申候預り申金子之事

一合金八拾兩

内

九兩

前谷村二郎左衛門組

右ハ拙者共与下村々飢人扶持御願申上候処、右之金子当分御引かへ御貸被下難有奉存候、早々飢人共方へ相渡し可申候、重而本証文御指図次第ニ仕指上可申候、為後日御金請取仮り預り手形仍而如件

元禄九年子四月十二日

前谷村与頭

二郎

左衛門 印

御陣屋

一江戸納庄屋井江菫村二郎右衛門・徳分田村宗兵

衛、上乘森川村次右衛門・長畑村市右衛門、くし取ニ而相究申候

一金□百八拾匁分

横田数右衛

門

一米百弍表

高嶋藤四

郎

之ハ前谷村二郎左衛門与下弍拾匁ケ村去亥十月右之同十二月迄之内拙者裏判借用手形之分

□金米御裏判之外自分判形之分指紙重而指上

候様ニと被仰付候

一舟寄御用仕廻候而直ニ三国へ罷越候而泊り申候

同十三日

一村々御廻米不足吟味仕申付候

一御かし金村々相渡し申候

一銀五匁御かし銀西方寺村分十楽村五十郎ニ渡ス

一三国竹内忠右衛門・平尾二郎右衛門・山王九郎

兵衛、下関村

御廻米滞申ニ付証文為仕候

同十四日

一銀弍匁轟木村助右衛門ニかし

一三国詰番之内ニ而方々御廻米之吟味仕候

同十五日

一布目彦兵衛昨日御用ニ而舟寄へ当郡困窮之段々
夫米御訴訟申上度由御内意申上候へハ、早々申
上候様ニと被仰付候由ニ而、幸三国ニ与頭中居
之申候^(リカ)ニ付書付之相談仕候

同十六日

一三国ニ相談罷有候

同十七日

一三国詰番兵庫武兵衛と今日替り申候
一書付之下書舟寄庄右衛門ニ言伝指上申候

四月十八日

一下関村御廻米竹内忠右衛門滞申ニ付三国ニ滞留
いたし罷有候

同十九日

一下関村御廻米竹内忠右衛門・平尾二郎右衛門・
^(郎脱)九兵衛請負滞申ニ付、下関村庄屋共三国庄や九

郎左衛門方へ相断申候

一御訴訟之儀布目彦兵衛三国へ直ニ舟寄参候而訴
状之案紙相究申候

同廿日

一黒毛三才馬壺疋、鹿毛三才馬壺疋かミ切、青野
木村九郎兵衛細呂木口手形出し

同廿一日

同廿二日

同廿三日

同廿四日

同廿五日

同廿六日

同廿七日

一右下関村御廻米竹内忠右衛門・平尾二郎右衛門・
九郎兵衛滞申ニ付、三国ニ罷有候内ニ夫米・同
亥未進御訴訟之義相談いたし訴状認申候

一米貳拾表兩度ニ出村甚左衛門ニ渡ス、内壺表ハ

出村吉左衛門ニ^(渡し)□□申候、残而拾九表、此上打

米三斗貳升三合、壺表ニ壺升七合宛、五表北村
分・四表前谷村分・三表矢地村へかし米、小以
拾貳表三斗貳升三合引、残而六表壺斗三升七合

此代錢銀百七拾三匁壹厘九毛、壹表ニ貳拾七匁五分、右之内ニ而金壹兩甚左衛門、金壹分河内屋、請取申候、右之目錄甚左衛門ニ渡し申候
一 錢六拾六匁麦や太兵衛、請取、外ニ壹匁六分笠之代銀、六拾七匁六分、内六拾三匁六分金壹兩太兵衛ニ相渡し申候、残而四匁かり分

四月廿八日

一 坂井郡御訴訟之義ニ付三国、直ニ舟寄へ参候而、訴狀指上候へ共納り不申候ニ付、舟寄ニ泊り候て重而訴狀認指上申候

同廿九日

一 何れも与頭中八九郎様被召出訴狀之段々御申上候へハ、訴狀御請取被成被下候

一 飢人扶持御拝借之人數男女百三拾四人、内男六拾七人、三月朔日、五月十日迄六十九日分壹人ニ米貳斗七合、此銀九匁四分三厘、女六拾七人右同日數^(米)□壹斗三升八合此代銀六匁貳分九厘三毛、作食拝借人千九拾七人内男五百拾八人、四月朔日、五月十日迄日、數四十日壹日、壹人ニ米貳斗三升、此代銀五匁四分七厘貳毛、女壹人

ニ右日數ニ米八升、此代銀三匁六分四厘八毛、惣金高六貫目七分四厘御かし被為成筈之内金子拾六匁今日請取申候
一 当廿日切御金割不残取立候而指上候ハ、右御貸金不残御かし可被遊由被仰渡候ニ付、何れも与頭中と其通□□相究罷歸り候

同晦日

一 与下村々庄屋長百姓不残呼寄、此度訴狀指上候儀申聞せ、其上飢人ふち作食御貸被下候儀申聞せ候へハ、何れも難有由申上候、并御割金不足之分五日ニ持参仕相濟候ハ、御かし金不残相渡し可申と申渡し候

五月朔日

一 奥津滝右衛門様・洪垂助左衛門様能州へ御引越被成候ニ付、布目与・前谷与・後山与村々庄屋御見送りニ壹本松茶屋迄罷出御暇乞申上候、自分義ハ夫、直ニ三国へ参、下関村・轟木村之御廻米せんきいたし候

同二日

一轟木村御廻米拾九表山王善右衛門請負ニ而入申
処、其内拾壹表悪米ニ而はしき申ニ付、其米押
へ取麦や太兵衛ニ仕直シ入させ申候

一安嶋浦破損舟有之二付、藤四郎様御越被成候ニ
付参候

一出合舟壹艘入船いたし候

同三日

一東長田源左衛門、三国詰番之処ひま入有之由断
ニ付而、自分三国ニ罷有二付方々残米吟味いた
し、今・明日之内ニ入させ申候

同四日

一源左衛門三国へ被参候、自分代り申候
一十楽村御廻米代銀之内八匁七分不足、西方寺村
ニ壹匁五分不足有之由わたや庄左衛門へ断ニ候

五月五日

尚々御城米納才料井江葭村二郎右衛門・徳分田宗兵衛と申者参候、其御地不知案
内者ニ御座候間乍慮外御引廻被遊、御廻米無相違上納仕候様ニ奉願存候、以上

未奉得貴意候得共今度御城米納宰料参候ニ付一筆啓上仕候、先以
殿様益御梅塩能被為成御座候旨每度承知仕恐悦不過之奉存候、貴
(塩梅)

公様方御勇健ニ御勤仕被遊候由承珍重之御義ニ奉存候、当地於御
陣屋御役人様方御堅固ニ御勤被遊候条可貴慮安候、殊御支配所靜
謐ニ罷有候、随而当国之儀打続凶年ニ而百姓等困窮仕候ニ付、御
城米之義難儀可仕由去秋奉訴候へハ当年御廻米半減被仰付、猶又
廻船も早々着岸仕旁々以百姓手廻シ能候而是以難有奉存候、殊更
当春餓死食夫食奉願候処早速被為聞召拜借被為仰付、御支配所之
百姓過半相助り生々世々之御厚恩難有奉存候、何様当国へ御発駕
被遊候歟、下拙共其御地伺公仕儀も御座候ハ、御縁次第奉得御
意万端可申上候、恐惶謹言

五月六日

長谷川源左衛門

岡崎茂兵衛

近藤彦兵衛

土屋二郎左衛門

宗石茂右衛門

(高嶋) 太次兵衛様

(神田) 喜兵衛様

右之通書状江戸へ遣し申候、五月七日ニ納才料井江葭村二郎右衛
門・徳分田村惣兵衛江戸出立ニ付遣シ候、坂井郡訴訟之願状舟寄
善右衛門江戸ニ罷有二付布目彦兵衛方へ写遣し候

一於三国御廻米不残出合舟ニ積立申候、藤四郎様三国御逗留ニ候

同六日

一御廻米上納仕廻候ニ付三国へ罷歸り候

同七日

同八日

一亥御年貢金之内八拾壹兩、四月廿日切御割付金之内拾八兩、村々直上納三拾壹兩貳分・村々々自分方へ取立拾四兩、自分有合拾七兩貳分入手形、右之内三口金合六拾三兩割金不足之分村々手形を取申候

一飢人扶持銀・作食銀貳口ニ金百兩銀七分三厘、御貸金之内五兩四月三日ニ請取、九兩同十二日ニ請取、拾六兩同廿九日ニ請取、小以三拾兩、残而金七拾兩銀七分三厘、内拾七兩貳分右御年貢金入手形ニ而請取、貳拾七兩貳分現金ニ而請取申候、右貳口金四拾五兩之仮り預り手形壹枚御陣屋へ指上申候

請取申御普請人足扶持之事

一人足三百九拾人

谷畠村

此扶持米九斗五升 但一日老人二五合つ、

此代銀八拾八匁九分貳厘

一人足貳百八拾四人

笹岡村

此扶持米壹石四斗貳升

此代銀六拾四匁七分五厘

貳口合銀百五拾三匁六分七厘

此金貳兩貳分銀三匁六分七厘

右下拙与下谷畠村・笹岡村御普請人足扶持米代金儘ニ請取申候、兩村へ相渡し村別証文重而指上ケ、此証文と引かへ申迄拙者証文

仍如件

元禄九年子五月八日

前谷村与頭

二郎左衛門 印

右之手形村々手形と引かへ申候

木内八九郎殿

一右貳拾七兩貳歩之金と人足扶持金貳兩貳分銀三匁六分七厘、貳口ノ三拾兩銀三匁六分七厘之内ニ而金壹兩貳分銀五匁貳分四厘北野・中川・轟木三か村之御廻米三匁銀ニ御陣屋へ指上手形取申候

一右三拾壹兩貳分村々取立、拾四兩有金、拾七兩貳分入手形金、三口ノ六拾三兩、此包賃拾八匁九分かけやニ相渡し申候

一御法度証文壹通村々庄屋長百姓惣百姓代判形を取、其上堅段々申渡し、此証文村々へ壹通宛写し相渡し候様ニと被仰付候

一能州御陣屋下村与頭同村助右衛門・同□町村次左衛門・同町村武右衛門・四丁村永三

一坂井郡借金八千七百六拾兩余同米壹万三千三拾石余、右内金千百五拾兩米貳千三百七拾貳石ハ舟寄与、金九百拾兩米千九百六拾六石東長田与、金千三百五拾兩米貳千八百七拾石兵庫与、金千八百九拾兩米千九百貳拾石布目与、金千六百七拾兩米千八百拾三石前谷与、金千七百九拾兩米貳千九拾石後山与

一舟寄ノ御用仕廻罷歸り候

一中川村川除蛇籠、五寸廻竹四百本、代銀拾本二付四匁貳分、長三尺八寸廻杭木拾八本

一田中村簀竹七百八拾七本、代銀拾本二付八分、長九尺・末口貳寸

杭木三拾壹本、長壹間・末口貳寸之杭木五拾六本、九尺木拾本ニ付四匁五分、壹間木拾本ニ付三匁四分、右之竹・杭木此方も出し可申由御断申上候

同九日

一矢地村御かし金之内最前相渡し申候貳分之二金子、高わり二仕百姓共不残取申由ニ候故、いか様之子細高わりニ仕候哉、早々取返し飢人共ニ相渡し可申候、其上重而吟味可仕由申渡し候

覚

一金拾三両	下関村
一金三両壹分	高塚村
一金六両	山室村
一金六両壹分	宮谷村
一金壹両壹分	北野村
一金五両三分	菅野村
一金壹両貳分	清王村
一金五両三分	青野木村
一金貳両貳分	十楽村
一金六両三分	中川村
一金三分	前谷村
一金壹分	西方寺村
一金貳両貳分	田中村

一金貳両貳分	谷畠村
一金壹両三分	東善寺村
一金八両	笹岡村
一金四両壹分	矢地村
一金壹両貳分	北村
一金壹両壹分	新用村
一金壹両三分	馬場村
一金四両貳分	轟木村

ノ八拾壹両

右去亥ノ御年貢納下り之内此度上納可致分書付相廻し候間、村々割賦員数之通早々取立当月廿日迄之内ニ相納可申候、若難済之者有之ハ組頭迄相断、其上支配方へ委細申達、夫ニ而も不埒明百姓之分ハ陣屋迄召連可参候、其節急度可申付候、此度相触候金子之儀者急御用ニ候間、日限相違之村ハ当人ハ不及申ニ庄屋長百姓共ニ嚴敷可申付候条、油断有間敷候、以上

四月十四日

木内八九郎 印

右村々庄屋中

此書付披見之上村下致判形留り村も可返候
右之御廻状当月十五日参候処、失念ニ而此帳ニ写不申候ニ付只今爰ニ留置申候、此廻状返上申候

五月十日

覚

一金拾両貳分	下関村
一金貳両貳分	高塚村
一金四両三分	山室村
一金五両	宮谷村
一金壹両	北野村
一金四両貳分	菅野村
一金壹両壹分	清王村
一金四両貳分	青野木村
一金貳両	十楽村
一金五両壹分	中川村
一金貳分	前谷村
一金壹分	西方寺村
一金貳両	田中村
一金貳両	谷畠村
一金貳分	東善寺村
一金六両貳分	笹岡村
一金三両壹分	矢地村
一金壹両壹分	北村
一金三分	新用村
一金壹両壹分	馬場村
一金三両貳分	轟木村

メ六拾三両

右亥御未進金之内急御用ニ付申付候間早々与頭方迄相納可申候、以上

五月八日

木内八九郎 印

右村々 庄屋中
長百姓

此廻状村下・金下ニ判形いたし返シ可申候

一筆致啓上候、最前々度々御断申送候下関村吉兵衛下シ田御年貢米之義、稲越村由兵衛ニ急度被仰付候由先日御報ニ被仰聞候处、其砌由兵衛下関村へ参壹石六斗六升年内可取年貢米之内を、当暮八斗可相渡候間相残分ハ其通ニ仕候様にと、余り我かま、成義を申ニ付、吉兵衛其節貴様迄右之段々御断申達し候へ共重而御左右□無御座、我等も御城米之義ニ付三国ニ永々罷有候ニ付及延引ニ申候、とかく其元ニ而被仰付候而も由兵衛承引不仕義ニ御座候ハ、丸岡御役所御訴訟申上度由吉兵衛願ニ候間、委細御報可被仰聞候、以上

五月十日

土屋二郎左衛門

山田孫兵衛様

追啓、最前も申進候通御料・御私領入組申義ニ候へハ、田地請下シかしかりの義村々数多有之候处、ケ様ニ猥ニ候へハ毎度出入ニ可成事と存候、然者御公儀へも御苦勞を奉掛、我々も難儀可仕事と存候ニ付度々御内意申達候、乍此上何とそ御了簡被遊御尤と存候、以上

右之通書狀孫兵衛方へ吉兵衛ニ遣し申候

五月十一日

一山田七郎右衛門立寄被申候而八木忠兵衛方ニ而之金子頼被申候

同十二日

一御年貢御割并御貸金差引いたし村々へ金子相渡し申候、其外御法度証文、重而之御金割、諸事村々庄屋長百姓ニ申渡し候

一中村三郎左衛門糸代銀之儀為相談□布目へ参候

一十四日二何れも与頭中参候様ニと御廻狀被遣候

一布目へ可参処気分悪敷候ニ付權右衛門遣し候て不参候

同十三日

一作食御かし被下候御礼として、村々庄や共舟寄へ出候而可然由布目彦兵衛被申越候ニ付、明十四日二何れも被罷出候様ニと申ふれ候

一若藤屋弥次兵衛、矢地善兵衛義ニ付参候

一新屋宗兵衛見廻被参候

一權右衛門布目ニ罷有候由申越候

同十四日

一飢食・作食代金御貸被下候付、村々庄屋中召連舟寄迄御礼罷出候

而御礼申上候、并二寅年を去亥年迄村々散田百姓付出し候様ニと申付候、次ニ割付御金十六日・七日兩日之内ニ持参候様ニと舟寄ニ而申付候

口上ニ而被仰渡之覺

一請酒停止之事、請酒不仕候而不叶所ハ子細可申出由

一鉄炮証文案紙御渡し被成候事

一寺社方百姓共ニ除地証文案紙之事

一散田百姓改之事

一村々借金御裏判被成候分可書出帳之事

一同裏判証文案紙之事

一御陣屋かやふき、先御代官御代郡中としていたし候哉、并ふきかへ共ニ御尋之事

一当秋能州より御越之時分遠境并能州御泊迄御迎ニ罷出申間敷事

一先達而申渡し候江戸往来日用飛脚賃、御三方共ニ郷割ニ可致事

一渥美友信・福井藩寺社町奉行
一渥美新右衛門殿被仰越候捨子并乗打之事

一宗旨改帳并人別帳之義仙右衛門様・藤四郎様へ可窺事

一御普請方数右衛門様へ可窺事

覺

一惣而支配人村々へ心を付、百姓家職耕作油断不仕様ニ折々可申付、勿論奢之義曾而無之様ニ可致旨無懈怠申渡し、并与頭共へも右之趣委細申間候様ニと御意ニ候

子五月十四日

右之趣奉得其意候、与下村々堅申渡、証文拙者共方へ取置候事

御陣屋

坂井郡
大野郡与頭判
吉田郡

右之通証文指上候

指上申一札之事

一高

越前国坂井郡十楽村

一鉄炮壹挺

玉目何処

持主たれ

右鉄炮之義給所之時分を致所持候処、拾壹年以前御料所ニ罷越候
誰様御代官所之節、何年以前何ノ年鉄炮御改之砌証文指上、御封
印申請拙者手前ニ預り置、其以後誰々様御代官所ニ罷越候刻御吟
味被遊、其節之御手代中御封印申請、今以右之鉄炮所持仕候、此
度御代官所替りニ付猶又御改之上御封印申請、前々之通鉄炮御預
ケ被遊候、御封印損シ不申様大切ニ可仕候、右鉄炮御封印切破殺
生仕候歟、又者作人不及申上ニ親子兄弟ニ而も鉄炮貸候由露頭仕
候ハ、御詮儀之上如何様之御仕置ニも可被仰付候、重而御改之
時分御封印損シ申候ハ、是又如何様之曲事ニも可被仰付候、為
後日証文指上申所仍如件

元禄八年亥八月

(舟寄代官)
六倉与兵衛様

御手代中

右誰義前書之通給所之節を鉄炮所持仕、御料所ニ罷越候而も誰様
御代官所之時分、御手代中御封印ニ而持主誰ニ御預ケ置被遊
候、右鉄炮御封印切破殺生仕、又ハ作人ハ不及申上親子兄弟ニ而

も鉄炮貸候由被及御聞候歟、重而鉄炮御改之刻御封印損候ハ、
御詮儀之上持主誰義ハ不及申上、庄屋長百姓・五人組之者迄如何
様之曲事ニも可被仰付候、為後日庄屋長百姓・五人組加判仕証文
指上申処仍如件

月 日

何村庄屋

たれ 印

長百姓

たれ 印

五人組

たれ 印

六倉与兵衛様

御手代中

一高何ほと

何村

一高何ほと

何村

高合何ほと

村数何ケ村

右何ケ村之内ニ鉄炮所持不仕候哉と御吟味被遊候、私共村々之義
先年を鉄炮所持仕候、自然隠候而鉄炮所持仕候段露頭仕候ハ、
持主之儀者不及申上ニ其村庄屋長百姓・五人組迄如何様之曲事ニ
も可被仰付候、為後日庄屋長百姓連判証文指上候処仍而如件

元禄八年亥八月

何村庄屋

たれ

長百姓

たれ

何村庄屋

たれ

長百姓

たれ

御代官様

右拙者組下何ケ村之内何ケ村鉄炮所持仕、何ケ村ハ先年を鉄炮所

持不仕候二付、其段証文指上候通相違無御座候、依之拙者奥判仕
帳面指上申候処仍如件

元禄八年亥八月

何村組頭

たれ印

御代官様

此帳面之前二鉄炮所持仕候村々証文書候而、其奥二潰証文書候而
帳巻冊二仕指上申咎候

指上申一札之事

本寺何国何村何山何寺

越前国何郡何村

一境内老反歩

除地何歩

何山何寺

是ハ何年以前何ノ年誰と申僧開基二而元禄八年迄何ノ年、

但拙僧誰迄何代二罷成候

右除地之義ハ何年以前何ノ年誰様御檢地之節高外二記御除被下候
御見捨罷成御除被下候

御年貢諸役御免除之地二而、其以後誰様ニく御知行之節も前々
之通御除地二被成置、当何年以前何年御料所二罷成、其節御代官
何ノ誰様御吟味之砌、給所之時分も除来候由申立候二付而是又先
規之通被仰付、其後誰様ニく御代官所之刻も右之御断申立、今
以御年貢諸役相勤不申候、則從先規除来申候証文写指上申候、給
所之時分除地罷成候証文紛失仕只今所持不仕候、然共年久敷御除
地二罷成候義偽無御座候、此段少も偽不申上候、若相違之義御座
候ハ、拙僧何分之越度ニも可被仰付候、為後日証文指上申所仍如
件

元禄八年亥八月

何郡何村

何寺

(舟寄代官)
宍倉与兵衛様

御手代中

右何村何寺境内之義、前書之通少も相違無御座候、給所之時分も
御水帳高外二記
御見捨地二罷成御年貢諸役相勤不申、其後御料所二罷成誰様ニく
御代官所之節も、御免除地二被成下候義紛無御座候、若少も偽り
申上候ハ、庄屋長百姓何分之曲事ニも可被仰付候、為後日庄屋長
百姓連判証文指上申処仍如件

亥八月

何村庄屋

たれ

長百姓
たれ

宍倉与兵衛様

御手代中

右何村何寺境内除地之義、給所之時分も水帳高外二記
御見捨罷成御年貢諸役不
相勤、何年以前何之年御料所二罷成、数度御代官様替り之砌も先
規も御除地之御断申立、前々通除地二被成置候義紛無御座候、為
後日拙者奥判仕候処仍如件

亥八月

何郡何村与頭

たれ

宍倉与兵衛様

御手代中

右除地之義立帳二而可指上由

何村借金記

一金何両

一金何両

是ハ誰様御裏判二而質物書
入、誰方二而借用仕候
くく

一金何両

〳〳

合金何ほと

何村庄屋

たれ印

一金何両

〳〳

一金何両

〳〳

合金何ほと

何村庄屋

たれ印

右之寄

金何千何百両

右者拙者と下村々百姓借用金仕、何月何月迄亥御年貢金ニ上納仕候分如此御座候、何も相違之儀無御座候、為其奥判仕候、以上

元禄九年子正月

何村与頭

たれ印

右ハ立帳ニ而可指上筈

飢食・作食代金拝借仕候事

一男女合何拾何人

飢人

坂井郡

何村

内

男何拾何人

但三月朔日迄五月十日迄小ヲ引日数六十九日分
一日老入三合宛

此米何石何斗

女何拾何人

但日数右同断
一日老入二式合宛

此米何石何斗

一男女合何拾何人

作食

同村

内

男何拾人

但四月朔日迄五月十日迄日数四十日分
一日老入三合宛

此米何石何斗

女何拾何人

但日数右同断
一日老入二式合宛

此米何石何斗何升

米合何拾何石何斗何升

此代銀何貫何百何拾何匁何分何厘

但米老石二付銀
四拾五匁六分代

此金何拾何兩何分銀何匁何分何厘

但兩替六拾目

右返上納次第

金何兩何分銀何匁何分何厘 当子暮返上納可仕分

金何兩何分銀何匁何分何厘 丑ノ暮返上納可仕分

金何兩何分銀何匁何分何厘 寅ノ暮返上納可仕分

右者坂井郡何村飢人扶持・作食米御拝借被仰付、代金前方ノ段々御貸渡金高何拾何兩銀何程請取切申候、右返納之義ハ当子之暮ノ寅之暮迄三年賦、老ケ年二金何兩何分何厘為村中年々返上納可仕候、御取立之時分御触之日限若遲滞仕候ハ、庄屋長百姓何分之越度ニも可被仰付候、為後日証文指上候処仍如件

元禄九年子五月

何村庄屋

たれ印

長百姓

たれ印

同

たれ印

(舟寄代官)
穴倉与兵衛様御内

木内八九郎殿

老村ノ如此書立組切之奥

右寄

如前之人数米銀書之

右者拙者組下何ヶ村飢食・作食米代金御拝借段々御貸渡被成、村々
庄屋長百姓拙者立合請取申候、依之奥判仕帳面指立候処仍如件

元禄九年子五月

何村与頭
誰印

六倉与兵衛様御内

是ハ本帳上書
元禄九年
木内八九郎殿

越前国坂井郡前谷組式拾壹ヶ村飢食拝借代金請取帳

子五月
何村

一金何ほと
惣借方

内何ほと
御裏判かり

一米何ほと
右同断

内何ほと
御裏判かり

右ハ当村百姓借金・借米御役人様御裏判并庄屋長百姓連判借□二、
(次カ)

右之通他借二而年々御年貢二上納仕候、則百姓別金米貸主相改、

別紙帳指上申候処相違無御座候、以上

月日

何村庄や

たれ

同長百姓

たれ

右ハ横帳二而

たれ

何村

辰ノ年

一高何石何斗何升

村散田百姓

何右衛門

此代米何石何斗何升

同銀何百何拾両

但御未進并御裏判借銀米共二

右同断

何兵衛

巳ノ年
一高何石何斗

此代米何ほと

同銀何ほと

但右同断

右者当村先年有来候百姓、拾壹年以前刁ノ年去亥年迄年々繰
送り御未進、并御裏判かり重り候て百姓ニ難立候二付而、村中へ
相断候而村散田ニ罷成候、此外切高之義ハ大分御座候得共此帳面
ニハ付上ケ不申候、重而何様之御吟味御座候共相違無御座候、以
上

何村庄屋

たれ

同長百姓

たれ

同

たれ

月日

右横帳二而

一笹岡・谷島両村川除人足扶持代銀両村証文

御陣屋へ指上申候

預り申金子之事

合金四両也

右ハ拙者与下田中・中川両村川除御普請被仰付被下候二付竹木代
銀之内預り申候、重而本手形指上此預り手形と引かへ可申候、為
後仍如件

元禄九年子五月十五日

前谷村与頭

次郎左衛門印

木内八九郎様

右之段々相済候而十五日罷歸り候

五月十五日

一舟寄る罷歸り候

同十六日

預り申金子之事

合金式拾五両銀七分三厘

右ハ拙者与下飢人扶持・作食米米代銀之内慥ニ請取申候、村々へ相渡し本証文相究、此仮り預りと引かへ可申候、以上

元禄九年子五月十六日

前谷村与頭
次郎左衛門 印

木内八九郎様

右之手形為持遣し候て金子請取、則其金子村々御年貢金ニ指上候

而上納手形式拾壹枚之上金式拾五両銀七分三厘請取申候

此内

金式分

新用村

金式分

北村

金三分

馬場村

金式分

東善寺村

金壹両

谷畠村

金壹両三分

矢地村

金壹分

田中村

金式両

中川村

金壹両壹分

十楽村

金壹両

青野木村

金式分

同村十楽入

金壹分

同村清王入

金壹両

清王村

金壹分此手形渡

西方寺村

金三両

菅野村

金式分

北野村

金壹両壹分

宮谷村

金式両壹分

山室村

金壹両壹分

高塚村

金四両三分

下関村

金式分銀七分三厘

前谷村

五月十七日

一鉄炮初而御改辰年、然共封ハ付不申証文斗御取被成候由後山へ申来り候

一卯年へ去亥年迄九年之内散田百姓相改、村々庄屋長百姓判形取申候

一村々借金・借米相改、村々付出し之帳ニ庄屋長百姓判形取申候

同十八日

一村々散田百姓并借金・借米相改申候

一矢地村御割付金指上不申候ニ付詮義之上証文取申候

一右散田百姓数百三拾七人内 卯年拾六人

辰年拾八人 巳ノ年拾壹人 午ノ年拾九人

未年九人 申年拾九人 酉ノ年五人

戌年貳拾壹人 亥年拾九人

同十九日

一与下村々散田百姓改帳并村惣借金借米改帳・惣御裏判之留帳・同

願之指紙四通、権右衛門為持舟寄へ指上申候

一矢地村御金不納ニ付舟寄へ庄屋長百姓参候様ニと申付候得共、不
参候ニ付重而はいふ遣し候

一轟木浄光寺屋敷之義、慶長三年其時之住持明超ニ御見捨被下候由

一中川村西光寺屋敷之義、四代以前智海代ニ御見捨被下候由

五月廿日

一矢地村庄屋長百姓参候ニ付、方々々少々宛も御金上納候処、其村

斗壹錢も指上不申候義重而御詮儀可有之由慥ニ届申候

同廿一日

一数右衛門様三国ニ御詰被成候ニ付為御見廻三国へ参候

同廿二日

一高塚村弥三兵衛、馬手形取ニ三国へ参候ニ付而手形遣し候、黒糟

毛三才馬壹疋、髪切黒毛四才馬壹疋、小荷駄栗毛四才馬壹疋、

三疋、内壹疋髪切、貳疋小荷駄、板取口手形

同廿三日

同廿四日

一三国々直ニ舟寄へ参、八九郎様能州へ御越ニ付御暇乞申上候、宿
へ帰り候

一馬工郎証文之案文、酒屋証文之案文御渡し被成候ニ付請取申候

一八九郎様を訴訟之義御内意有

同廿五日

一八九郎様能州へ御越ニ付御見送りニ何れも与頭中罷出、塩越御見

物被成候而浜坂ニ而御暇乞申上、夫々北潟へ参明王院へ立寄候而、

夫々三国へ参諸事仙右衛門様へ御意得候而御相談申候

同廿六日

同廿七日

同廿八日

同廿九日

一何れも与頭中同道ニ而罷歸り候

先達而被申渡候下森田村ニ有之候捨子之事、又々今日大宮彦右(大宮茂富・福井藩金津奉行)衛門方を申来候間、各与下村々早速被致僉義、来月三日迄之内

ニ有無之書付可被指出候、其趣を以彦右衛門方へ返答可致候間
急度可被致詮義候、以上

五月廿九日

高嶋藤四郎印

横田数右衛門印

与頭中

右之通はいふ遣し村之庄屋判形証文取申候

六月朔日

一右捨子之義村々吟味仕候証文判形取申候

同二日

一右同断

一御普請御見分ニ藤四郎様布目へ御越候由承候ニ付、御かし金証文判形押所窺彦兵衛方へ申遣し候

同三日

一捨子之証文舟寄へ善兵衛為持指上申候、数右衛門様を御返事被遣候

同四日

一御かし金人別帳并宗旨御改下帳持参候様ニと村々へ申遣し候

同五日

一御貸金証文帳書立申候

同六日

各与下亥御年貢納下り、来ル十一日を廿五日迄之内皆済致候様ニ
急度可被申付候、若日限遲滞之仕ハ急度可申付候条油断無之様嚴
敷可被申付候、以上

子六月朔日

木内八九郎印

与頭中不残

六月朔日之日付ニ而今日布目村を村次ニ参ニ付、後山へ早々村次
ニ遣し申候

一八九郎様能州へ御越被成候、御留守見廻ニ明七日何れも与頭中舟
寄へ参候間、自分も罷出候様ニと彦兵衛殿を被申越候

一河合・春近両郷之用水分水ハ上森田村ニ而、春近之郷へ取申水口
ハ幅貳尺貳寸之水口を春近之郷拾壹ヶ村へ水取来申处、右水口之
義ニ付河合郷拾四ヶ村と出入ニおよひ申由ニ而、東太郎丸・西太
郎丸・松木・金剛寺・田端・本堂右六ヶ村庄屋中舟寄庄右衛門同
道ニ而、出入之儀相談迄参候ニ付様子承候

六月七日

一与頭中舟寄罷出、八九郎様御留守御見廻藤四郎様・数右衛門様へ
 申上候、八九郎様も十日十一日二御歸り之由二候、舟寄を罷歸候
 節布目彦兵衛・兵庫武兵衛同道二而罷歸、右兩人私宅泊り被申候
 一舟寄二而春近六ヶ村出入之儀、御役人中へ御内意申上候へハ、八
 九郎様御歸り被成候迄相待候様二と被仰^(候ニ付)□□□、其段六ヶ村之庄
 屋中へ申渡し候

一 中川四郎左衛門鎌谷村持山之内、鎌谷三右衛門打開畑二仕候由最
 前^(マ)断四郎左衛門方を断申二付、当四日二四郎左衛門二権右衛門
 を指添、後山茂右衛門方へ為断申候

一 御未進金之儀御陣屋の村々へ直二御廻被成候、御廻状此方へ持参
 返し申候

同八日

一 右兩人之与頭中宿へ被罷歸候

同九日

一 御貸金本証文帳二村々庄屋判形取申候、鉄炮御改証文・除地証文、
 村々散田百姓村々借金借米留帳、亥御未進証文判形取申候
 一下関村吉兵衛・稲越村由兵衛出入嘔二而相済申由吉兵衛断二参候

六月十日

一 筆令啓上候、其許無恙御勤可被成と珍重存候、然者戌春御廻米
 諸入用払残銀早速割戻シ可申候処、取込候事共有之延引心外二御
 座候、今度其御地掛屋泉屋三右衛門方へ致為替銀三貫式匆九分三
 厘遣申候、委細請払帳面等相添青山藤介方迄指越申候間、御請取
 村々へ無相違御戻シ可給候、只今迄延引之段百姓衆所候^(愁緒九)如何存
 候、能様二御申聞可被下候、恐惶謹言

四月十一日

吉田惣兵衛
 書印

森川村安右衛門殿

猪嶋次左衛門殿

後山村茂右衛門殿

前谷村二郎左衛門殿

布目村彦兵衛殿

長田村喜左衛門殿

大牧村三太夫殿

尚々金子参着之時分鯖江近所候間、泉屋下代方へ之銀請手形ハ戸
 口中村弥左・北山村権右、此兩人手形出精候様二と藤介方へ申遣
 候、左様二御心得可給候、以上

飛脚を以致啓上候、各様御無事二御勤役可被成と珍重奉存候、
 然ハ吉田惣兵衛の御状之通戻り金、泉屋手代方を一昨日請取置申
 候、当月十六日二鯖江寺内村新五兵衛迄御出被成、御仕上ヶ帳面
 等委細御吟味之上右金御請取可被成候、万一各様御指合等御座候

ハ、御名代ニ慥成庄屋中可被遣候、金子御請取手形取立候間左様
ニ御心得可被成候、尤戌春御出置候先割金、三宅惣太夫様御請取
手形不殘御持参可被成候、戻り金と引かへ申候、猶貴面ニ緩々可
得御意候儘早々啓上致候、恐惶謹言

松村権右衛門
書印

六月七日

玉村弥左衛門
書印

丹生郡坂井郡大野郡

与頭衆中宛所

六ヶ村庄屋中

追而、此者日暮候ハ、無相違宿御かし可被下候、尚々吉田惣兵衛
様御状留る此者ニ御戻し可被下候

菅野・伊井・宮谷・高塚・山室・国影此六ヶ村庄屋中銘々

印判持参可被成候

右式通之書状、北山村権右衛門・戸口村弥左衛門方より飛脚廻し
被申ニ付拝見申候

一 六月朔日、能州より八九郎様亥御未進金御取立可被成由村々へ直御
廻状、我等方廻り留候而参□□致拝見舟寄返し申候

一 御貸金証文帳壹通・馬工郎証文帳壹通・除地証文六通・村々散田
百姓付立帳壹冊、并ニ借金借米帳共ニ飢人・作食人相改、当二月
ニ上ヶ置候へ共少違有之ニ付改帳面指上ヶ申候、右之諸帳共舟寄
へ指上候

一 矢地村用水ふしん早々仕候様ニと庄屋中へかたく申付候

六月十一日

一 八九郎様御迎ニ一本松迄罷出可申と与頭中と申合候処、御迎ニ罷
出候事無用之由仙右衛門様被仰候、其上三国へ御用候間罷出候様
ニと彦兵衛方より被申越候ニ付参候

同十二日

一 戻り銀取遣し申ニ付鯖江参候義何れも与頭中相談仕候

昨十一日ニ能州より罷歸り候、就夫申渡御用有之候間、明十三日
ニ陣屋迄罷出可被申候、為其申遣候、以上

木内八九郎 印

六月十二日

与頭中

同十三日

一 舟寄へ罷出候へハ、御取立之義村々延引仕候義不届ニ候間、御役
人様方二三日之内ニ御出被成候間、急度御詮儀之上不届ニ相究候
村ハ急度可被仰付由ニ候

同十四日

一 銀壹貫八百拾三匁

但亥十一月十二日より子六月十二日迄諸入用銀

此割

銀貳百四拾匁

前谷組当り

此金三両三分 両替六拾四匁

右之通振り割仕候者也

一御用仕廻罷歸り候

一御金取立候義村々早々申触候

一河合・春近之郷用水分水之義ニ付出入有之ニ付而、彦兵衛・武兵

衛・源左衛門・茂右衛門・次郎左衛門五人之与頭共、罷出候而噉

申様ニと八九郎様を被仰付候

一昨十三日ニ北山村与頭権右衛門方を与頭次之廻状参候ハ、六ヶ村

へも右廻状を為持飛脚遣し候処、飛脚之者失念仕六ヶ村へ不参候

間重而申遣し、今日六ヶ村へ申遣し候間、手形十六日ニ持参候様

ニと申来り候ニ付、菅野村半右衛門与・山室村・宮谷村・高つか

村右四ヶ村へ申遣し候

六月十五日

一銀八拾八匁八分

菅野村半右衛門与

戊春御廻米入用先割戊四月朔日三宅惣太夫様御請取手形壹枚、

御廻米貳拾九石六斗

一銀百六拾匁貳分

山室村

右同断同日付御廻米五拾三石四斗

一銀百三拾六匁八分

宮谷村

右同断同日付御廻米四拾五石六斗

一銀六拾貳匁四分

高塚村

右同断同日付御廻米貳拾石八斗

右之御手形四枚後山村善兵衛ニ相渡鯖江へ遣し申候、十六日ニ善

兵衛鯖江へ参候

一去亥御年貢納下り金、当月十一日を来ル廿五日迄之内皆済可申

由先達而相触候之处、于今不相納候段不屈之至ニ候、近日支配

方被相廻僉儀可被致候間左様ニ可相心得候、其節難渋之ものハ

不及申ニ庄屋長百姓招呼急度可申付候、油断有間敷候、此廻状

村下ニ庄屋印判致無遅々相廻し可申候、若村次延引之村有之ハ

是又可為越度候、以上

六月十五日

木内八九郎 印

前谷組村々

右之御廻状此方迄被遣候ニ付、添状いたし是を村々へ廻し申候

一中川村四郎左衛門鎌谷村持山之義ニ付訴状指上候ニ付、後山茂右

衛門殿へ下ニ而埒明申間敷事ニ候ハ、訴状取次可申候哉と断申候

得ハ、鎌谷三右衛門呼寄今一応聞切可申候間、夫迄取次申義延引

仕候様ニと御申ニ付相待申候

六月十六日

一笹岡村庄屋長百姓・五人頭呼寄御取立之段々申渡候

一矢地善右衛門参候ニ付、御廻米之内かし申米相済候様ニと申渡し

候

同十七日

一北村自分亥御年貢金之内、遣善四郎ニ而五兵衛ニ相渡し申候

一横田数右衛門様御取立御吟味として兵庫迄御出被成候而、明十八日ニ此方へ御こし可被成候間、村々庄屋長百姓明十八日之晚呼寄候様ニと被仰遣候ニ付、明昼から庄屋長百姓参候様ニとはいふ出し申候

六月十八日

一鹿毛四才馬壱疋小荷駄、鹿毛四才馬壱疋同断、栗毛五才馬壱疋同断、栗毛四才馬壱疋同断、栗毛三才馬壱疋かミ切、ノ五疋、馬主新用村二郎兵衛板取口通り手形判形いたし候

一横田数右衛門様下兵庫御越被成候而、与下村々庄屋長百姓被召寄御未進金之御詮儀被遊候而、残金之分当月廿日・廿五日両度請合証文指上申候

一後山与下村々も此方へ被召寄右之通被仰付候

一去五月初ニ金沢本多安房守様御内藤井与右衛門と申馬乗、金津伝右衛門方迄参候而、清王村権兵衛黒ふち三才馬代銀百三拾五匁ニかい取、代銀ハ金沢ニ而可相渡由与右衛門請合証文いたし、十楽五十郎・西方寺市郎右衛門加判仕候処右之代銀延引申ニ付、兩人之請人共六月七日ニ金沢参せんき仕候へ共不埒ニ付、藤井与右衛

門寄親高木元右衛門と申仁へ相断候へハ、代銀相済候ニ付而右之兩人当十二日ニ罷歸り候、然処今日九ツ過ニ金津伝右衛門方ヨ市介と申者をつかひニ而、内談仕事有之候間五十郎ニ参候様ニと申越候へ共、御用候而前谷へ参候間歸り候て可参と申返し候処、藤井与右衛門金津へ伝右衛門方迄参候由承及候ニ付、かけニ而様子承候へハ五十郎と打果し可申ニ而与右衛門参候由承候ニ付五十郎金津へ不参候得ハ与右衛門五十郎方へ参候ニ付女子共とも二家出を仕候へハ、五十郎小屋ニ罷有五十郎を相待候由五十郎・市郎右衛門断ニ参候ニ付、則数右衛門様へ申上金津伝右衛門方へ右兩人断ニ遣し候

同十九日

一数右衛門様舟寄へ御歸り被成候ニ付村々へ御廻状被遣候

一最前八九郎様ヨ村々へ被遣候御廻状今日数右衛門様返上いたし候

西ノ御年貢戌春御廻米六ケ村

一米貳拾九石六斗 菅野半右衛門与

一米五拾三石四斗 山室村

一米四拾五石六斗 宮谷村

一米貳拾石八斗 高塚村

ノ米百四拾九石四斗

此戻り銀八拾匁貳分七厘

壱石ニ付銀五分四厘四毛ツ、

内

金壹両壹分 後山善兵衛方へ請取申候

一 右藤井与右衛門、金津伝右衛門方へ引取候由五十郎・市郎右衛門断ニ参候、書状指添数右衛門様迄御断右両人遣し申候、舟寄の罷歸り候ハ、金津庄屋市郎兵衛方へ我等使として参候而、右之段々伝右衛門仕方相断候様ニと申付候

御廻米為納宰料井江菟村次郎右衛門・徳分田村宗兵衛罷越候ニ付預連状致披見候、書面之通互能対談候、先以何も御無事ニ御用等被相達由珍重ニ存候、此地旦那御義御機嫌能御用等御勤、折々御登城被為遊候間何茂可為恐悦候、次ニ拙者共無事相勤候、然者当春其辺村々相詰り候由ニ而夫食・作食等願出候処、早速相叶我等共迄満足申事ニ候、何も書面之趣逐披露候処被人念候義と被遊御意候、我等共も与風罷登候ハ、期面談可申述候、其表随分御用大切ニ可被相勤候、恐惶謹言

六月九日

神田喜兵衛

好房 書印

高嶋太次兵衛

忠親 書印

東長田

源左衛門殿

下兵庫

武兵衛殿

布目

彦兵衛殿

前谷

二郎左衛門殿

後山

茂右衛門殿

一 納宰料井江菟村二郎右衛門・徳分田村宗兵衛方へ与頭中へ連状、

六月八日之日付ニ而参候、其状之内(古郡年明・鯖江代官)古郡文右衛門様方御廻船先月

廿八・九日之雨風ニ而伊豆国下田近所ニ而破船仕候由、当月五日之晚江戸へ注進候由申越候、其外之船共ハ何方ニ罷有候も知不申候と申越候

一 河合・春近用水出入之事、明廿日ニ舟寄へ何も罷出御指図を請嘸ニ罷出可申と布目被申越候、次ニ八九郎様能州御ミやけの刺鯖布め参候ニ付頂戴申候、右之両通之状・彦兵衛状共ニ御ミやけの鯖共ニ、後山へ遣し候様ニと櫛村へ遣し申候

一 右十楽村五十郎・西方寺村市郎右衛門舟寄へ参候而様子申上候へハ拙者ニ罷越候様ニと被仰越候

六月廿日

一 右之御用并河合春近出入之嘸ニ舟寄へ参候ニ付、去年八月・九月青野木村・下関村八九郎様御裏判証文返上いたし候

一 舟寄御陣屋ニ而、十楽村五十郎・西方寺村市郎右衛門・清王権兵衛ふち馬代銀之義ニ付加州ニ而訴訟申義不届之由、其上藤井与右衛門と申者牢人為致候而喧嘩可仕といたし候段々、不届ニ候間籠舎可被仰付由ニ而口書御取被成候へ共、御侘言申上候ニ付村人ニ御預ケ被成候間、証文取置候様ニと被仰付候

一 河合・春近用水出入嘸之義、下兵庫武兵衛・長田源左衛門・後山善兵衛此三人ハ舟寄の大牧三大夫方へ参候、布目彦兵衛・舟寄善右衛門・前谷二郎左衛門此三人ハ下森田村二郎兵衛方へ参候へハ、

古市七右衛門・同金右衛門・二郎兵衛同心ニ而罷出候ニ付、出入
 嚙之儀河合春近・用水分水口ノ針原村之者共取上ケ申石之儀二郎
 兵衛被申候ハ、堰漏水留石ニ居置申石之由被申ニ付、せき為丈夫
 之二候ヘハ新石を足シ、用水上リ之時分伏可申定嚙候ヘハ、金津
 ヘ参御内意得候而明日罷出可申由何も被申ニ付舟寄ヘ罷歸リ、大
 牧三大夫も右嚙之次第合点ニ候ヘ共、針原村之者共承引不仕候ニ
 付石田ヘ御断ニ参候間、返事申迄相待候様ニと申ニ付舟寄ニ罷有
 候、下森田二郎兵衛ハ煩ニ而外ヘハ不罷出候

六月廿一日

一中角村宗左衛門・古市七右衛門・同金右衛門金津ノ罷歸リ、弥嚙
 之通相済可申由返事申来リ候ニ付、右三人ヘ八九郎様御あい被成、
 大牧ノ返事無之候ニ付而相待罷有候

同廿二日

一三太夫石田ノ今晚カ明朝返事可申由石田ノ飛脚遣し候ニ付、森田
 方之者共留置申候

同廿三日

一大牧三太夫石田ノ罷歸針原村之者共右之嚙承引不仕候由申来リ候
 ニ付、然者舟寄御支配下春近郷六ヶ村と河合郷と壱所ニ成針原と
 出入可仕由ニ而、彦兵衛・善兵衛・二郎左衛門三人^(大宮茂富・福井)大宮彦右衛門

^{藩金津奉行}
 様ヘ被遣候ニ付、口上之段々申上宿ヘ罷歸リ候

一戊春御廻米先割戻リ銀我等与下之分并ニ六ヶ村共ニ善兵衛方ノ金
 子相渡請取申候、米高目録有

西御年貢之内戊春御廻米之覚

米六石貳斗	北野村
米拾石四斗	北村
米貳拾四石五斗	矢地村
米四拾八石	中川村
米五拾八石五斗	笹岡村
米貳拾四石五斗	田中村
米六石壹斗	前谷村
米四拾石四斗	青野木村
米貳拾貳石	十楽村
米壹石三斗	西方寺村
米拾三石六斗	清王村
米七石四斗	新用村
米九石三斗	馬場村
米三石三斗	谷畠村
米九石三斗	東善寺村
米拾五石七斗	菅野村
ノ三百石五斗	
米貳拾九石六斗	菅野半右衛門与

米貳拾壹石五斗 伊井村又九郎与

米四拾五石六斗 宮谷村

米五拾三石四斗 山室村

米三拾石三斗 国影村

米貳拾石八斗 高塚村

ノ貳百壹石貳斗

貳口米合五百壹石七斗

此銀貳百七拾貳匁九分貳厘 壹石五分四厘四毛

内六匁四分七厘

残 是ハ右之銀子鯖江取ニ參候駄賃雜用銀ニ引

銀貳百六拾六匁四分五厘

此金四兩壹分銀拾壹匁四分五厘

右之指引後山善兵衛ヲ請取申候

六月廿四日

一与頭中用事候而三国河内屋へ參候

同廿五日

一御取立御詮儀ニ明廿六日ニ藤四郎様御越被遊候間、与下村々庄屋
長百姓廿六日ニ寄せ置可申候、其上御迎之遣し候様ニと被仰越候
ニ付、中川村ハ馬壹疋田中村人足貳人遣し申候

同廿六日

一村々庄屋長百姓呼置御金請合相立申候、三国ハ今日罷歸候

同廿七日

一御取立之儀ニ付笹岡村段々不届有之ニ付、御せんきの上五人頭共
くし取被仰付候而、彦兵衛くし取ニ而籠舎被仰付候、証文別紙ニ
有

其方組下去亥之納下り当月廿五日迄之内皆済可致旨支配方迄請
負之候処于今皆済無之、剩曾而不相納村も有之、旁以不届之至
ニ候、如何被致詮儀候哉、此方御代官所ニ限り此通令難洪処不
得其意候、村々為吟味支配方被相廻候間、委細下知を請村々難
洪候子細遂詮儀、村々申分書付早々可被指越候、難洪之村庄屋
長百姓召寄急度可申付候、以上

六月廿七日

木内八九郎印

前谷村二郎左衛門殿

右ハ名之下致判相返し可申候

一矢地村靈順方当十七日之夜盗人入候而物数被盜候処、雜物之内さ
く方ニ有之候間、せんきいたし候様ニと靈順方ハ申出候

当国米・雜穀共ニ高直ニ有之候ニ付来ル朔日ハ沖口留、米・雜
穀他国へ出し不申候間左様ニ相心得、重而沖之口明之節御断可
有之候間村々左様相心得可申候、此廻状村下印判いたし無遅々
相廻し、留り村ハ相返し可申候、以上

六月廿七日

木内八九郎印

前谷組村々

各御代官所之内当夏二至而雪降候由風説有之候、左様之義も有之候哉、於拙者何方何月何日ニ雪何程降候と申事書付可被指出候、若各へも不相聞候ハ、御代官所へ被申越有無之儀御申聞可被成候、先何ニ付候而も右之答早速我等共方へ御申越可被成候、此旨御頭中被仰候ニ付如此ニ御座候、以上

六月十九日

組頭中御名

上方

御代官衆中

右之通福居御屋敷早飛脚ニ而江戸從御屋敷申来り候間、雪降候覺へ有之候ハ、其通、又ハ四月節ニ入只今迄雪降不申候ハ、其趣、右両様之内何之方ニ而も相違無之様ニ書付、明日中船寄陣屋迄可指越候、尤各印形ニ而早々可被指越候、急御用ニ候間遅々有間敷候、以上

子六月廿七日

木内八九郎印

戌ノ中刻

前谷村二郎左衛門殿

後山村茂右衛門殿

右之御廻状廿七日子之下刻櫛村迄遣し申候

六月廿八日

指上申一札之事

一当夏中二至而雪降候由風節有之ニ付御尋ニ御座候得共、当四月

〆只今迄於此近所ニ雪降申義無御座候、為其書付指上申候、以上

元禄九年子六月廿八日

前谷村与頭
次郎左衛門印

御陣屋

一沖之口留米・雜穀他国へ出し申間敷との御廻状、当御年貢六月晦日切、七月七日切請合、相残分者七月十三日切ニ急度皆済可仕由、藤四郎様御廻状共ニ式通我等添配符仕村々へ廻し申候

一三升鍋沓ツ・仏供鍋沓ツ・御仏器沓ツ・入子鉢沓ツ・摺鉢沓ツ・木綿帶沓筋・木綿頭巾沓ツ・白けさ沓かけ、ノ八点六月十七日之夜被盜候処、右雜物之内入子鉢を同月廿四日ニ見付候ニ付吟味仕候処、さく盜取申二頭候ニ付、庄屋長百姓ニ断右之入子鉢伝兵衛ニ預ケ置申候由矢地靈順断申候

一仙右衛門様後山御立ニ付御立寄候而、藤四郎様と御同道ニ而御立候而仙右衛門様ハ下兵庫へ御越、藤四郎様ハ布目村へ御越被成候一八九郎様〆御取立之儀ニ付御廻状被遣候、此方ニ留りニ候

六月廿九日

一御未進請合金為詮儀と権右衛門ハ笹岡〆高塚迄遣し申候、自分ハ矢地〆谷畠迄参候而、藤四郎様申上御用候而布目迄泊り罷有候一笹岡村彦三郎牢舎被仰付候由ニ而宗左衛門断ニ参候

一当郡願状之写、能州滝右衛門様・助左衛門様へ指上申ニ付舟寄善右衛門迄遣ス

同晦日

一 明朔日藤四郎様御越被遊候間、今日切之御金早々上納いたし可申候、其上明一日二村之庄や長百姓前谷村迄参候様にと申ふれ候

七月朔日

一 藤四郎様舟寄の御越候而、村々庄屋長百姓二御取立請合之段々被仰付候

一 笹岡村彦三郎牢舎被仰付候節、長百姓老人指添参候様にと被仰付候処五人頭清右衛門指添参候二付八九郎の御詮儀被成候様にと被仰付候二付、庄屋長百姓御せんきの上口書御取被成候

一 十楽村五十郎・西方寺村市郎右衛門、庄や長百姓預り申証文藤四郎様へ指上申候

同二日

一 数右衛門様の昨日御状被下候二付御返事申上候、則権右衛門判鑑指上申候

一 人別帳之案紙布目昨日参候

一 笹岡村宗左衛門・七右衛門・清右衛門、舟寄参御侘言申上候処御免被成候而罷歸り申候

一 馬場村五兵衛と申者、江戸二而御屋敷へ金三分亥御年貢金二指上申由申越候二付御断申上候へハ、馬場村御年貢入方二相立候様ニ

と被仰付候

同三日

一 御簾尾村熊坂川筋川除仕候二付、北野村二支申義無之候哉相尋可申事

一 高嶋藤四郎様布目村へ御越被成候

一 後山善兵衛・自分同道二而布目村参候

七月四日

一 村々庄屋長百姓寄合、去暮の当夏迄指引わり仕相済候

一 六日切請合金之事村々へかたく申渡し候

同五日

一 藤四郎今日御越被成候、則村々御廻状被遣候、我等添はいふ二而遣し申候

一 明六日切請合金上納手形を持、明晩村々庄屋被参候様にと申ふれ候

一 下関村へ請合金不足仕百姓有之候ハ、めしつれ参候様にと、庄屋長百姓方へはいふ為持伝右衛門遣し申候

同六日

一 笹岡村六日切請合金式拾四両之内五日三両上納、六日金六両取立

金有、残而拾五両不足、其外四拾七両三分余十一日切請合有之候、然処右之通大分不足有之二付、庄屋長百姓之内一人牢舎被仰付候様ニと舟寄ニ被遣候、其外五人頭之内一人最前牢舎被仰付候彦三郎御入かへ候様ニと、藤四郎様ハ八九郎様被仰達候

一惣金貳百七拾九両貳分余上関村、内百八拾九両七月六日迄上納、九拾両余納残り金

一舟寄ニ而笹岡村庄屋長百姓御詮儀之上、庄屋宗左衛門・長百姓七右衛門・市郎兵衛牢舎被仰付候、右之彦三郎共ニ四人牢舎被仰付候

一六日切請合金村々詮儀仕候処今日切延申村々詮儀之上、不足金七日・八日迄ニ指延申候

同七日

一六日切御金せんき右同断

一藤四郎様布目村へ御こし被成候

一与頭中何れも布目へ寄合、御取立之相談仕何とそいたし、金高ハ八分九分之間取立可申相談いたし候

同八日

一村々を廻り、納残り之内ニ而盆前之内可被取立金高之せんきいたし候、相究次第帳面ニ有

七月九日

一右之通村々廻り吟味いたし候

一轟木村大困窮ニ付御取立外村ハ少指置候得共、外村之おもわくも有之二付藤四郎様へ段々申上、庄屋長百姓舟寄へ遣し数右衛門様へ申上候ハ、此村之儀何をとりへニ御金取立可申心当ハ無御座候へ共、此村斗其通ニいたし置候而外村之存知も可有御座候間、舟寄ニ而宿預ケニも被成間敷候哉、御窺之ため遣し候と書状指添遣し候

同十日

一明七ツニ舟寄御手紙被遣候ハ、笹岡村長百姓五人頭五人舟寄へ遣し候様ニと被仰越候付、宗右衛門・与三右衛門・九右衛門・清右衛門・助右衛門ニ数右衛門様書状為持舟寄へ遣し申候

一藤四郎様布目ハ御こし被遊候

同十一日

一村々十一日切請合金上納手形御改被成候

一昨十日ニ笹岡村之者共舟寄へ被召寄、宗右衛門・九右衛門・与三右衛門・清右衛門・助右衛門此五人重而又牢舎被仰付候而、庄屋宗左衛門ハ出籠被仰付昨晚罷歸り候ニ付其断ニ参候

一請合金下関村不罷成候ニ付庄屋九兵衛・長百姓与三兵衛・加右衛門・助右衛門小百姓共めしつれ参候ニ付、色々吟味いたし候得共

未進金指上可申様無之由ニ申ニ付、右庄や長百生と相談を以未進銀込シ持高面々切為出、九年季質物ニ為入申候

同十二日

一村々未進請合金之せんきいたし候

一下関村へ参せんきいたし、罷帰候節矢地善右衛門与吟味いたし候

同十三日

一藤四郎様舟寄へ御帰り被成候

一我等も舟寄へ参取立之段々申上候

一下関村益前請合金之事吟味仕候处、右金子之内五両当十八九日ニ

新屋宗兵衛の金五両下関へかし可申由手かミ両度こし申ニ付、其

段御断申上五両之金我等預り指上申候、我等方へハ下関村与三兵

衛預り取置申候

一方々牢入之御侘一同ニ申上候へ共御免なく候

一矢地村両庄や中ケ間算用ニ付請合之内金式分不足ニ成申候处、今

日ニ成調不申候ニ付其御断申手紙指上候

一舟寄の夜ニ入罷帰り候

同十四日

一昨日まで請合金上納不足之村々吟味仕候处、今日切ニ相済候由村々

の断ニ参候

一鹿毛三才髪切馬壹疋、笹岡村彦三郎加州へ引参候ニ付細呂木口御手形申請候

同十五日

一笹岡村彦三郎金沢引参候間、其内牢舎御免被下候様ニと願申ニ付、

其段藤四郎様迄御内意申上候得共、出牢為致成間敷由被仰越候

一(踊)おとり・(相撲)すまふ惣人寄を仕言分口論仕間敷候、若言分出入出来候

ハ、其村々庄屋長百姓申分ケ有ましく候間、其心得候様ニと申遣し候

同十六日

一本庄へ参夫の布目三国へ参候

同十七日

一布目彦兵衛と諸事相談いたし罷帰候

一高塚村当十三日ニ申請候御裏判証文紛失之儀申来候ニ付、自分不存候趣申渡候

同十八日

一舟寄へ参、笹岡村籠入長百姓五人頭残牢舎(不脱)ニ候故御金調不申候間、

牢入八人之内式三人御残候而御出し被下候ハ、請合不足金当月

切ニ取立指上可申と藤四郎様迄申上候へハ、廿日ニ御用候而与中

不残被召寄候、問其節御相談之上可被仰付由ニ而罷歸り候

申談御用有之候間来廿日ニいづれも陣屋迄可被参候、以上

七月十八日

木内八九郎 印

与頭中

七月十九日

同二十日

一舟寄被召寄参候ニ付盆前御裏判之願狀認指上申候、并酒屋御改証
文も持参申候

一浮役増減有之候哉吟味仕増減之品書付可指上候、無増減去亥年
之通ニ候ヘハ其段与頭判形ニ書付可指上事

一与下村々用水懸り・清水懸り・天水所其詛書付可指上事

一亥御年貢納方残金壹人改帳可指上候

但帳面案紙別紙ニ有

一盆前迄御年貢金相残分ハ当九月中ニ取立可指上候間、御指延被
下候様ニと御支配所与頭連判ニ而願狀指上候、留有

一亥ノ御年貢金年々度々指上候御手形壹枚宛写し可指上事

一狼・鹿等出候而人ニ懸り候か、作ニあたり候ハ、其段御断可申
上候、おとし鉄炮御かし可被成事

一御陣屋敷御立被成候ニ付御普請段々被仰付候、割当り物前谷組
之分人足諸色別帳ニ有

一笹岡村牢入之義御詫言申上候ヘハ、八人之内ニ而彦三郎・九右衛

門・市郎兵衛・清右衛門・宗右衛門・七右衛門六人者出牢被仰付
候、則於御陣屋証文被仰付候、請合御金拾三步、壹分不足有之ニ
付助右衛門・与三右衛門ハ牢舎不御免候
一十楽村五十郎・西方寺村市郎右衛門村ヘ御預ケ之儀、御詫言申上
候ヘハ証文指上候ハ、御免可被遊由ニ候

同廿一日

一右之通ニ而舟寄ニ泊り罷歸り候、矢地村靈順盗人ニあい申段々数
右衛門様ヘ申上候ヘハ、重而靈順遣し候様ニと被仰付候

一当四月ニ当郡々指上候願狀御返し被成候ニ付、自分方ニ預り置申
候

一亥御年貢納方当春指上候、壹人改帳ハ御返し被成候

同廿二日

一与下村々庄屋呼寄候而右之段々申渡候、并堤番人之儀ニ付十郷之
内村々口書取申候

同廿三日

一東郷村ヘ参候而永昌寺泊り申候

同廿四日

一福井ニ罷有候

同廿五日

同廿六日

一舟寄御陣屋地祭之御祝ニ権右衛門参候ニ付、除地証文最前指上候文之内ニ悪敷所有之由ニ而御返し被成候、次二十楽村次兵衛・茂作除地証文指上不申候ニ付是御書付被遣候
一十楽村五十郎・西方寺村市郎右衛門御預ケ御免証文ニ、我等奥判仕候様ニと御返し被成候

同廿七日

同廿八日

一東郷の福居・三国へ参候罷歸り候
一來二日御陣屋惣堀御普請被仰付候由善右衛門の被申越候ニ付、惣人足百式拾人・鋤六拾丁・鍬五拾丁・手持籠五十、与下村々割付出申候

同廿九日

一藤四郎様笹岡村牢入之儀書状を以申上候

同晦日

一矢地靈順被盜物之書付取次候様ニと度々申ニ付、手紙を添今日数右衛門様へ遣し申候、次二十郷堤番人之儀ニ付村々口書、靈順ニ

言伝数右衛門様へ指上申候

一右靈順訴訟之義ニ付、矢地村庄屋長百姓明朝日ニ舟寄へ参候様ニと数右衛門様御配符靈順ニ被遣候処、靈順罷歸り申候ハ、此義ニ付庄屋長百姓被召寄候義何共迷惑仕候間、先思案も仕度候間明日庄屋長百姓舟寄へ参候事御指延被下候様ニと申ニ付、御配符ハ此方へ請取、翌朔日ニ舟寄へ靈順願之段数右衛門様へ申上候
一中川村西光寺、加州能美郡原村と申所ニ而智円正元と申僧建久ニ辛亥年開基仕、今惠精迄ハ拾七代ニ罷成候由、長享式戊申年九代目智性真順と申僧越前兵庫村へ引越、文龜元年辛酉年御簾尾村へ引越、永正十年癸酉年中川村へ引越、元禄八年乙亥年迄百八拾式年、永正之頃住寺ハ智性真順、今惠精迄九代

八月朔日

請取申江料・池料米之事

一米五斗九合六勺

新用村

一米七斗壹合壹勺

羽根馬場村

一米八斗五合

東善寺村

一米壹石壹斗四合

谷畠村

一米八斗貳升八合

轟木村

一米三石六升七合七勺

下関村

右者坂井郡・吉田郡・大野郡村々用水溜池并井筋ニ罷成候場所、先規の高内之田畑掘用水□来り候得共、高引ケ不申前々取米之

内ニ而為江料・池料米毎年被下置候、亥之年分御納米之内を以御渡し被下慥ニ請取申候、為後日村之庄屋長百姓連判手形指上申処仍如件

元禄九年子五月

右村々
庄屋長百姓連判

右之通三郡老冊之証文帳ニ而指上申候

同二日

一舟寄御陣屋御屋敷惣堀・土手普請被仰付候、自分組へほり并土手長拾九間式尺当り申付、人足百式拾人村々庄屋拾三人掘立申候、庄屋共ニハ御酒被下候、与頭共ニハ夕料理御陣屋ニ而被下候

一自分義ハ朔日之晩ハ舟寄へ参候而、笹岡村助右衛門・同村与三右衛門牢舎之儀御侘言申上候処、於御陣屋牢入之者兩人庄屋長百姓ニ証文被仰付、出牢被仰付候

一宗門御改寺判、来ル八日二下兵庫村大善寺ニ而取可申由組頭中と申合候

一村々地免之義委細被仰付候

同三日

一舟寄ハ罷歸り候

同四日

一宗門御改帳書申候、除地証文書かへ申候

同五日

同六日

同七日

一宗門御改帳庄屋長百姓・五人頭之判取申候

一除屋敷証文判申候

一亥御年貢上納金手形留判申候

一人別帳之義委細申渡し候

八月八日

一坂井郡六組共下兵庫村大善寺ニ而宗旨御改寺判相改申候

同九日

一下兵庫村大善寺を何れも退去仕候、今日迄不参之御寺方ハ面々宿々ニ而判形取申候、地免之儀相談ニ布目へ参夫ハ三国へ参候

同十日

一地免之儀布目・後山・前谷三組ハ大概老所ニ相談いたし候

同十一日

同十二日

同十三日

一宿罷歸り候、舟寄御陣屋井戸かわ輪竹五六寸廻り之竹八本善右衛門方を被申越候ニ付而、明十四日ニ持参仕候様ニと笹岡村へ申付候

同十四日

一御陣屋式軒(木舞)かう米立有之二付、かや・竹・麻木・麻木簀共ニ明十五日ニ不残持参候様ニと舟寄善右衛門を申越候ニ付村々申触候

同十五日

一有馬(有馬清純)左衛門佐様丸岡御入部之由

一御陣屋御普請御見廻として権右衛門舟寄へ遣し申二付、宗旨御改帳・除地御改証文帳、亥御年貢御金亥秋を子秋迄上納御手形留帳三通、御陣屋へ持参申候、但除地証文最前指上候得共御返し候て、今度ハ帳証文ニ而指上申候

一八九郎様白山麓へ御こし被成候而御留守之由ニ候故、地免帳ハ封し候て善右衛門方迄遣し申候、則地免帳之外口上書を相添指上申候、其文ハ

口上覚を以申上候

一拙者と下村之地免之様子大概愚意ニ及候分ハ書付指上申候、然共去年・去々年両年悪作故地免ニ無構百姓ハ平等ニ困窮仕候、尤当作今日迄之義ハ田方ハ中之上、畑方ハ中作と奉存候、然共当暮ニ至而夏中かり金之利足少々も払申ニをゐては、米下直ニ

候ハ、百姓弥難儀可仕と奉存候、当年御慈悲を以潰不申、自然来壹作大牀ニ候へハ御百姓ニ成統申者余多可有御座と奉存候、然上ハ貴公様御賢慮を以百姓浮沈ハ当年至極之様ニ奉存候、并当春申上候当米納之義御相談被遊間敷候哉、乍憚存知寄候趣任愚意申上候、以上

前谷村
二郎左衛門

子八月十四日
(木内)
木八九郎様

八月十六日

同十七日

同十八日

一舟寄(洪柿)をしふかき御用之由魚や宗右衛門を被申越候ニ付、代銀老奴式分かしふ柿前谷村市兵衛ニかわせ候而遣し申候

同十九日

一(マ)中中村勝正寺富札いたされ候

同廿日

一右之しふ柿北野村之人足ニ為持舟寄へ遣し申候

同廿一日

一舟寄へ御普請御見廻ニ参候

一亥年御皆済目録案紙藤四郎様へ御渡し被成候

一地免之義二付内談之事有之二付、明日布目迄罷出候様二と彦兵衛へ被申越候

同廿二日

一地免之義其外内談之事有之二付与頭中不残布目へ罷出候

同廿三日

同廿四日

同廿五日

一御代官様能州へ御着被遊候二付、舟寄善右衛門・布目彦兵衛能州へ参候

同廿六日

同廿七日

同廿八日

一東善寺村伝右衛門、村中代り庄屋二候間八月切代り申度由断二参候二付、来年庄屋番誰二候哉と相尋候へハ、利兵衛・次右衛門兩人之内之由申二付、長百姓共相談之上代りを究相断候様二と申はいふ遣し候

一御簾尾村水道、北村田地之内二伏させ申事成不申候由北村へ断二参候二付、後山村善兵衛方へ北村地之内二伏候へハ北村田地之痛

二成候二付、伏させ申事難成由断之手紙遣し申候、使北村新右衛門

同廿九日

一右之義御簾尾村堅申付候由善兵衛へ返事被指越候二付、其通北村へ申遣候

九月朔日

覚

一吹直金銀段々出来寄候之間、不依誰人所持之古金銀両替屋方へ聞合、無油断新金銀与引替可申候、吹直新金銀出来之上者、古金銀通用可為停止候間可存其旨候、次二灰吹銀茂吹直候間同前二可相心得候、以上

七月

如斯御書付出候付写遣候間被得其意、面々御代官所中江茂可被相触候、在々二而いまた新金銀不見知ものも有之故差支候様二相聞へ候間、見覺候様に心を付可被申候、以上

七月十七日

(諸星忠直・勘定吟味役)
諸星伝左衛門

(井戸良弘・勘定奉行)
井戸志摩守

(萩原重秀・勘定奉行)
萩原彦次郎

(稻生正照・勘定奉行)
稻生下野守

(松平重良・勘定奉行)
松平美濃守

覚

今度本郷ニ而金銀吹直候場所之外、一切金銀吹直申間敷候、自然脇々ニ而吹直候もの有之歟、又者似せ金銀拵候もの有之ハ早速訴人ニ出へし、縦同類たりといふとも其科をゆるし急度御ほうひ被下、其上あたをなさゝるやうに可申付之、若隠置後日ニ外よりあらはるゝにおゐては、其身ハ不及申諸親類并所之もの迄可為曲事者也

子七月

如斯御書付出候付遣候間被得其意、各御代官所中へも可被相触候、尤知行所有之面々者は又可申触候、以上

八月三日

諸星伝左衛門

稻生下野守

萩原彦次郎

井戸志摩守

松平美濃守

右之通御触出候間可被得其意候、此廻状順々相廻し船寄村へ可相返候者也

子八月七日

(六倉・舟寄代官)
六 与兵衛判

坂井郡村々

庄屋

右御廻状村々へ直ニ廻シ被成候

九月朔日

一舟寄へ御普請御見廻、御代官様能州へ御着之御悦ニ参候

一松木式拾本 長九尺・末口貳寸、土手崩申ニ付簀杭木六拾本之内

一同貳本 長壹丈・末口三寸、御門合掌木六本之内

一同拾本 長四尺・七寸廻り、御門雪持三拾本之内

一五寸廻竹拾六本 御門屋中竹五拾本之内

一貳寸五分式拾五本御門ぬいふく竹五拾本之内

一三寸百七拾本 御門諸入用之竹五百拾本之内

右之通舟寄の割当りニ付村々へわり付申候

来朔日三国沖之口明候之由福居御役人中の御断有之候間、各与下村々へ右之趣相触可被申候、以上

八月廿九日

坂井郡
与頭中
木内八九郎 印

九月二日

同三日

同四日

同五日

一人足拾貳人御陣屋御用ニ当り申候

一長八尺・末口貳寸之木四拾三本、三寸廻竹三百三拾本、御陣屋見

入垣御用之由ニ付村々へわり付申候

一東善寺村庄屋代り之義ニ付伝右衛門・十右衛門・利兵衛参候ニ付、

村ニ而相談いたし代り庄や相究候而願状指上候様ニと申付候

同六日

一舟寄惣右衛門方御陣屋急付御用ニ候間、す、三升明朝舟寄へ指越候様ニと、夜通二人足式人ニ手かミ為持こし申ニ付而、是式之す、の事其村へ出し候ても苦かるましき所、遠方は迄被申越候事不届之由申遣し候、当村ニ而す、為取候而、三升七日ニ遣し候様ニと申付候

一丸岡跡長院と申山伏被参候

同七日

一池上村大平山之義ニ付平山村へ書付指上申ニ付、池上村庄三郎・仁兵衛・次左衛門三人相談として参候ニ付、布目彦兵衛殿能州へ被帰次第相談可仕由申返し候

同八日

一東善寺村庄屋伝右衛門かハリ申度由ニ而、跡庄屋利兵衛可仕旨願状指上申候

一布目村彦兵衛・舟寄善右衛門能州へ昨晚罷帰候、就夫殿様十三四五日時分当国へ御着可被成由、定日二日前ニ能州へ可申来筈之由彦兵衛・善右衛門方へ書状参候、則後山へ遣し申候

一御中性手嶋新之丞殿

是ハ神田政右衛門殿御同役之由

一御侍^(後藤)定右衛門殿 一同園^(岩堀)右衛門殿

一同加^(布施)右衛門殿 一大角九太夫殿

右ハ殿様御供廻頭立候衆中右之分

九月九日

一権右衛門舟寄へ為御見廻遣し申候得ハ、与下村々願上被仰付候御ふしん所早々為致可申候、亥御年貢金惣金高之内年内上納金、当春夏上納金残而何程未進金と書付、沓紙目録可指上之由被仰付候
一□松拾本、高さ三尺、枝茂り申松被仰付候ニ付、菅野村へ申付人足沓人ニ松式本ツ、為持、舟寄十二日ニ遣し候様ニと申付候
一御代官様御迎之様子諸事相談可申候間、十一日ニ舟寄迄罷出候様ニと善右衛門手かミ遣し申候

同十日

一御普請所村々入用銀人足御扶持方請取申由、村々庄屋長百姓判形取指上候様ニと坂井郡中沓冊ニ而帳面被遣候ニ付、村々御ふしん所被仰付候村々之分判形取申候

一後山茂右衛門殿折桶敷盥・手盥・懸り桶取参候ニ付、人足式人ニ遣し申候

一舟津村清左衛門兄弟出入之儀清左衛門村へ御預ヶ置被成候ニ付、加戸村本流院明日御詫言ニ舟寄へ御御出^(符)ニ候間、与頭中も明日沓

所ニ御侘言仕くれ候様ニと、布目彦兵衛方の手かミ被遣候

一熊坂村九兵衛と申者散田ニ申付候ニ付、九兵衛持高之田畑へ笹御引被成候処、笹岡村清右衛門右九兵衛持分之田九拾歩作申ニ付、

笹引候間重而吟味之上埒明候迄、右之内清右衛門かり取不申候様

ニと、狛空之允様御内山田七郎右衛門殿・近藤五兵衛殿・并熊坂

村与左衛門を以御断有之ニ付、慥ニ右精□々可申付由返事申候、則

笹岡村宗左衛門・宗右衛門参候ニ付右之段々申渡し、清右衛門右

之田埒明不申候内ハ手指申間敷由申付候

覚

一酒ニ酔心ならず不届仕もの粗有之候、兼而の大酒仕義停止候得

共弥以酒給候義人々相慎可申事

一客等有之候共酒強候義無用ニ候事

附り、酒狂之者有之候ハ、酒給させ候者も可為越度事

一酒商売仕候者連々減候様ニ可仕事、右之通急度可相守、於令違背

ハ可為曲事者也

子八月

追而酒給之義上ニ御嫌被成義ニ候間、面々慎候様ニよりく可相

達旨ニ候間可被得其意候、以上

八月

右之通従公儀被仰出候間、御書付之趣小百姓等迄ニ読聞せ急度相守

可申候、兼而申付候通村々酒商売之者堅可致禁制候、尤百姓寄合酒

吞申間敷候、御用ニ而百姓役人ニ逢候時分酒給候色相見へ候ハ、

是又急度可懸詮儀候間、兼而其旨相心得可申候、此廻状村下ニ庄屋致印判、村次能早々相廻し留り村の可返候、以上

子九月

坂井郡
木内八九郎 印
村々

右之通組下村々へ急度可被申付候、以上

与頭中

亥御年貢皆済仕上目録

一高何ほと

何村

此取米何ほと

此納次第

米何ほと

半金納

代銀何ほと

但壺石ニ付銀四拾七匁六分かへ

米何ほと

半米納

内 何ほと

御廻米

何ほと

江料米

残何ほと

地払

代銀何ほと

但壺石ニ付銀四拾五匁六分かへ

外

一米何ほと

夫米

代銀何ほと

但壺石ニ付銀四拾七匁六分代

一銀何ほと

糠藁代

一銀何ほと

御蔵前入用銀

一銀何ほと 山手

一銀何ほと 室役

一油何ほと 油屋役

代銀何ほと 但油壺升二付銀三匁五分九厘かへ

八口
合銀何ほと

此金何ほと銀何ほと 但両替六拾匁

右之通去亥御物成并小物成御割付之面、度々上納皆済仕上御勘
定如此御座候、右御勘定之義二付出入申分毛頭無御座候、為後
日庄屋長百姓判形目録指上候処仍如件

元禄九年子十月

何村庄屋

たれ印

同

たれ印

長百姓

たれ印

同

たれ印

(舟寄代官)
穴倉与兵衛様

御手代中

米壺石五斗壺升九合

御口米

皆済

銀何ほと

御口銀

九月十一日

一舟寄へ参候而殿様御迎之之様相談仕候、布目与・前谷与・後山与

此三与ハ壺本松茶屋迄村々庄屋中罷出申筈、六人之与頭中ハ細呂
木ノ橋迄之間ニ而御目見得之筈

一殿様十一日ニ能州御発駕被遊候而十三日ニ舟寄御着之由、能州四

丁村永三方ノ之飛脚参候ニ付村々へも其通申触候

一亥御年貢納方残り金壺紙目録指上申候

一同百姓老人改帳指上申候

一村々内検見仕候様ニと被仰付候、其外被仰渡候事共有之候

一舟寄ノ与下へ参候

同十二日

一殿様御道具持無之候ニ付、中川村へ喜介御やとひ可被成由ニ候へ
共、喜介義ハ江戸へ参候ニ付其段舟寄善右衛門迄申遣し候

同十三日

一殿様能州ノ御越被遊候ニ付、当郡六人之与頭中ハ加州境迄罷出御
目見得仕候、布目・前谷・後山三組之庄屋共ハ壺本松ニ而御目見
得仕候、兵庫・長田ハ下関ニ而村々庄屋共御目見得仕候、舟寄組
八十楽村地内新在家迄罷出候、殿様金津ニ而大宮彦右衛門様へ御
立寄被遊候、御供ハ神田喜兵衛様・手嶋新之丞殿・大角九太夫殿・
後藤定右衛門殿・岩堀園右衛門殿・布施加右衛門殿・与頭中共ニ
不残舟寄迄御供いたし参候

九月十四日

一舟寄ニ而当郡・大野郡与頭中不残御目見得被仰付、則そうめん・
御酒被下候

一諸事御用共其外御検見付いたし指上申候

同十五日

一舟寄を罷出候而下関・轟木四ヶ村之内検見仕罷歸り候
 一去未進金之御廻状村々御出し被成候ニ付下関を次々遣し申候
 一長八尺末口貳寸之杭木貳拾五本当り申候

同十六日

一下関村善兵衛・門兵衛・兵左衛門・庄三郎・加左衛門・清左衛門・
 半介・長介・太右衛門・利右衛門・二郎右衛門・七郎右衛門・庄
 右衛門百姓拾三人、此持高貳百五拾六石貳斗三升四合、利兵衛庄
 や与を放、九兵衛与付申度由申来り候

一中川・田中・北村・北野・笹岡・矢地・菅野・山室・宮谷・青野
 木・西方寺・高塚・清王・十楽村内検見いたし并ふしん所相改申
 候、十楽村彦四郎方ニ泊り候て見分書付いたし候

同十七日

一數右衛門様をかり申候亥年皆済目録、写し取候而青野木村之者ニ
 為持返せ^(符)いたし候

一内検見為相談之布目村へ参候

亥御年貢上納殘金之目録

一金千七百六拾兩銀拾四匁貳分五厘

亥御年貢・万小物成・御藏前入用・御口銀米共ニ

内

七百八拾八兩

亥初納を同暮迄上納

六百六拾貳兩九匁五分六厘

子春を八月朔日迄上納

三兩三分

江戸御屋敷へ上納

ノ千四百五拾三兩三分銀九匁五分六厘

殘

金高を八分貳厘六毛

金三百貳兩壹分銀四匁五分九厘

右之通少も相違無御座候

子九月十一日

前谷村与頭

二郎左衛門印

御陣屋

同十八日

子御年貢金割

一金七拾四兩貳分

下関村

一金拾壹兩壹分

轟木村

一金八兩貳分

谷畠村

一金八兩三分

東善寺村

一金八兩貳分

馬場村

一金六兩壹分

新用村

一金拾六兩壹分

高塚村

一金八兩三分

清王村

一金拾四兩

十楽村

一金壹兩壹分

西方寺村

一金貳拾七兩 青野木村

一金貳拾九兩 宮谷村

一金三拾五兩三分 山室村

一金三拾三兩 菅野村

一金貳拾壹兩貳分 矢地村

一金三拾七兩 笹岡村

一金五兩三分 北野村

一金八兩貳分 北村

一金三拾貳兩三分 中川村

一金拾六兩貳分 田中村

一金四兩三分 前谷村

ノ四百九兩貳分

右ハ当子年御年貢金如此致割相廻候条、来月五日を限急度可相納候、於遲滯者可為不念候、尤右之触状披見之趣村下に庄屋致印形順々相廻し、留り村も可相返候、已上

子九月十八日 神田喜兵衛印

右村々庄屋

右之御廻状村々遣し申候

去亥御年貢納下り金未納之分当月廿日迄二上納可申由、先達而請負之通早々相納可申候、若遲滯之村有之ハ詮儀之上急度可申付候、村下印判いたし順々相廻し留り村も可相返候、以上

九月十四日 木内八九郎印

前谷与村々庄や

各申延請負之通急度取立上納可被致候、以上

前谷村与頭
二郎左衛門殿

右御廻状村々廻り此方へ返り申候

九月十九日

一村々庄屋中呼寄御未進金之事、新納之事、御検見之段々申渡し候
一殿様安嶋へ御成、夫も塩越へ御出被遊布目迄御こし可被遊由被仰渡候由、布目も被申越候

同廿日

同廿一日

一内免帳折立九郎左衛門殿迄指越申候、早々八九郎様迄御上ケ被下候様二と申遣し候処九郎左衛門殿も返事無之、庄右衛門方も早々相届可被申由被申越候

一殿様安嶋へ御こし之由庄右衛門方も被申越候

一御役人様不残大野郡へ今日御出候由被申越候

十鄉用水堤新番人相立候義二付而御尋被遊候事有之候間、御検見之節下兵庫村御泊り之晩暮前二可被参候、尤与下二而右用水之義二構候村有之候ハ、同道いたし可被罷出候、以上

九月廿一日

前谷村
二郎左衛門殿

神田喜兵衛印

一後山善兵衛同道ニ而安嶋へ参候

同廿二日

一安嶋ニ而御目見得仕罷歸り三国ニ泊り候

同廿三日

一四ヶ村轟木村へ参候、御検見道橋之事申付候

同廿四日

一宿へ罷歸り候

九月廿五日

一未進金早々相済候様ニと村々へ配符遣し候

一廿一日ニ内免帳指上候へハ其内ニ而

宮谷村・山室村・中川村・北野村・北村・前谷村・西方寺村、

此七ヶ村去亥之御免ハ壹分又壹分余宛引下ヶ書付申ニ付、如何様之子細ニ而下ヶ申候哉と^(其)壱村々御尋之御書付八九郎様ハ被遣

候

右之通亥之高ニ当り候免ハ当取之当り下り下り候訳、委細書付可被給候、急々故勘定違も有之候哉、去年ハ取候寛無之候哉、又先取違候訳ニ而右之通ニ候哉、其趣書付可被遣候、何も勘定有之候てハ高下之不禄ニ罷成候故承候、我等も明日舟寄参着可申候、以^(陸)

上

九月廿五日

土屋二郎左衛門殿

木内八九郎

同廿六日

一右之通被仰越候ニ付舟寄罷越、今度内免書付指上申候ハ最前被仰付候地免之内当作上中下見分を以指引仕、其外村々困窮之段々見分を以書付指上申候、去亥之御免ニハ心付不申候と申上候へハ御聞届被遊罷歸り候

一内免為相談之彦兵衛・武兵衛・源左衛門後山へ被参候ニ付、我等も後山へ参候

同廿七日

一木内八九郎様・横田数右衛門様・小木仙右衛門様御検見ニ御出被成、宮領・田島・川和田・御油田・玄女・里竹田・両疋田・二郎丸・川上・後山御泊り、右与頭中罷出御意得候

一明廿八日御殿様安嶋被為成候由彦兵衛方へ被仰越候ニ付、彦兵衛安嶋へ夜通しニ参候

同廿八日

一右御役人様方、清滝・鎌谷・枿・中川・田中・清間・伊井・河原井田^(手)・矢地・御簾尾・北村・北野・前谷御泊り

覚

一金三百貳両壹分銀四匁五分九厘 亥御年貢納下り候

一金三拾三両壹分銀五匁貳分六厘 御拝借子ノ年返上納

貳口ノ三百三拾五両貳分銀九匁八分五厘

此銀貳拾貫百三拾九匁八分五厘 両かへ六拾匁かへ

此米五百七拾五石四斗貳升四合 壹石ニ付三拾五匁積り

右之通ニ御座候、以上

前谷村

二郎左衛門印

子九月廿八日

木内八九郎様

一 数右衛門様より申候子春御ふしん帳返上仕候

一 下関村吉右衛門・七右衛門・長右衛門・安兵衛、庄屋長百姓・五

人頭仕間敷由去年十月ニ証文指上申候得とも、其内長右衛門・安

兵衛義ハ御詫言仕御免被遊候而御礼ニ罷出候、数右衛門被仰渡候

而御免被遊候

九月廿九日

一 右三人之御役人様方雨ふり申ニ付御逗留被成候

一 八九郎様より安嶋ニ而手嶋新之丞様御状遣候付、田中村人足ニ為持

遣し御返事参候ニ付指上申候

一 北村・前谷・山室・宮谷・中川右此五ヶ村百姓、困窮之願状指上

候ニ付請取置申候

同晦日

一 右御三人様、笹岡・菅野・山室・宮谷・青野木村・西方寺・高塚・

清王・十楽・赤尾・横垣・井江葭村より国影村ニ御泊り、我等儀ハ

十楽村より罷歸り、権右衛門ハ彦兵衛安嶋ニ罷有候ニ付八九郎様被

召連参候

一 先達而申談候へ共又候書中ニ而申入候、旦那御廻り之節下々共

二 魚類ハ勿論野菜等ニ至迄所ニ有合之物用へ、尤一汁一菜ニ可

被致候、馳走かましき義候ハ、各可為無念候、以上

子九月廿九日

神田喜兵衛印

坂井郡与頭中

右御廻状布目へ遣し申候

一 右御三人様前谷より御立ニ付、矢地村野之内之道ニ水無之候哉と御

尋ニ候処、矢地より菅野へ御越被成候事不成由矢地勘兵衛と申者申

上候処、御通り候処道ニ水少も無之候ニ付、偽りを申御検見先を

妨申不屈者之由ニ而、右勘兵衛ニ手錠被仰付候而、村ニ御預ケ被

成候

十月朔日

一 右御三人様布目村ニ御泊り

一 殿様安嶋より舟寄へ御入被遊候

同二日

一殿様舟寄の御検見ニ御出被成東長田村ニ御泊り被遊候

一右御三人様布目村の御出候処、田中々村ニ而雨降出申ニ付布目へ御帰り被成御泊り被成候

申触候覚

一毎々茂立置候由及承候得共、弥以当年も御年貢皆済無之已前、諸勧進一切村方へ入不申様ニ村々ニ札立置可申候、尤其村ニ有来候非人等之義ハ其村ニ而介抱致候様ニ可被心付候
一拙者方ハ不及申ニ惣而往還之衆中へ慮外不仕様ニ急度下々共ニ可被申付候、若重而不届之仕方及聞候者、急度其村庄屋共ニ越度ニ可申付候条可被得其意候

右之通承知之趣村下ニ庄屋印形いたし順々ニ相廻し、留り村の可被相返候、以上

子九月廿九日

神田喜兵衛印
前谷組村々
庄屋

一殿様当郡へ御検見ニ御出候由金津三田村六右衛門殿へ参申上候

同三日

一殿様東長田村の御出被遊後山ニ御泊り

一右御三人様方布目の御出被成、四ヶ村の轟木・大味・河間・藤沢・嶋村の下兵庫ニ御泊り、権右衛門ハ下兵庫の罷帰り候

同四日

一殿様後山の御出被遊、清滝・鎌谷・櫛・中川・田中・御簾尾・笹岡・北野・前谷へ御入被遊候

一右御三人様ハ東長田ニ御泊り之由、御用候而八九郎様長田村御立帰リニ御越被遊候

一金津彦右衛門様の御使ニ田宮徳兵衛殿被参候而、御口上之趣被仰上候
(大宮茂富・福井藩金津奉行)

同五日

一殿様御支痛御見廻として布目彦兵衛・後山善兵衛被参候
覚

一古板何程 長何尺何寸何尺迄
は、何尺何寸迄 但朽候か不朽かのわけ

一古角木何本 長何尺何寸迄
角何寸何寸迄 右同断

右ハ当年御伏替被下候古杓朽腐之板木、所々預り置候分如此ニ御座候、以上

子十月

何村庄屋
長百姓

御陣屋

右之通拙者吟味仕相違無御座候、以上

子十月

何村与頭
たれ

右之通村々以樋古板木相改、来ル七日の書付舟寄村陣屋可被指越候、以上

子十月四日

木内八九郎印

坂井郡与頭中

右之御廻状後山善兵衛ニ相渡し申候

一殿様前谷^〆御立被遊候而北村・御簾尾・矢地・菅野・山室・宮谷・

青野木・西方寺・高塚右村々御検見被遊候而、菅野村十右衛門方

ニ御泊り、諸事入用十右衛門方^〆仕出し候而御賄仕、御飯米・塩

増・薪・野菜代錢^(マ、) 十右衛門方へ請取候

一中川半兵衛御金上ケニ舟寄へ遣し申候

十月六日

一殿様菅野村御立被遊高塚・清王・十楽・赤尾御検見被遊候而、大^(天)

宮彦^{宮茂富・福井藩金津奉行}右衛門様へ御振舞ニ被為成候、御家礼衆七人之御昼食壹本松

茶屋仕出しニ仕候、夫^〆金津へ御越平野屋弥介方へ御入候て、御

装束被遊彦右衛門様へ御入被成候ニ付、自分義ハ金津ニ而御暇乞

申上候、殿様ハ其夜之内ニ布目へ御越被遊御泊り被成候

同七日

一殿様安嶋獵師共被召連三国沖へ御成被遊、七日ニ暮ニ布目へ御帰

り御泊り、御按塩窺ニ布目村へ参候

同八日

一殿様布目村御立被遊候而十楽・田中々村・番田村・重義村・谷畠・

東善寺・馬場・新用・轟木・大味・下兵庫御検見被遊、武兵衛方
ニ御泊り被遊候

一十郷堤番人之義御尋ニ付十郷村之庄屋共被召寄、段々御尋之上被
仰渡候ハ、石田^(稲葉勝行・石田代宣)稲葉平右衛門様と御相談之上重而可被仰付由ニ候

一去亥納下り金先月中ニ急度皆済可致処、于今村々皆済不致義村々

不届ニ存候、各々も兼而申談之通、当月十日ニ未進金大坂へ為指

登候由委細申聞候処、如此捨置候義尤ニ不存候、旦那御尋之上右

之委細申上候ハ、何も油断ニ可思召候間、明日^〆明後十日迄ニ皆

済致候様ニ可被申付候、ケ様ニ用捨いたし、志不改故ハ、難渋者

早々可被差越候、以上

十月八日

木内八九郎印

前谷村与頭
二郎左衛門殿

右之通被仰越候ニ付段々申付候

同九日

一殿様下兵庫御立被遊、西村・蔵垣内・東村・下関・上関・下新庄・

定旨・長畑^〆舟寄へ御入被遊候、後山^(茂右衛門)□□□□・自分共ニ下新庄

ニ而御暇乞申上罷帰^り、夫^〆金津へ御屋敷寄候而弥兵衛殿ニ御目

ニ懸^り、堤番人御尋之段々申上候、宿へ罷帰^り候

一自分留守之内熊坂村与左衛門六日ニ参、最前御断を申上笹を引候

熊坂村九兵衛田を、笹岡村清右衛門理不尽ニかり取候由断ニ参候

へ共、我等宿ニ不罷有候ニ付罷帰^り候由承候ニ付、笹岡庄や長百

姓、清右衛門めしつれ参候様ニと申付候

同十日

一 笹岡村清右衛門・宗左衛門呼寄右内々吟味仕候処、十兵衛子若輩者ニ御座候故かり取申由申ニ付、然者熊坂村へ参^(符)何とぞ埒明候様ニと申遣し候

一 熊坂村太郎兵衛参候而笹岡村清右衛門参候而断有之ニ付、如何様之思召ニ候哉と申来候ニ付、何とぞ下ニ而相済候様ニと申付候へハ、右之田壺作請ニ証文可仕由清右衛門被申候間、其通御取被下候ハ、埒明可申と申候

一 菅野・矢地・北野・田中四ヶ村之伏替樋之古材木相改、其村ニ預り証文取申候

同十一日

一 御検見御仕廻被成候御礼、其上未進金上納ニ舟寄へ参候而御金ハ掛屋忠兵衛ニ相渡し預り手形取置申候、右四ヶ村古樋材木預り之証文四通、下関村九兵衛庄屋代り之願状壺通、同村困窮之訴状壺通数右衛門様へ指上申候、東善寺村庄屋代り願状壺通、高流付困窮之訴状藤四郎様へ指上申候、轟木困窮之委細書拙者判形ニ而数右衛門様へ指上申候

一 喜兵衛様へ返り・配符共指上申候

一 八九郎様へ右同断

一 山室村之者金四両江戸御屋敷へ指上候御手形、山室吉右衛門方へ請取候而数右衛門様へ御目ニかけ候へハ、重而持参仕新納御手形ニ御書かへ可被下候由

一 笹岡村清右衛門請同年貢米証文取候而、熊坂村太郎兵衛方へ相渡し候様ニと笹岡村宗左衛門ニ相渡し申候、并ニ清右衛門証文我等方へも取置申候

十月十二日

一 亥納下り金取立舟寄ニ罷有候

同十三日

一 当夏笹岡請合不足金壺両壺分、高嶋藤四郎様へ御かり被成候を最前ニ請取置候へ共、藤四郎様破舟之義ニ付伊勢へ御越被遊候ニ付、御帰りを相待今日返上仕候、其座ニ布目彦兵衛有合被申候

預り申金子之事

一金壺兩三分銀七匁七分五厘 中川村
内壺匁八分取過ニ而返ス

中川・田中両村川除御入用大から竹・小から竹・雜丸太、

人足御ふち代之内請取申候

右四両請取外

一金壺兩式分銀拾三匁式分八厘 矢地村

矢地村用水人足ふち代銀請取申候

右之通金子樋ニ請取申候、重而本証文仕此預り手形と引かへ可申候、以上

子十月十三日

前谷村
二郎左衛門印

木内八九郎様

右之預り手形指上候二付、数右衛門御指紙かけや忠兵衛方へ遣し候而、亥未進金手形書かへ可申筈二候

乍恐以書付申上候

一御廻米三国御米宿之儀、先年都筑長左衛門様御代官所之節者河内屋次郎右衛門ニ被仰付、年ニ他之蔵江御米少々御詰被遊候義も御座候、然処二五年以前申ノ年平岡吉左衛門様御所替之以後、如何様之御相談ニ御座候哉蔵宿七軒ニ被遊、去ル戌之年御三人様御支配ニ罷成候而も、七人之蔵ハ御城米御詰被遊候処ニ、坂井郡之儀ハ三国近所ニ而最寄能御座候故人馬ニ而附送り相納申候、先年長左衛門様御代と相替り御蔵場多罷成、御米納之節かなたこなたと御蔵窺候内暮ニ及、其日納兼附送り之人馬彼地ニ逗留仕候儀も御座候而難儀仕、其上三国町出火之節も御蔵数所々ニ飛ちり御米詰置候へハ、近在之百姓駆付候者其御三方入込之御米と奉存少々油断も可有御座候、村々庄屋長百姓等迷惑ニ奉存、拙者共方へも兼而申二付・当春右之趣御陣屋迄申上候二付、江戸御屋敷江御窺之上当年ハ半分河内屋二郎右衛門蔵江詰置、半分ハ六人之者蔵へ御米相詰、当秋殿様御登之節願之趣申上候共、先当年ハ右之通致し候へ由被仰渡候、村々百姓奉願候ハ、附送り納方出火之節旁以百姓不勝手ニ御座候間、向後ハ御米宿二郎右衛門老人の蔵ニ御城米御詰被遊候様村々奉願候二付、拙者共御書付御訴訟申上候、以

上

子十月十一日

坂井郡六人与頭判

御代官様

同十四日

一当四月ニ坂井郡の指上候夫米之訴状御返シ被遊候二付、何れも与頭中喜兵衛様へ罷出、今度殿様御上着を奉待重而御訴訟申上くれ候様ニと、達而村々の私共方へ願出候由申上候へハ其段御取次も被成被下候間、右之書付ニ添状仕指上候様ニと被仰候二付添状之次第

右前書之通郡中百姓為惣代と私共方を当夏以書付御訴訟申上候処被為入御披見ニ、当国御初入之砌ニ御座候故当分難被為聞召上由訴状御返シ被為遊候御義乍憚御尤至極ニ奉存候、然処此度御上着被遊候節の村々百姓共毎度私共方へ相詰、右書面之趣御取次申上何分ニも百姓助り申様ニ奉願候二付、乍恐重而御訴訟申上候、御慈悲右之趣被為聞召上被下候者難有可奉存候、以上
子十月
坂井郡与頭六人 印形

御代官様

右之書付当夏御返シ被遊候訴状ニ継候而喜兵衛様迄指上申候
一当五日の今日迄八木忠兵衛ニ四度相渡し申候金子、村わけいたし
残金手形取申候

一長八尺雜木四拾壹本
末口壹寸五分の式寸

前谷組

一小から竹三百拾六本
右ハ御陣屋御用竹木

式尋ハ三尋迄

内

八本

中川村

八本

笹岡村

八本

矢地村

四本并竹三拾本

菅野村

八本

山室村

五本

西方寺村

竹六拾本

下関村

同六拾本

高塚村

同三拾本

清王村

同六拾本

十楽村

同六拾本

青野村

同四拾六本

宮谷村

同三拾本

北野村

右之通申触候

十月十五日

一未進金取立申ニ付舟寄ニ罷有候

一金百両銀七分三厘当夏拝借金村々年賦証文判形、最前指上候ニ付

度々金請取候候り預り手形御陣屋ハ取返し判形消申候、五両子四

月三日、九両四月十二日、拾六両四月廿九日、四拾五両五月八日、
式拾五両銀七匁三分五月十六日、ノ手形五枚消申候

一中川・田中両村川除諸入用人足ふち代銀当夏金四両請取申外ニ、
金壹両三分銀七匁七分五厘請取候ニ付、本証文帳を以算用御改被
成候処、銀壹匁八分□取過有之ニ付錢ニ而藤四郎様迄返上申候

覚

一金式拾両也

右是ハ拙者と下轟木村分去亥之御未進金之内、只今木内八九郎
様へ御取立御勘定御究候処、右之金子当分取立埒明不申候ニ付、
当初納金之内右之通式拾両当分御預ケ候上、未進之分御上納仕
度由木内八九郎様・横田数右衛門様を以右之訳申達ニ候へハ、
左候ハ、当分指替可申由被仰候ニ付如此御預り申忝奉存候、弥
来ル十一月半ニ右式拾両急度指上可申候、若其節遅々仕候ハ、
拙者如何様之越度ニも可被仰付候、為其当分預り証文仍如件

子十月十五日

前谷村

次郎左衛門 印

神田喜太夫様

右証文指上申候

乍恐以書付申上候

一十郷用水堤諸普請之節者水奉行下番村三郎左衛門方ハ十郷一^統
二相触候処ニ、何も用水請申村々三郎左衛門指図通諸役人足等
無相違相勤来候処ニ、玉江村・今市村両村之分ハ三年以来諸役
人足等相勤不申候ニ付、残村々ハ其段度々申断候ニ付、野中村

与頭五左衛門方迄当春も我等方々右之品々相断置申候得共、又々当年も諸役人足共二右両村之者共相勤不申候、ケ様ニ我かま、仕候段々十鄉村々何共迷惑ニ奉存候、惣而十鄉村々之儀ハ一等ニ諸事相勤可申処ニ右両村用不申候、向後諸役人足等之儀ハ不及申、不足之義八十鄉村々之内ニ而指引仕候様ニ三郎左衛門ニ被仰付可被下候、向後我か、不申候様ニ奉願候、以上

十月十五日

下兵庫武 兵衛

東長田源 左衛門

前 谷二郎 左衛門

御代官様

後 山茂 左衛門

右之通書付指上申候

一郡中訴訟之義訴状ハ先御陣屋ニ預り置被遊候由、其外御口上之被仰渡有

同十六日

一殿様石田へ御越被遊候ニ付御暇乞申上、何も与頭中罷歸り武兵衛石田ニ召連候

同十七日

一銀五匁四厘 笹岡村亥御年貢皆済余り銀預り置申候、重而算用可申候

一八九郎様今度江戸へ御歸りニ付被仰渡候証文

一子立毛等檢見衆へ指上候証文

一新納金当廿四日切ニ指上候様ニとの御廻状

一近日村々ハ江戸へ参候者有之候ハ、御尋之事

一当四月之御訴状今度重而申上候事

一他国他領ハ之追放者為立寄申間敷事

右村々庄屋中呼寄右之段々申渡し判取申候

同十八日

一舟寄善右衛門ハ最前割出し申竹細候間式寸五分程竹遣し候様ニと申越候へ共、村々わり付昨今ニ不残持申筈ニ候故、重而申ふれ候もいか、候故不申触候

同十九日

一八九郎様ハ人別帳指上可申候、并二人別帳案文帳返り不申候間吟味いたし返し候様ニと、并宗旨御改下組返し候様ニと御廻状被遣候

一後山茂右衛門方ハ被申越候ハ、人別帳案文ハ今日後山ハ返上之由申来り候

一藤四郎様御支配下村々皆済さん用仕御手形預り置申候

一笠紙壺束三帖鍋屋七左衛門ハ取寄申候

十月廿日

一亥年御免壺ツ三分式厘下番村、壺ツ式厘中番村、右下関村与三兵

衛聞参候、四分八厘上番村、是ハ谷畠村平兵衛聞参候

一山室村三九郎江戸へ参度由申候、八郎兵衛弟也、高拾石持

一金壹分下関与三兵衛入、内四匁分三厘未進金不足二取、残而拾匁八分七厘過上預り置申候

一金貳両壹分北村五兵衛ハ新納金ことつかり申候、外壹両自分新納金、ノ三両壹分預り申候、此金子田中村へことつて上納可有由五右衛門申ニ付五右衛門ニ返し申候

一金貳両前谷村新納金ことつかり候て八木忠兵衛ニ相渡し申候

同廿一日

一村々上納手形取揃候而舟寄へ参、上納手形御留帳ニ引合御勘定相済申候、我等村々と算用致候通金貳分北村不足、銀三匁六分下関村不足、銀九分宮谷村不足、ノ貳分銀四匁五分不足有之候ニ付、八九郎様へ指上候而御算用相済申候

一八九郎様江戸御歸りニ付村々へ被仰渡候証文壹通・御検見之節御法度之証文壹通、貳通共ニ折立九郎左衛門殿相渡し申候

同廿二日

一方々御勘定之御手伝仕罷有候

一谷畠村五十郎江戸御供仕参度由申上候

同廿三日

一新納金早々取立指上候様ニと被仰付候ニ付、罷歸り村々詮儀いたし候

同廿四日

一右同断

同廿五日

一先頃各申渡候通当初納金前触ニ申達候処ニ、致延引候付旦那御参符^(府)廿八日迄相延候、然所ニ昨晚迄も村々金子割之通相納不申候段旦那御立腹被成候、畢竟七月可取立未進金致延引候訳一入不届ニ思召候、依之右之割之通急度取立可申由ニ候、廿八日茂御延引被成候間組下村々へ右之趣急度被申付、一両日中ニ少も無不足相納候様ニ可被申渡候

右之趣□□御意如此ニ候、以上

子十月廿五日

神田喜兵衛

一十郷堤番人之義三田村六右衛門殿へ為可申上罷越候処へ、野口金津ニ而御吟味之儀ニ付御断申上候

同廿六日

一舟寄へ参与下上納金之吟味仕候

一野口之義数右衛門様へ御物語申上候

一谷畠村五十郎・山室村□三郎御供仕江戸へ参度由申上候、九太夫

様□□兩人共ニ可被召連由被仰候ニ付、兩人へ支度之段々申渡し候

一鍋屋七左衛門ニ笠紙壹束五帖と被申越候へ共、壹束三帖参候由断申候

同廿七日

一新納金村々不足書いたし配符遣し申候

一矢地御普請延引之由庄屋長百姓御吟吟被遊候ニ付、来ル十一月十日迄ニ右御積り之石坪普請場所へ築可申由証文指上申候

一御普請所御仕替被下候古材木、入札仕候様ニと御ふしん仕候村々へ申渡し候

同廿八日

一舟寄ニ而御暇乞申上罷帰候ニ付下関村へ寄候而宿へ罷帰り候へハ、我等宿へ不罷帰内ニ舟寄を御配符被遣候ハ、御急用候而加州金沢へ被遣候間成ほと急々舟寄へ参、是を直ニ出立仕候様ニ支度仕罷越候様ニと被仰越候ニ付、暮六ツニ宿を罷出舟寄へ参候へハ、金沢町御奉行三輪七左衛門殿・郡御奉行長瀬湍兵衛殿・同権之丞殿へ之御状并ニ口上書請取、其夜九ツニ舟寄出立仕金沢へ参候、御奉書紙之御用ニ候、我等七兵衛をめしつれ舟寄村権兵衛馬月津迄夜之内乗申月津を宿次馬ニ而金沢へ参候

同廿九日

一申ノ刻金沢へ参着、河原町油坂屋八右衛門方ニ宿取申候、夫を段々御用相勤候

十月晦日

一明朔日ニ殿様江戸御発駕ニ付御暇乞ニ権右衛門舟寄へ参候へハ御懇意之由

一与頭共ニ乍少分御扶持米可被下由被仰渡、子年御伏替之古榧材木入札被仰付候ニ付留書、別紙ニ有

十一月朔日

一明ヶ八ツニ殿様船寄村御出立、権右衛門ハ追分ニ而御暇乞申上罷帰り候、残与頭中ハ荒居村迄参御暇乞申上罷帰り候由、八九郎様へ御暇乞之品々断有

同二日

一金沢ニ而御用紙之段々承届暮六ツニ船寄へ帰着申候而、御役人様方金沢ニ而之段々申上候
一亥年皆済状式拾壹通請取候
一子年御免状式拾壹通請取候

同三日

一明四日ニ江戸へ御飛脚被遣候二付、金沢ニ而之段々口上書并ニ八九郎様へ書状指上申候、留書ニ有

一朝料理喜兵衛様ニ而被下候

一滝右衛門明四日ニ能州へ御帰り二付、源八方へ返状平八ニ言伝申候

一舟寄の罷帰り申候

同四日

一子御免状写取申候

同五日

一村々庄屋長百姓呼寄、段々被仰渡之義共并亥皆済状・子御免状相渡し証文取申候

一御米宿之願狀判形取申候

一新納金不足村詮儀仕候

一一寸年銀九拾匁金津若藤屋方のかり候て、長窪と申所山三ヶ所ニ質物二入、それの年々利足を立置候処、当十月廿三日ニ彼山ニ而杉木式本若藤屋方何之断もなく切取申候、右之銀子之内三拾式匁義右衛門・四拾三匁長五郎・拾五匁伝七三人としてかり候へ共、質物山ハいつれも壺ヶ所つゝ入置申候、然処今度木切申由断二付、先若藤屋方へ参様子相尋候様ニと申付候

○初納金手形・掛屋小手形相渡置候処、来ル五日・六日兩日之内

ニ我等手形と引かへ可相渡候間船寄陣屋迄持参申候、此書付無遅滞相廻シ留り村の可相返候、以上

子十一月四日

神田喜兵衛印

前谷組村々

右之御廻状村々廻り此方へ持参申二付、前谷の数右衛門様迄返上

申候

一三分五厘七毛

亥下り

前谷村

一三分式厘九毛

北村

一式分七毛

北野村

一式分八厘壹毛

中川村

一壹分四厘壹毛

田中村

一壹分六厘七毛

笹岡村

一三分五厘三毛

山室村

一三分三厘七毛

宮谷村

一三厘七毛

西方寺村

一六厘七毛

高塚村

一七厘三毛

新用村

一壹分七毛

馬場村

一壹分式毛

東善寺村

一四分三厘九毛

轟木村

一壹分四厘九毛

下関村

一三毛

亥上り

矢地村

一 貳分壹毛	同断	十楽村
一 六厘三毛	同断	菅野村
一 六厘三毛	同断	青野木村
一 壹分壹毛	同断	清王村
一 九厘九毛	同断	谷畠村
平均壹分貳厘三毛四弗四		
同六日		
一 何れも与頭中不残三国河内屋方へ参候而、うり米其外之御用共相 談いたし候		
一新納金之儀村々へ配符遣し申候		
十一月七日		
一金四拾四両三分		下関村
一金六両三分		轟木村
一金五両		谷畠村
一金五両壹分		東善寺村
一金五両		馬場村
一金三両三分		新用村
一金九両三分		高塚村
一金五両壹分		清王村
一金八両貳分		十楽村

一金三分	西方寺村
一金拾六両壹分	青野木村
一金拾七両貳分	宮谷村
一金貳拾壹両貳分	山室村
一金拾九両三分	菅野村
一金拾三両	矢地村
一金貳拾貳両壹分	笹岡村
一金三両貳分	北野村
一金五両	北村
一金拾九両三分	中川村
一金拾両	田中村
一金貳両三分	前谷村
ノ貳百四拾六両	
右之通当月十七日限急度上納可致候、若遲滞候村於有之ニハ僉儀 之上急度可申付候、以上	
十一月五日	神田喜兵衛印
	右村々庄屋中
此書付披見之上金下・村下ニ庄屋印判いたし留り村々可相返候、 以上	
同八日	
一米納津村清左衛門と対談いたし相談仕候	

一村々新納金御手形相改申候

一矢地善兵衛・金津若藤屋出入二付三田村六右衛門殿を御状被遣候

同九日

同十日

一米三拾表出村松岡屋義右衛門ニ来丑夏迄延銀ニ而かし申二付、右三拾表之証文取申二付、此方を預り手形相渡し申候

来丑春御普請所為見分と明八日ニ大野郡を段々当郡へ我等相廻り申候間、御普請所有之村ハ願書いたし場所案内可被致候、勿論当春いたし候御普請所ハ以帳面相改申事ニ候間、其村々庄屋罷出場所案内致候様是又御申付可有之候、以上

十一月七日

高嶋藤四郎印

坂井郡与頭中

右之御廻状八日ニ参候二付与下村々へ申触候

一愛宕山威徳院を与下村々へ御礼扇参候、自分へ御礼扇・墨二ヶ被遣候、戌年御初尾金壹分・銀貳匁上ヶ候二付御返状被遣候、御使僧寿元老

(大宮茂富・福井藩金津奉行)

一大宮彦右衛門様御あやまち被成候由ニ而権右衛門御見廻ニ遣し申

二付、北金津弥次兵衛方を矢地善兵衛高山質物ニ書入不埒ニ仕置候由、三田村六右衛門殿を当八日ニ御状被遣候二付、善兵衛方吟味仕埒明不申候ハ、我等方舟寄へ申上、御下知次第二重而御返事可申上由返状を以申上候

十一月十一日

一矢地村七郎右衛門・善兵衛呼寄候而、金津若藤屋方へ売置申候高山之作徳米、不埒二付三田村六右衛門殿を御断ニ候間早々埒明可被申候、若埒明申事成不申候ハ、御陣屋へ御断可申上由申渡し候へハ、何とそ相談仕下ニ而侘言も仕度候間、御陣屋へ被仰上候事二三日之内相延候様ニと善兵衛申二付、とかくの相談相究其通此方へ可申参由申付候

同十二日

一郡中大割仕候二付何も与頭中舟寄へ出申、何れも老与を庄や老人ツ、立合ニ召連罷出申候、前谷与を菅野村十右衛門、布目与を十楽与三右衛門・長田与を田嶋村善兵衛、後山与を上関次兵衛、兵庫与を徳分田九右衛門、舟寄与を中筋村平兵衛罷出候

一当十七日切御割付金少も遅滞相済候様ニと、喜兵衛様御廻状与下村々へ被遣候處、村々判形相済我等方へ持参申候

一十七日切御金之御廻状老通重而昨日被遣候、御廻状老通喜兵衛様へ返上仕候

一青山藤介様・高木織右衛門様今日舟寄へ御こし候而十三日ニ御歸り被成候、御相談之上半金納取り御直段老石二付三拾七匁貳分之由

一わたや庄左衛門方を取寄候わた八拾匁、こすわ「」なへ屋

七左衛門ニことつて返し可申候

一なへや七左衛門の猶原上中折五帖取申候

一後山与・前谷与小木仙右衛門様、布目・兵庫与ハ高嶋藤四郎様、

長田与・舟寄与・大野郡横田数右衛門様、其外御用ハ三人として

月番御支配、御普請方ハ藤四郎様、他領出入仙右衛門様

十一月十三日

一大割之義ニ付舟寄ニ罷有候

同十四日

一高三拾石内拾五石義兵衛
拾五石清右衛門

宮谷村

代金五両貳分、貸主若藤屋弥次兵衛

丑五月切利足壺わり貳分

一高五拾石内貳拾五石義兵衛
貳拾五石清右衛門

(同)
□村

代金拾両、かし主米や助右衛門

丑五月中利足壺わり

右ハ小木仙右衛門様御裏判被成候

一御用御月番子十一月横田数右衛門様、十二月高嶋藤四郎様、丑正

月小木仙右衛門様、末々右之通順番之御定

一大野郡へ大割之義両度申遣し候へハ伊地知忠左衛門今日被参候、

光明寺村加兵衛伯父相果被申由ニ而不被参候、森川安右衛門ハ小

舟渡渡し舟之義ニ付出入有之不被参候間、割之義ハ何様共何も相

談もれ申間敷と善右衛門方迄断之書状被指越候ニ付、其状善右衛門方ニ有之候

一福居御直段納四斗ニ付拾八匁五分之由

一八九郎様・新之丞様・九太夫様御侍中へ与頭中連状遣し申候、今

度加州ニ而本紙代銀払可申と申候得共、代銀請取申間敷と申ニ付、

御銀払申候、并二箱ハ永原権兵衛様の被遣候由別紙を以八九郎様

へ申上候

同十五日

一矢地村源兵衛舟寄へ参、善兵衛高山質物之義若藤屋弥次兵衛方へ

佗言ニ参候間、舟寄御陣屋へ被仰上候事御延引被成被下候様ニと

断ニ参候

一山室・宮谷・田中・中川・下関村庄屋中舟寄呼寄候而十七日切之

御金之義申付

同十六日

一轟木村の金子四両請取証文ニ裏判仕置候

一米四石八斗 御門番半右衛門丑之切米・ふち米共ニ、御門番相

勤牢入又公事裁許之節者罷出、其節之御用随而相働可申候、尤

御門辺掃除以下可仕候

一米貳石貳斗 水夫三介丑之切米・ふち米、壺人ふちハ御勘定所

へ指上候而御ふち米被下筈、勤ハ方々御遣方其外御陣屋表之御

用可相働可申定、右半右衛門ハ御役人様方水を扱申筈二候
一牢屋敷貳畝六歩、此年貢米壹斗八升
右何れも町相場直段二而可相渡事

同十七日

一山三ヶ所 清王村 庄屋長百姓 印

代金米四石四兩貳分 かし主新屋宗兵衛

丑六月切米ハ三割、金ハ壹割四分

自分添判

一高八拾石内 貳拾五石 六左衛門 山室村 庄屋長百姓 印
貳拾五石 七右衛門 吉右衛門 三拾石

代金九兩丑五月中利足壹割

米屋助右衛門 仙右衛門様御裏判

一金三兩 青野木村 庄屋長百姓 印

此質高三拾石、丑六月十日切利足壹割半

仙右衛門様御裏判、かし主北金津長右衛門

一金壹兩 北村自分年貢金 五右衛門二渡

一金貳分 前谷村同断 市兵衛二渡

一山三ヶ所 金津助右衛門 清王村庄や長百姓

此金三兩、丑六月迄壹割貳分、仙右衛門様裏判

同十八日

一金拾兩貳分神田喜兵衛へ指上候而、右入置申証文入書仕判形いた

し候

十一月十八日

一錢百貳拾文数右衛門様を請取候、是ハ六月十八日二御泊り被成候
塩・噌・薪代請取申候

一大割□日過二相済割帳寄之写別紙二「」

一舟寄馬指覚兵衛上ヶ申二付、右切米二而五兵衛を相立申候、向後
ハ御遣被成候諸人足馬等之義御役人様方御判被成筈二候

一中勘定之義段々被仰渡候而今日舟寄を罷歸り申候

一北村八兵衛出火仕、七兵衛類、亥之刻右之通兩人持高書付中川村
人足貳人二為持、数右衛門様并二仙右衛門様へ御注進申上候

同十九日

一數右衛門様北村火事覚書御請取候由御返事被遣候

一金貳兩 金津吉右衛門 青野木村庄や長百姓

此質高貳拾石、丑六月八日切利壹割半

仙右衛門様御裏判被成候

同廿日

一組中指引割二村々庄屋長百姓不殘寄合被申候、吟味之上割合相済
申候

一金五兩金津助右衛門・十楽村彦四郎・又十郎、丑六月切壹割、此

質山三ヶ所、藤四郎様御裏判書かへ仙右衛門様御裏判

一村々庄屋長百姓中へ申渡し候ハ、当子中勘定惣金高ハ八分五厘之被仰渡二候間、其心得可有之候、村々小百姓まへせんきの事ハ重而委敷可申承り申候

一仙右衛門様ハ十七日切御金不足之者舟寄村へ早々遣し候様ニと被仰付候、其段村々吟味廿二日迄大方ニ相済、少々不足金之事相究申候

一仙右衛門様ハ子ノ年惣取立金辻之書付御かし被成候

一仙右衛門様ハ村々へ直之御廻状被遣候、十七日切之ゆたん之村ハ早々舟寄へ参候様ニと被仰越候、其御廻状此方へも参候

同廿一日

一金貳両 貸主新屋惣兵衛 東善寺村^{庄屋}長百姓

此質高拾石、丑六月切壺わり三分

右之質証文新屋宗兵衛方々へ金子貸申証文□違申二付、不審ニ存候得共今度御金ニ支申もいか、二候故、右ハ惣兵衛と約束□而我等添判いたし候、惣兵衛方へも手かミ遣し申候、重而吟味可仕候由庄兵衛ニ申渡し候

同廿二日

一銀拾壺匁三分、亥冬ハ子夏迄指引用市兵衛ハ請取分、内八匁五分式厘ハ亥御年貢不足市兵衛ハ可立分、式匁三分ハ子夏盛銀市兵

衛ハ可立分、残四分八厘市兵衛過上銀錢ニ而遣ス

一金五両轟木村式拾兩借金之内北野村久左衛門ニ為持御陣屋へ指上候へハ、右借証文ニ用書ニ被成候由喜兵衛様ハ御返状被遣候

一銀拾六匁九厘、是ハ国影村戌年御廻米之□匁銀之内戻り銀、六ヶ村之分ハ我等方へ壺所ニ請取置候処、其節布目彦兵衛と指引ニ可仕由相断置候処、今日国影村庄や藤兵衛手紙を為持、弥次右衛門と申者庄や印判為持右之銀子ニ取ニ参候ニ付、金壺分^銀錢壺匁九厘弥次右衛門ニ相渡し申候

一北村火事之儀数右衛門様へ申上候へハ、廿四日ニ北村庄や其外指そへ御侘言ニ遣し候様ニと被仰越候

一笹岡村十七日切之御割金大分不足ニ付、廿日ニ庄や長百姓・五人頭舟寄へ参候様ニと仙右衛門様御はいふ被遣候処、廿日ニハ前谷村ニ而指引割仕候ニ付参不申候処、廿一日之暮合ニ舟寄へ参候ニ付、宗左衛門牢舎被仰付候由、九右衛門ハ御金滞申ニ付牢舎被仰付候

一藤四郎様御普請所見分ニ御出被成候而今晩布目ニ御泊り、廿四日ニハ番田・重義ハ我等与下へ御越候由申来候、御手紙有

同廿三日

一矢地村善右衛門・七郎右衛門子吉三郎・清兵衛・清左衛門、舟寄ニ而籠舎被仰付候由、長百姓ハ御金滞申由庄屋共御配符ニ廿日ニ被遣候処、尤廿日ニ前谷ニ而指引割ニ而不参候共廿一日ニ不参仕、

重而御配符ニ而廿二日ニ参候故籠舎被仰付候由

十一月廿四日

一 銀貳百四拾四匁九分中川村子春御普請入用銀、□拾六匁壹厘御かし銀殘、銀貳拾五匁四分九厘戌年御廻米子夏戻り、銀^(拾)銀貳匁、夏割之内五郎左衛門引かへ、銀三分貳厘亥御年貢指引殘銀、銀拾貳匁八分子冬割之内扣物代銀^(符)ノ三百拾拾匁貳分貳厘、内八拾八匁貳分五寸廻竹二百拾本自分^ろ出し渡ス、三拾五匁九厘子夏割、百拾五匁五分三厘子冬わり、貳拾七匁貳分四厘自分かし銀^ノ貳百六拾貳匁六厘、殘三拾六匁三分六厘過上銀、指引さん用相濟

一 田中村銀拾三匁九分五厘丸太三拾壹本、銀拾四匁五分四厘丸太五拾六本、銀六拾貳匁七分貳厘小から竹七百八拾四本、銀拾四匁八分^(マ、)厘此米三斗貳升五合、^ノ百六匁五厘、子春御普請入用

一 矢地村銀百三匁貳分八厘子春御普請銀

一 藤四郎様布目村^ろ御越被成御普請所御見分、村々轟木村伏樋壺ヶ所、菅野村窪田之川除壺ヶ所、地ヶ谷溜井底樋壺ヶ所、宮谷伏樋、青野木村伏樋壺ヶ所、北村伏樋壺ヶ所、中川村川除三ヶ所、底樋壺ヶ所願上候、御見分ニ而前谷村ニ御泊り

一 仙右衛門様^ろ早々中勘定相究可申候、村々詮儀相濟候ハ、可申越候、十七日切不足村々御詮儀可被成由之御狀被遣候

一 北村五兵衛・田中村徳右衛門を以北村八兵衛寺入之御侘言願狀を以申上候へハ御赦被成候、則数右衛門様御手紙有

同廿五日

一 藤四郎様、伊井・清間^ろ舟津へ御歸り被成候

一 山室村迄罷出、菅野・山室・宮谷・青野木・西方寺・十楽・清王・高塚・新用・馬場・東善寺拾壺ヶ村中勘定相究申候

一 東善寺村当廿一日ニ新屋宗兵衛方^ろ金子かり申由証文ニ添判願申事吟味仕候へハ、宗兵衛^ろ金子かり不申候ニ紛無之候ニ付急度詮儀可仕由申候へハ、与中庄やを以わひ事いたし候ニ付証文取置候

一 十七日切不足金廿九日ニ舟寄へ持参候様ニと申村々申渡し候

一 割銀・与頭給共ニ来十日^ろ内ニ相濟申様ニと申付候

一 中勘定ニ付散田百姓切高之義ハ廿九日ニ書付出し申様ニと申付候

同廿六日

一 田中村・北野村・谷畠村中勘定究申候

一 金壺両三分轟木村貳拾両金之内請取、遣彦兵衛ニ而

一 山室村^ろ布目村へ参候而中勘定諸事之相談いたし候、十七日切御金不足之村々廿九日召連参御侘言可申上由彦兵衛と申合候

同廿七日

一 円水請判之義ニ付三国へ参、請判・寺判共ニ判本見届証文申罷有候^(大宮茂富・福井藩金津奉行)処ニ、菅野村十右衛門金津大宮彦右衛門様へ行違慮外仕御立腹

二 候間、侘言ニ罷出候様ニと申金津大文字や源介^ろ申越候ニ付、

明朝可参由返事申候

同廿八日

一金貳分使出村甚左衛門ニ為持円水宿へ渡ス

一菅野十右衛門義ニ付中川半兵衛三国へ参候ニ付同道、□□金津へ

参源介十右衛門ニ逢様子承、三田村六右衛門殿へ参段々御侘言申

上候へハ、御聞届候而御礼申上罷歸り候

一下関村之中勘定極ニ金津へ直ニ参候

高三百六拾三石四斗

一銀拾貫百三拾五匁^(マ)四厘

下関村惣金辻

内

高百拾石八斗五升八合

八貫貳百五拾七匁七分八厘 与三兵衛組

高貳百五拾貳石五斗四升貳合

壹貫八百七拾七匁□□貳厘 利兵衛組

一金三分轟木村介右衛門へ請取

一府中丸屋利右衛門、出村平七連参候

十一月廿九日

一下関村中勘定相極直ニ舟寄へ参、十七日切御金不残村々へ持参為

致申ニ付、今日迄遲滞之儀御侘言仕候

一油壺升ニ付銀三匁貳分四厘 子之年

一 米 壹 石 二 付

銀三拾七匁貳分
銀三拾五匁貳分

同年

同十二月朔日

一笹岡宗左衛門・九右衛門牢舎被仰付候処、宗左衛門長牢被仰付候

へハ御取立其外御用ニ支申義ニ付、御侘言仕入かへ申ニ付、五人

頭五人・長百姓貳人都合七人として鬪取可被仰付候処、五人頭共

方へ願□候ハ、長百姓共牢舎被仰付候へハ諸御取立ニ支申候間、

長百姓共ハ御除候而五人頭共鬪取被仰付被下候様ニと願申ニ付、

五人組共鬪取仕候処、五左衛門取当り申ニ付宗左衛門と御入かへ

被成候

一矢地村七郎右衛門子吉三郎・清左衛門・善右衛門・清兵衛、庄や

共御入かへ被下候様ニと申上候へハ、親七郎右衛門宿ニ罷有御用

勤申義ニ候へハ其通ニ可閣可申候、善右衛門五人頭ニくし取為致

可申由ニ而、くし取被仰付候へハ三郎右衛門取当り善右衛門と入

替り申候

同二日

一御用仕廻候而舟寄へ罷歸り候

同三日

一御年貢中勘定之義ニ付笹岡村へ参段々申渡し、矢地村へ参詮儀、

泊り申候

同四日

一矢地村の金津へ参、菅野村十右衛門事三田村六右衛門殿へ御礼申上候、其序矢地村善兵衛と若藤屋出入の御物語いたし候

一平野屋弥次右衛門・善兵衛・若藤屋出入之事あいさついたし、相済しけれ候様にと申候

一八九郎様江戸へ先月十二日二道中ご無事ニ而御着之由御廻状被遣候を、後山の参候付布目へ遣し申候

同五日

一谷畠村五十郎・太兵衛と申者散田ニ可仕由庄や長百姓断ニ参候ニ付、内散田ニ可仕候哉又ハ御公義散田ニ可仕候哉、村ニ而相談仕方々かり方之者共ニ相断候様にと申付候

同六日

一矢地村へ参御金・籠入之せんき仕、東善寺村へ参五郎兵衛上ヶ高之吟味仕申渡候□ハ源右衛門貸方ニ御高切高二而取可申候哉、又ハ庄や長百姓連判借之銀子も壺所ニ源右衛門請込、五郎兵衛高五石本不残源右衛門取可申候や、此両用吟味仕候様にと利兵衛ニ申付候

一谷畠村へ参五十郎太兵衛上ヶ高之儀吟味申付三国へ参候

同七日

一矢地村十七日切之御金相済□ニ付、庄屋長百姓并ニ権右衛門舟寄へ遣し候て籠入御佗言申上出籠いたさせ申候

同八日

一半左衛門・吉左衛門・麦屋太兵衛と指引さん用仕候

同九日

一谷畠村へ参右兩人上ヶ高之吟味仕候処村中申候ハ、太兵衛持高九石、借金も少からく候故方々貸主方へ断を申年符ニ仕、高ハ村支配ニいたし、年々他借を以年符を立、後々ハ御高□申様仕度候ニ付、太兵衛高主ニ可仕候へ共貸主共ニ立合不申候へハ年数相知不申候間、相究候而重而証文可指上由、五十郎持高五石本、是ハ借金も大分ニ候へハ高借銀割付、方々貸主方へ高相渡し可申候、若かし主共高望無之由申候ハ、借銀を捨させ残高五十郎為持置可申由村相談ニ付、重而極次第証文可指上由

十二月十日

一東善寺村五郎兵衛持高五石本、借銀ニ割付候て源右衛門貸銀之分源右衛門高取申候、庄や長百姓連判かり之分ハ、庄や長百姓方へ高取候而、来丑春の戌暮迄十年季ニ相究証文取申候而罷歸り申候

一当月十日納并廿日納金之義、先達而取立衆の廻状被遣候得ハ、
弥以無油断右之通可被相納候、其節於遲滞ハ可為越度候

一先月廿四日御年貢金相納候、掛屋忠兵衛手形引かへ申候間、
明七日・八日兩日之内ニ急度持參可申候、少も不念有之間敷候

子十二月六日

前谷組

神田喜兵衛印

村々

右之通組下村々へ相廻候条、弥吟味之上此廻状可被相返候、以上

前谷村与頭

二郎左衛門殿

一其村々当月十日切請合金無油断可被相納候、少二而も日限延引
又ハ納不足有之村ハ急度可申詮儀候間、村々惣百姓手前能々吟
味いたし、若不心得之百姓有之ゆたん二相ミへ候ハ、其もの
めしつれ早々此方へ可参候、村せんきふさた二いたし、十日切
滞候ハ、庄屋長百姓可為越度候、此書付披見之上村下ニ致印判
次々へ早々相廻シ、留り村の可被相返候、以上

子十二月六日

前谷組

村々

小木仙右衛門印

其方組下当日請合之金無油断相納候様ニ廻状遣し候、尚又其
元の堅被申渡、右日限遅々なく相納させ可被申候、十一日二ハ
我等其元へ罷出手形改可申候、左様ニ相心得可被申候、以上

十二月六日

前谷村

次郎左衛門殿

右式通之御廻状村々廻り候て此方へ持参

一□頭中御扶持代銀重而請取可申由ニ而預ヶ置候

*一金貳両山室村の請取、内百拾三匁七分貳厘諸色ニ請取、残六匁貳
分六厘預り銀有

一金壹両銀八分四厘菅野村の諸色ニ請取指引相済申候

一金壹両貳分銀三匁五分六厘、宮谷村の諸色ニ請取指引相済申候

一金壹両新用村の請取、うち五拾六匁六分八厘諸色ニ請取、残而銀

三匁三分貳厘預り有

一金壹両壹分銀五匁四厘諸色銀ニ請取指引相済申候、馬場村さん用
相済申候

一金壹両貳分銀壹匁七分八厘東善寺村の諸色銀請取相済申候

一金三分北野村の請取、内四拾四匁七分貳厘諸色銀ニ請取、残銀貳

分八厘せにニ而返し指引相済申候

一金壹分西方寺村の請取指引算用相済候

一下関村庄屋共を以丸岡被仰遣、助右衛門死骸下関村連參可申候間、

死骸請取候趣重而御断申上候様ニと、藤四郎様の昨日之御返事被

遣候

一菅野村久右衛門娘、加州江沼郡長井村六左衛門方へ縁ニ付申二付、

細呂木口通手形之義願申上候

*_(付紙)

一前方徒旦那被仰渡候各御扶持方米、可相渡候間、来ル十日二陣
屋迄可被参候、為其如此二候、以上

子

十二月七日

神田喜兵衛印

舟寄村与頭善右衛門殿

東長田村与頭源左衛門殿

下兵庫村与頭武兵衛殿

布目村与頭彦兵衛殿

前谷村与頭次郎左衛門殿

後山村与頭茂右衛門殿

右之御廻状為後証之後山茂右衛門ニ預り置申候

十二月十三日

一金壹分銀六匁五分五厘前谷村指引算用殘銀、外ニ金貳分銀八匁貳分八厘市兵衛ニ相渡久、都合金壹兩分自分御年貢ニ上納通ニ付請取申候

一米拾八石貳升八合、高塚村弥三兵衛方金津弥次右衛門方へ子暮可立分、本銀四百匁拾六年以前酉年本銀

一金壹兩下関村利兵衛を請取、内銀壹匁五分九厘亥暮不足銀、拾壹匁六分貳厘子夏不足、殘四拾六匁七分九厘子暮分ニ入

一銀貳百九拾五匁四分貳厘大割・与割・与頭給、外ニ銀六拾三匁三分三厘内割、銀三匁六分□御年貢不足、都合銀三百六拾貳匁壹分五厘、□拾□匁舟寄へ出し物代、拾匁八分七厘夏入与三兵衛過銀、貳百四拾匁与三兵衛入、四拾六匁七分九厘利兵衛入、都合入銀三百拾四匁三分六厘、殘四拾七匁四分九厘不足

一高貳拾石新屋惣兵衛、借主新用村^{庄や}長^百生

此代金三兩丑六月切利足壹割半

自分添判

一金四兩貳分、使前谷村吉介ニ而御陣屋江指上、右轟木村分貳拾兩預り金最前ニ三度ニ指上相澄候ニ付、預り手形御返シ被成候、十一月廿二日ニ指上候五兩之金子、御てかミ喜兵衛を被遣候ニ付、其御てかミ重而返シ申様ニと被仰越候

一森川安右衛門与下妙金嶋村九郎大夫、たはこ代銀之儀ニ付金津町二郎左衛門家をこハち売申由、数右衛門様へ段々御内意之てかミ進上いたし候へハ御返事有

一宮谷村義太夫、同村善兵衛切高之帳面持参仕候

一金津平野屋弥次右衛門、高つか村弥三兵衛ニかし方之儀断ニ参候一下関村与三兵衛・利兵衛参候而、助右衛門死骸昨十二日ニ丸岡を請取参候、弥雪風倒紛無御座候ニ付、舟寄ニ而証文指上候由断申来り候ニ付、証文ハ此方ニ而取不申候

一御取立御用ニ仙右衛門様後山へ御越之由、善兵衛方を被申越候
一金壹兩壹分青野木村を請取、内壹兩銀拾壹匁貳分四厘諸色銀ニ請取、殘而三匁七分六厘錢ニ而返ス

一金壹兩銀五匁三分五厘清王村諸色銀ニ請取相済申候

一金貳兩銀貳匁壹分七厘高つか村を諸色銀請取相済申候

一金貳兩谷畠村を請取、殘而銀六匁六分六厘不足□□帳付置申候

同十四日

一金三兩壹分十楽村庄兵衛・青野木村^{庄や}長^百姓

此質高三拾石丑六月切利壹わり半

自分添判

一金貳拾三両河内屋二郎右衛門ゝ、家来之吉兵衛米買ニ罷出此辺ニ居可申候間、右之金相渡しくれ申候様ニと被申越候ニ付而、貳拾三両之金子預り置申由返事遣シ申候

十二月十五日

一右貳拾三両之金子吉兵衛請取申候

内拾壹両吉兵衛請取申候

拾貳両十二月十九日吉兵衛請取

一後山へ参仙右衛門様へ与下村々取立候段々申上、村々へ御配符被遣候

一清間村久左衛門、去年之下シ田年貢之事茂右衛門殿へ御断申上候
一銀四拾貳匁九分八厘、北村五兵衛立合指引算用相済銀子請返申候

同十六日

一宮谷村義太夫、清右衛門・善兵衛と申者召連参候而、持高切高ニ仕候由断申ニ付証文を段々吟味仕候処、証文之上相違無之由善兵衛申ニ付、切高年季証文ニ判形いたし遣し申候、此方へも証文取置申候

一山四ヶ所金津宗兵衛、矢地村善右衛門
助右衛門

此金貳両丑六月切利壹わり半

自分添判

一高拾三石三斗三升四合 菅野村次右衛門

内

五石 戌春の刁幕迄五年季酉十二月証文

代金貳両 小木平太夫様御裏判有

六石 子年の辰ノ年迄五年季亥十二月廿一日

代金三両 右貳口貸主 桑原五右衛門

貳石三斗三升四合 貸主 桑原五右衛門

此貸金五両

外
当御年貢明有

右之通残高二大分借金有之ニ付跡々二通質物高打込ニ仕、惣高拾三石余ニ拾両之代金ニ而、只今又年季相究申度との口入清右衛門願ニ候へ共、貳石三斗余之残高二而貸申義ニ候へハ、打込ニ成申間敷と仙右衛門様被仰候ニ付、其通申付候

同十七日

一仙右衛門様御取立御用ニ後山村の此方へ御越被遊候ニ付、村々庄屋長百姓明日被参候様ニと申触候

同十八日

一金壹匁銀九匁四分三厘、十楽村の諸色立銀ニ請取相済申候

一村々庄屋長百姓呼寄御金上納手形相改、中勘定之上十日切・十九

日切兩度打込、今日迄之引残廿三日切相定証文取申候

一 菅野村次右衛門残り高・かり金共ニ桑原村五右衛門預り高二仕箒

二 相済候由、十右衛門・清左衛門断ニ参候

一金三分銀三分式厘、矢地多右衛門を指引残銀請取相済申候

一金式分下関与三兵衛を入、使安兵衛ニ而

十二月十九日

一 十楽村作右衛門と申者持高同村太右衛門方へ質物ニ書入申二付、
代金元利を以請出し可申と申候得共、請出させ不申候と断二付、
庄やを以申候様ニとはいふ相添作右衛門返し申候

同廿日

一 青野木・西方寺・十楽・清王・高塚・新用・馬場・東善寺・谷畠・
轟木・下関拾壹ヶ村人別之判形取申候

一 十楽村庄屋中作右衛門参候ニ付様子相尋候処、作右衛門持高当六
月切書入申候得共、請出し不申候ニ付流高之由五十郎申二付、流
高之証文ニ書かへ田畑太右衛門方へ請取不申、作右衛門支配ニ仕
候義難心得候、重而五十郎申候ハ、六拾八匁錢銀ニ而兩かへ仕候
処、只今六拾匁小判ニ候へハ兩かへ直段違有之由申二付、小判ハ
小判返しニ仕高ハ請させ可致候間、庄屋中噺申様ニと申遣し候

一 仙右衛門様今日後山へ御こし被成候

一 銀拾匁八分九厘盛銀之内請取申候

同十二月廿一日

一 中勘定納残り廿三日切之村々判形証文、仙右衛門様へ指上申候

一金六兩式分、貸主新屋惣兵衛矢地村伝兵衛
請入庄や長百姓判

此高式拾石丑六月切利足壹わり

自分添判いたし候

一金式分、貸主金津助右衛門矢地靈順
庄や長百姓判

此山式ヶ所 笹ヶ谷半分・長畑半分

丑六月切壹わり半、自分添判仕候

一 宮谷・山室・菅野・矢地・中川・田中・北野・北村・前谷九ヶ村
人別帳判形取申候

同廿二日

一 清王村九右衛門畑を十楽村之者三人二下し候へハ、右年貢米を十
楽村十太夫方へ清王村二郎右衛門ニ貸物有之由、二郎右衛門持高
を九右衛門取候而支配仕候ニ付、十太夫方へ押申由断九右衛門方
へ申付、下シ畑御年貢米を押へ申義難心得候、御年貢米ハ早々相
済候而、其外出入候ハ、可申出候、ヶ様ニ申遣し候処年貢米相済
不申候ハ、請作人三人共ニ召連参候様ニと、十楽村五十郎方へ配
符遣し申候

一 福居殿様御官位御昇進之御祝ニ金津へ参候へハ、三田六右衛門殿
ニ而若藤屋と矢地善兵衛出入之事御申二付、(若)藤藤屋方へ佗言申候

得共聞入無之由ニ候ヘハ、此上ハ舟寄ヘ善兵衛召連參候而様子申上、右之高山為相渡可申と申候得ハ、重而六右衛門殿御申候ハ、何とそ少色を付候而侘言いたさせ可申候、若藤屋方へも内証を以宥可申と御申ニ付、成ほと矢地村之者共ニ申付何とそ相談為致可申と申談候

同廿三日

一金津平野屋弥次右衛門方へ參候而、矢地善兵衛・若藤屋出入之事昨日六右衛門殿ニ而段々申上候間、矢地村庄や長百姓・善兵衛明日遣し可申候間何とそ事済申様ニと申合、それハ矢地村へ參候而右之段々申聞せ罷歸り申候

同廿四日

一金式両銀拾四匁八分五厘、笹岡宗左衛門ハ諸色指引相済申候
一金壹両轟木村ハ入、内拾六匁八分九厘内わり銀取、殘四拾三匁壹分壹厘大わり・与わり・与頭給銀之内ニ請取申候

一田中村七右衛門請田年貢米相済不申候由兄市兵衛断ニ付、七右衛門請田年貢米ハ早々相済し候様ニと申付候ヘハ、^(胴)樋之義ニ付市兵衛と出入有之由申ニ付、庄や長百姓共扱相済し候様ニと申渡し候

一下関村与三兵衛御廻米三表出村平七ニかし申由断ニ參候、重而平七預り証文を取与三兵衛ニ相渡し可申由申候

一矢地善兵衛金津若藤屋方わひ事ニ參候付、平野屋弥次右衛門方何とそ相済くれ候様ニと書状、并善兵衛・源兵衛田畑下し方々々借金・借米目録共ニ遣し申候

一青野木村善五郎召連切高証文を持孫四郎參候ニ付、善五郎二段々吟味仕候得共何之申分出入無之由申候

一門松八本
御役人様方四軒分

是ハ長四五尺

一枝竹式拾本
同断

是ハ式三寸廻り

右ハ後山与右衛門出し可申由茂右衛門殿ハ被申越候

一門松式本
御門前

是ハ長七八尺

一枝竹五本
同

是ハ三四寸廻り

一杭木三本
同

是ハ長八尺末口壹寸四五分

右ハ中川村へ出し候様ニと申遣し候

右之通後山・前谷両与ハ出し候様ニと舟寄善右衛門殿ハ被申越候ニ付、明後廿六日ニ持參候様ニと申遣し候

一下関村長五郎高出入訴狀上ケ申候、庄三郎口書取申候

十二月廿五日

一 船寄参候而御取立之義仙右衛門様へ段々申上候

一 半米納郷藏預り村々証文仙右衛門様へ指上ル

一 笹岡村牢舎之者出牢証文仙右衛門様へ指上ル

一 人別帳式拾弍冊藤四郎様へ指上ル

同廿六日

一 舟寄へ善右衛門へ戌子迄三年之盛銀指引目録善右衛門ニ相渡し、不足金拾両善右衛門ニ渡ス

一 与頭中寄合被申ニ付内割金出し合方々へ配り申候、布目彦兵衛名代ニいへよし村義右衛門罷出候、自分立合下関与三兵衛・中川半兵衛罷出候

同廿七日

一 舟寄ニ而歳暮御礼申上罷歸り直ニ本庄江参、竜雲寺様・福田寺様へ御布施指上申候而宿罷歸り候

一 笹岡村請合金不足ニ付、宗左衛門舟寄ニ御留置被成候ニ付、笹岡村長百姓共はいふ兩度遣シ候

同廿八日

一 廿五日舟寄を宿へ状遣し候処菅野村ニ滞申ニ付、人足あるき呼寄せんきいたし候

同廿九日

一金壹両新屋惣兵衛 矢地村 武兵衛
庄や長百姓

此質高四石四斗四升八合 六月切壹わり四分

自分添判いたし候

一 矢地村善兵衛、金津若藤屋弥次兵衛と出入之事、米五表ツ、九年之年符ニ而相済申筈ニ平野屋弥次右衛門扱ニ而相済、双方を仮り証文を弥次右衛門取候而、本証文来春相極可申定ニ候と善兵衛申参候ニ付、弥次右衛門方札状遣し申、三田村六右衛門殿へも為断書状遣し申候

一 下関長五郎高出入村ニ而噉ニ成、相済候由与三兵衛・長五郎断ニ参候ニ付相済候由証文取、右長五郎指上候訴状返し申候

一 清王村九右衛門下し畠年貢米之事相済候由、十楽村五十郎断ニ参候

十二月晦日

一 高六石五斗四升四合 矢知村 仁介
庄や判
長百姓

代米式拾式表 但四斗入

丑年を巳年迄五年季貸 新屋惣兵衛

自分添判仕候

一 轟木村請合不足之義、来正二月中ニ相済可申と慥ニ請合申候
一 矢地村請合不足式分来正月中ニ指上可申由、慥ニ七郎右衛門方之不足ニ候

請取申御賄雜用銀之事

一米三升 御上下式人、子十二月十七日之夕も同
廿日之朝迄日数三分御扶持米

此代銀壹匁五厘 但壹石ニ銀參拾五匁ツ、

一錢百貳拾文 右三分木錢

一錢百四文 塩噌・菜・大根代

右者拙者と下村々御取立為御用御逗留ニ付、為御賄方入用と請取
申候、此外入用之事少も無御座候ニ付組下村々へ少も割懸ケ不申
候、以上

元禄九年子十二月廿日 前谷村
次郎左衛門 印

小木仙右衛門様

右ハ壹日を銀壹匁五分積りニ仕銀子請取候

一高五石山三ヶ所 矢地村
権右衛門

此代金四両、かし主同村善右衛門

丑ノ年々戌年迄十年季之証文ニ自分添判いたし候